西垣文庫
文庫10
7228

戰時繪葉書
柏陽畫報

文庫10
7228

靖國文庫

大正五年三月某日 賀茂神社社司
長谷川恒夫氏ヲ予ノ寓ヲ訪ハレシ時予ノ
戰役紀念品蒐集ヲ深ク賛セラレ其ノ
秘藏ニ係ル戰時歸外ヲ割愛シテ
贈ラル 戰時ニ於ケル歸外ガ如何ニ國
民ノ血ヲ躍ラシメシカヲ思ヘバ實ニ好
箇ノ紀念タラズンバアラズ然モ今日ニ
於テ之ヲ得ルコト望ムベカラズ 只憾ラク
ハ戰役中全部揃ハザルコトナリ 今茲ニ
裝幀シテ家寶トナシ永ク子孫訓
育ノ料ニ資セントスルニ方リソノ由来
ヲ記スト云尓

大正六年七月於庄内嚢
隆得 板 愈良謹識

明治卅七年二月十七日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（十七日發）

◎暗夜旅順を襲ふ　東郷司令長官より海軍省に達したる電報に依れば去十三日の夜我水雷驅逐艦二隻は大風雪の暗黑に乘じて旅順口に向ひ旅順砲臺露國艦隊よりの砲擊を受けたるにも拘はらず露國艦隊（此間數隻ある由なれども電文不明）に對し水雷を發射し確かに爆烈を認めて無事歸着したりと

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

一号

(明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可)

明治卅七年二月二十日

松陽新報第壹號外

二月十七日 明治卅七年

松陽新報第壹號外

(明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可)

東京電報 (二十日發)

◎露帝の憤怒 倫敦發電報によれば露國皇帝は自軍の敗報に接して憤慨措く能はず非常に日本を誹謗して激烈なる復讐をなすべしとの宣言書を發したりと

發行人兼印刷人 原 豊次郎　編輯人 吉田 美朝

發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

東京電報 (二十日發)

◎露國艦隊の出動 (出動の理由は文面不明なる由)

無論なる艦隊の出動なるべし

露國艦隊の出動 (出動の理由は文面不明なる由)

露國艦隊は昨日の朝旅順口を向かひ出動せり

露國艦隊の出動 (出動の理由は文面不明なる由)

露國艦隊は昨日の朝旅順口を向かひ出動せり

發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

發行人兼印刷人 原 豊次郎　編輯人 吉田 美朝

明治卅七年二月二十日

松陽新報第貳號外

東京電報

（二十日發）

◎露艦沈沒と水雷布設　在上海小田切總領事發電公報によれば十三日露國砲艦ヂギット（一三三四噸）は旅順口に於て自國布設の水雷の爲め沈沒せりとの說あり又大連灣に於ける布設水雷工事は十五日までは完成すべしと

◎親任式　本日午後宮中に於て左の如く親任式を行はせらる

任内務大臣　男爵　芳川顯正

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社
發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝

東京電報

（二十日）

◎露帝の詔勅　露國皇帝は自軍の

三号

4

明治卅七年二月廿一日

松陽新報第貳號外

東京電報（二十一日發）

◎牛莊の騒擾

其筋に達したる電報に依れば牛莊に於ては本邦領事引上の後日本兵遼河口に迫れりとの風説盛ふして露國官民の混雑狼狽せる事名狀すべからず婦人の如まは領事館に至りて保護を依頼し商人は避難準備に忙しく露國紙幣は益下落して通用し難く各銀行にては取付盛にして支拂を停止すえに至りと

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年二月廿四日

松陽新報第壹號外

（明治三十四年十一月五日種第三郵便物認可）

東京電報

（二十四日發）

◎臨時議會

總選擧終了の後直ゝ臨時議會召集令を發し來月二十三日頃より十日間開會する事に內定せり

◎募債の好況

國債募集は非常に好況にして昨日各銀行の概算は四億ゝ達し殊ゝ二十五圓の小額面新設の爲め下等社會の募集ゝ應ずるもの尠からずと云ふ

◎英船露艦に追はる

英國商船コロンビヤは一昨日總州犬吠崎沖ゝ於て露國軍艦らしき巡洋艦に追跡せられ避難せりとの報告ありしも虛傳なりと當局者は語れり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四号

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年二月廿五日

松陽新報第壹號外

（二十五日發）

東京電報

◎浦港の糧食欠乏

倫敦發の電報によれば浦汐斯德にては昨今食料欠乏の爲軍人以外の者は悉皆退去を命ぜられ露國政府は糧食を窮んと苦心經營中なりと

◎邦人避難者

芝罘發電報に依れば本邦人避難者三百三十三人は英國商船に搭乘して二十四日當地へ着し其内二百五十人は即時長崎に向ひ出發せり

◎露國軍艦又出沒す

又〻露國軍艦北海道天塩沖合に現出せる旨各地方より北海道廳に向ひ電報あり

◎黑鳩將軍

倫敦發電報に依れば「クロパトキン」は策戰計畫準備に着手し來る三月中旬聖彼得堡出發極東に向ふ筈なり

◎中立强制と派艦

上海發電報に依れば兩廣總督は上海碇泊の露國軍艦に對し局外中立强制の爲め北洋艦隊の派遣を請求し最大巡洋艦二隻明日當地へ着す筈又米國東洋艦隊三隻も同時に來着のはず

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

東京電報（二十七日發）

◎旅順封鎖の公報　海軍省に達したる公報に依れば二十三日午前三時我が水雷艇隊は旅順口封鎖の爲め自ら運送船五艘を旅順港口に沈沒せしめ乘組人一同は二十五日午前十一時頃我艦隊と共に港外に進航して露國艦隊及び砲臺に對して砲擊を加ふる事十五分にして露國水雷驅逐艦一隻を打沈めたるも港口封鎖の効果少かりしが如し砲擊に於ては多少損害を與へ且つ港内を威嚇したるものと認む我艇隊の損害死傷無し

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年二月廿七日

松陽新報第貳號外

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

東京電報

（二十七日發）

◎日韓同盟條約

本日の官報を以て日韓國防同盟條約を發布せり其要領左の如し

韓國は日本の保護の下に獨立し日本は韓國に於ける軍略上必要なる土地を自由に使用する事を得

◎旅順口海戰公報

（上村第二艦隊司令長官より報告の要領）

我艦隊は二月廿三日夕旅順口閉塞の任務を有する特別運送船隊幷に其乘員收容の任務を有する水雷艇隊を放ち二十四日午前十時豫定集合点まで各驅逐隊水雷艇隊に會す運送船報國丸、武州丸、天津丸、武揚丸、仁川丸は皆自ら破壞沈沒し乘員は總て收容し得て無事驅逐隊、水雷艇隊も總て無事あり夫より驅逐隊、水雷艇は旅順口、大連灣及び鳩灣の偵察、襲擊を命せらる艦隊は二十五日午前七時豫定集合点にて之れに會す本隊は午前十一時四十五分より敵艦及び陸上砲臺に向ひ砲擊を始め敵も應戰し零時五分ノートウ井ツクまづ港内に遁れアスコルド、バヤーン續て港内に遁る此の分にては港口閉塞は効果少なかりしが如し各艦港内に向て砲擊を行ひ盛んに火焰の上るを見る砲擊十五分の後ち之を止めて引揚たり我巡洋艦は老鐵山附近にて敵の驅逐艦二隻を認め其一隻を鳩灣に窮追して之れを擊破せり我艦隊總て一の損害死傷なし（當縣廳着電）

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二号

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
（明治卅七年三月八日）

松陽新報第貳號外

東京電報（八日發）

◎浦鹽攻撃の公報 外務省は達したる公報に依れば浦塩斯德要塞司令官ワローチッよりアレキセーフ總督に對したる公報に曰く六日午前八時四十五分日本軍艦七隻はアスコルド島（烏港前灣の島）を現はれ正午頃浦汐斯德との間に出て砲彈の達せさる距離に於て砲撃を始めたり日本艦隊中出雲、八雲の二隻を認む其他の艦名詳ならず

◎特派大使 日露交戰に際し韓國皇室御慰問の御思召を以て侯爵伊藤博文を特派大使として差遣せられ樞密院書記官長以下六名隨行仰付らる

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

七号
9

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年三月十日

松陽新報第壹號外

東京電報（十日發）

◎浦鹽砲擊の公報（上村司令長官報告 海軍省着電）

日本艦隊は六日の朝結氷中浦汐斯德東口に達したるも露國軍艦を港外に見受けずバサルギン岬半嶋及びボスフオール海峽砲臺の射境を避けたる位置より北東リクガン砲臺の下に接近して午後一時五十分より約四十分時間接に射擊を以て港内に向ひ威嚇的に砲擊したる後引揚げたりこの砲擊は相應の効果ありしと信ず陸上砲臺には陸兵を見受けたるも更に應戰せず午後五時東口方面に當り黑煙の上るを見或は敵艦の出で來りたる如くなりしも烟は次第に消滅して判明ならず七日朝亞米利加灣スツレローク灣等を偵察なしたるも異狀無く正午再び浦鹽斯德東口に迫りたるも敵艦見るべからず砲臺も發砲せず夫より轉じてポシエット灣を偵察したるも敵見當らず

◎嘉山の露兵

或筋に達したる電報に依れば

我搜索の結果敵の騎兵四十嘉山に在るを認めたりと

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

八号 10.

九三号 11

松陽新報号外

東京電報（十三日發）

◎舷頭の花

去五日我艦隊は浦塩斯德攻撃に向つて進軍の途次寒氣激烈にして甲板艦側等一切氷結し石炭滓排出のパイプ閉鎖したるが爲め一同茫然たりしに機關兵曹濱崎敬三郎憤然として舷外に立ち氷結を破壞せんとして激浪に去はれ無殘の最後を遂げたり

◎旅大砲撃の結果

芝罘發電報によれば激戰の結果露國水雷艇一隻を沈沒し旅順砲臺及市街は皇丸の爲め損害甚しく又日本艦隊の一部は大連灣に砲撃し全市街は殆ど破壞せり露國艦隊には死傷者溺死者多數あり日本艦隊は無事引揚げたり

（記者曰く本電文中日時の明記なきを以て不明なれども去九日の東電に見えたる八日の夜より九日の朝に掛け旅順大連灣を砲撃したる結果ならんか）

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年三月十四日

松陽新報第壹號外

東京電報（十三日發）

◎旅順の敗狀

芝罘より海軍省着電に曰く旅順口老虎尾の威遠、鎮遠營の二砲臺は大破損をなして砲架顛覆せるものあり歐洲人市街には大火起り炎焔猛烈を極む舊市街の住民は悉く逃走し砲臺附近には陸兵居らずレドゲザンの背後水雷驅逐艦四隻ありしも煙擧らず艦上一兵なし

◎旅順口陷落

芝罘發電報に依れば日本艦隊は旅順口致命の大打擊を加へ其結果露國自ら市街を燒拂ひて退却し旅順口遂に陷落せり

◎優詔と祝電

今十三日東郷司令長官に對し例に依り水雷艇の動功を嘉賞したる優渥なる勅語を賜ふ又伊東海軍々令部長よりも鄭重なる祝電を發したり

◎負將軍の報告

露國艦隊司令長官マカロフ中將の報告に曰く露國水雷艇六隻は日本艦隊並に水雷艇と出遇ひ激戰の後ステレグシチー號は大破損を蒙りたるを以て本官はノーウ并ツク艦に乘りバヤリン艦と共に救助に努めたれども及ばず沈沒せる乘組員は或は溺死し或は捕虜となれり殘艇五隻は翌日入港せり露國の死傷者二十四名なり（十四日發）

◎國債應募確定額

公債募集確定總高四億五千二百二十二万五千七百七十七圓價格以上申込を控除し殘餘割り當り百分の四に當る

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

13

東京電報（十五日發）

◎勇敢なる水兵　十日旅順口攻撃の際我が漣艦が露國水雷艇ステレクシチーを追撃し捕獲するに當り一水兵敵艦に飛び乘り大喝一聲艇長を斫り付け起んとするを海中に蹶飛されたりと

◎旅順陷落別報　旅順老虎尾の砲臺は破壞され新市街は燒け敵艦には人影なく砲臺軍艦等は旗なく旅順全市死せるが如し（芝罘十二日發電報要略）

◎旅順及三山島の砲擊　四十人の支那人を乘せ十日夕刻青泥窪の西老虎灘を發し昨夜一時當港に入港せしジャンク船長の談に據れば九日朝より十日夕刻まで旅順方面に時々砲聲を聞きたり又露語通譯の支那人より聞く所に據れば日本艦隊は時々砲擊を加へたる後朝鮮海に退き又來りては砲撃しつゝありと云ふ船長は十日正午日本軍艦が三山島を砲擊し新設の望樓を破壞せしを目擊したり青泥窪附近の沿岸には海岸の支那人に遠く立去るべしとの注意を書き記したる木片近來諸所に標着す土人は之を見て日本艦隊が砲擊の爲め豫め流したるものなりと噂し居る由（十二日芝罘電）

◎露艦三隻行方不明　旅順砲擊の際露艦四隻勇を鼓して出港せしが一隻の外歸り來らざりしと牛莊より威海衛へ入電ありし由

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治九年三月十九日

松陽新報第壹號外

（此號外は本紙に再錄せず）

◎戰時特別稅率

戰時增稅種目ゴ關しては既に詳報せしが尙右非常特別稅率左の如し（但し新稅の分は全稅額、增稅の分は增加額を示す）

▲糖菓稅甲乙
菓子
砂糖を以て貯藏せるもの　一割
百斤ゴ付四十一錢八厘
百斤に付七拾三錢二厘

▲食鹽甲乙　五分

▲衣服及附屬品（絹製、絹入）　二割

▲酒精（每リートル）　三錢

▲石油甲乙
罐入　二錢
罐入にあらざるもの　二錢

▲粗糖　二割

▲糖蜜　二割

▲刺繡絹布類　二割

▲其他の絹布類　二割

▲諸製造煙草　一割

▲支那酒　十割

▲清酒　二割

▲民事訴訟用印紙
第一審訴狀（財產權の請求）
訴訟物の價格百圓迄五錢、同十圓迄十錢、同五十圓迄三十錢、同七十五圓迄三十錢、同百圓迄五拾錢、同二百五十圓迄五十錢、同五百圓迄五拾錢、同二百五十圓迄五十錢、同千圓迄二圓、同二千五百圓迄五圓、同五千圓迄五圓、同五千圓以上一千圓每に二圓
同上財產權の請求にあらざるもの五十錢
控訴狀　增貼
第一審に增貼すべきものゝ半額
上告狀　增貼
第一審に增貼すべきものと同額
仕拂命令申請（現行法は金額に拘らず二十錢を貼用せしむるも非常特別稅法は第一審訴狀の半額の印紙を貼用せしむるを目的とし其額と廿錢との差額を增貼せしむ）
期日變更等の申立　八十錢
証據調の申立等　五十錢
答辯書及右の外の申立又は申請　五十錢
裁判上の代理、非訟事件に關する申立又は申請　八十錢

▲商事非訟事件印紙
抗告、破產宣告の申立等　五十錢
破產手續（財團の價格）
其他の申立又は申請　五十錢
五圓迄十錢、十圓迄廿錢、廿圓迄四十錢、五十圓迄六十錢、七十五圓迄八十錢、百圓迄一圓二百五十圓迄一圓、五百圓迄四圓七百五十圓迄四圓、千圓迄五圓、二千五百圓迄十圓、五千圓迄十圓、五千圓以上一千圓每ゴ二圓

▲登錄稅（價格千分中增率稅）
不動產登記
法定家督相續　三錢
法定外の相續又は遺產相續　五錢
贈與、遺贈　十錢
以上の外の原因　五錢
夫登記所有權保存　三錢
華族世襲財產創設　五錢
船舶登記
法定家督相續　二錢
法定外の相續又は遺產相續　五錢
贈與、遺贈　廿錢
以上の外の原因　五錢
夫登記所有權保存　二錢
商事會社登記
合名、合資會社設立（出資額）　一錢
右の出資增加（出資額）　一錢
株式、株式合資會社（拂込額）　一錢
右の株式拂込（拂込額）　一錢
右の資本增加（拂込額）　一錢
債券發行（債券額）　一錢
支店設置（一ヶ所）　五圓
本支店の移轉（一件）　二圓
支配人の轉任等（一件）　二圓
登記事項の變更等（一件）　二圓
解散（一件）　二圓
清算人の選任等（一件）　二圓
前各項に付支店所在地に受る登記（一件）　五十錢
民法法人の登記　五十錢
設立二圓、事務所設置二圓、登記事項の變更五十錢、清算人の選任等廿錢、前各項に付主なる事務所以外ゴて受くる登記廿錢
商號等の登記
商號二圓、支配人の選任等二圓、船舶管理人の選任等二圓、無能力者又は後見人が商業を營む登記一圓、夫婦財產制の登記一圓、登記事項の變更等五十錢
前各項に付支店所在地ゴて受くる登記廿錢、
鑛業登記
試掘廿五圓、採掘五十圓、試掘訂正十圓
採掘訂正廿五圓、買受讓受廿五圓

◎政友會の決議案

政友會本部にては十六日午前十時より代議士代議員聯合協議會を開きたり出席者は代議士百三名、代議員三十四名ゴして大岡育造氏議長席につき總務委員松田正久氏說明員となり左の決議案を可決し十一時散會せり尙午後一時より大會を開く筈なり

決議案

現內閣は內外の諸般其當を失し憲政の前途甚だ憂慮すべきものあり是れ本會の屢屢其責任を明かにせんと欲せし所なり然れども今や宣戰の詔勅既ゴ下り國家未曾有の時期に際せり本會は軍國の急須を顧み從來の問題は暫く其時機に及んで之を解決するに讓り茲に變戰の目的を達するに必要なる軍費は斷然之が負擔を辭せざることを決議す

◎政友會大會

政友會にては十六日午後二時より大會を開き松田正久氏の推選ゴより江原素六氏議長席ゴ就き原敬氏開會の挨拶をなし夫より西園寺總裁登壇して一場の演說をなせりその大要左の如し

西園寺總裁の演說

諸君こゝゴ振古未曾有の時局に際し大會ゴ臨むは余の光榮とする處ゴして其名譽の大なると共ゴ責任の重きを深く感動を起さずんばあらず余は十九議會の大會にたいて十九會は議會あつて以來の容易ならざる議會なることを繰返し明言置きたり、その理由二あり一は政權の運用兎角軌道の外ゴ逸し憲政前途のため甚だ憂慮に堪へざるものあることこれなり他の一は即ち對露問題ありしなり而して十九議會は故あるくして解散せられたり當時解散の不幸なくんば諸君は今回の戰時財政案も愼重ゴ討議するの餘地ありしも今や短期の議會にたいて巨額の軍資を議せざるべからず然るゴ今や宣戰の大詔煥發せられ海軍は連戰連勝の奇功を奏し陸軍も亦方に敵地ゴ進みつゝあり宜しく舉國一致これが軍資を協贊せざるべからず然れども舉國一致は附和雷同の意味にあらず舉國一致を名として盲從するは斷じて不可ゝり政府も亦深く民心のある處を察し舉國一致の名を利用することなきを要す此際本會は瑣々たる法文の末に拘泥せず公明なる態度を以て全會一致軍資の負擔を辭せざることを希望す代議士諸君ゴして地方ゴ歸らば苟も本會員たるものは一人たりとも軍資負擔を辭せざるの決心あらんことを傳へありたし云々

それより議事に移り決議案を議し大岡育造氏は政府をして政費節減を斷行せしむることを決議案中ゴ加へんことを發議し一同休憩して各團體より一名宛の委員を選び協議したる結果結局大岡氏の修正意見は代議士會ゴ一任して豫算その他各議案にたいて實地に發表することゝなし再び開會決議案の原案を可決し三時半散會せり

◎憲政本黨の宣言

憲政本黨ゴては十六日午前十時より代議士、前代議士、評議員、代議員聯合會を開きたり犬養氏會長席ゴ就き大石正己氏は宣言書に關し說明的演說をなせり其要は第一に今日の塲合戰爭の目的を明にするとゝもよび其目的を達せざる限りは決して戰爭を休止すべからざるとを述べて其理由を說明し次ゴ此目的を達するためゴ必要なる戰時財政に對する國民の覺

三月廿五日　東京電報（廿五日發）　杜陽新報

東京電報

◎旅順攻擊公報（東郷司令長官報告）（海軍省着電）

我水雷艇隊は二十一日の夜間旅順口港外の任務を行ひ本隊は二十一日午前八時神

悟に論及し國民が幾多の苦痛を忍ぶも増税を甘んせざるべからざるは當然なるも増税は國家の一大事なるを以て愼重ゑ研究せざるべからずと論じ進んで戰時外交督勵監視の必要及び戰時における商工業者の覺悟ゑ對する意見を陳べ最後に本黨が今回の臨時議會ゑ對する態度ゑついては今日の場合擧國一致の精神に背き國民全体の同情を失ふが如きは策の得たるものにあらず然れども全然政府に盲從するは立法府の職責上爲すべきのとにあらず要するに此問題は調査委員の手によりて研究せらるべし又他黨との提携は主戰的政見の合したるものとは何れの黨をも排せざるものゝとの考を縷々切論して宣言書を黨議に付し異議なく可決し散會せりゝの宣言書左の如し

第一章　緒論

第一、立憲國の基礎を確守し全國民の國民的動作を發揮すべき事

第二、交戰の目的を明ゑして戰時の外交に對し之が監督を怠らざる事

第三、戰時の財政を審究し計畫遺算なきを期する事

第二章　武裝せる立憲主義

第一、國民當然の任務として軍費を供給し其他必要なる一切の後援を與ふる事

第二、外交財政其他に關し一層嚴密周到なる注意を以て當局者の施設を監督督勵する事

第三章　交戰の目的と外交の監督

第一、帝國は露國の東洋ゑ對する侵略を防制するを以て目的とす故に帝國は固より自から操守すべき範圍を越ゆざると同時に露國將來の侵略を防制するに足るべき必要の措置を講ずる事

第二、帝國は東洋永遠の平和を確正するを以て目的とす故に交戰の終局は必らず其目的ゑ副ふことを要し斷じて死灰再燃の憂なからしめんがため十分の處置を講ずる事

第三、帝國は自國の安全を確保するを以て目的とす故に帝國自衛の必要より當然收むべき保障を得て帝國利益の保全を期する事

第四、帝國は清韓特に滿洲ゑ於て列國と共ゑ產業上の利益を享有せんがため貿易及び事業上の自由を保護するを以て目的とす故に之を保護するゑ足るべき十分の策を講ずる事

第五、帝國は露國の非行を制し兼て東洋ゑ於ける文明の普及を以て目的とす故に列國と共に此協同の目的を共植するに努むる事

第四章　財政の監督

第一、戰費は公債を以て主とし增稅を以て之を補充する事

第二、增稅は之を戰費に限るの主義を明にする事

第三、戰費を特別會計とする事

第四、政府をして財政行政の大整理を斷行せしむる事

第五、臨事費及び地方費を刪減する事

第六、增稅の限度を定むる事

第七、濫費を戒むる事

第八、實業ゑ關し積極の方針を執る事

第五章　結論（畧）

◎憲政本黨大會　は十六日午後一時より同本部ゑおいて開會せり來會者は大隈總理以下各代議士、前代議士、評議員代議員等無慮百五十餘名、犬養毅氏會長席につき黨員の異動其他の諸報告あり後宣言書を議題ゝ附したるに異議なく可決し畢て大隈總理は起つて一場の演說をなせり其の要左の如し

大隈總理の演說

諸君、今日は軍國の危機にして邦家安危存亡の岐るゝ所なり余はコゝに於て一言せん抑も前議會は何の故か解散されたるか是言ふ迄もなく外交機宜を失し內政は繃縫を事とすとの彈劾によるなれども今日は既ゑ敵國と戰爭を開き所謂擧國一致の實を擧ぐべきの時なるを信するがゆゑに敢て既往のことを追咎せず先づ目前ゑ横はれる所の問題に向て力を注かざるべからず今日我國民の大目的は即ち戰爭の目的を完全に達するにあり而してこれゑ伴ふ大問題は（一）戰時における財政（二）戰時における外交（三）戰時ゑおける經濟是。り吾人は此等の諸問題について大ゑ研究するところなかるべからず而して尙進んでいへば吾人も勝敗の外一物もなきかぎり思ふに戰爭は驚くべき恐ろしき一種の破壞力を有す故に吾人は今日よりして既ゑ戰後の事、關しては大ゑ慮るところなかるべからず見ゑ戰爭の結果としては杜絕し國民の負擔は皆し東洋沿岸の通商貿易は農業は貧本を奪れ工業は失敗に歸し居るにあらずや戰爭は斯の如く國家の不祥たるを免れず故に戰爭は一日も速に休止せらるゝを望むシカも此休止は交戰國の目的を十分に達したる後ならざるべからず今我國は連戰連勝の勢を以て進みつゝあるも戰爭そのものゝ損害は非常なるものなりと信ずるや假ゑ敗戰の場合あるも負くるも兎に角この戰爭ゑ我國は勝つもとゝすゑ於てをやこの戰爭ゑ我國民は破壞せられたる損害を後に遺して恢復するの大覺悟なかるべからず余は斯くいふも敢て戰爭を悲觀的に契するにあらず他なし戰爭は恐るべき破壞力を有するも國民の大決心と大覺悟とに俟て初めて戰爭前の狀況よりも一層の好況を見るに至るべき場合あれば國民の大決心によりて直に逸はこれを公債に仰が油斷して一も二もなく財源の撰擇に熱中の餘り油斷なく財源の撰擇に千慮一逸を誤るゝ至るべし故ゑ諸君は細載の心の機收の方法を講究すべきなり諸君は細載の心の留意して此事を講究すべきなり諸君は細載の心の政府の計畫に絕對的反對をなせよとゝいふも必ずしも亦決して盲從すべきにあらざるも政府の計畫に絕對的反對をなせよとゝいふにはあらざるも亦決して盲從すべきにあらず出來得る限り當局者と間に講究を遂げ以て和衷協同の實を擧げざるべからず但しコハ平時にあらずして戰時なるが故に斯くいふのみ云々

大隈伯の演說畢るや一同南陛下萬歲、本黨萬歲、大隈伯萬歲を三唱し午後二時三十分散會したり

◎帝國黨大會　は十六日午後一時より大會を開き河村幹事開會の趣意を述べ谷澤代議士會長席ゑ着左の宣言案を議了したる後役員撰擧ゑ移り終て佐々委員長の演說あり陛下の萬歲を唱へ引續き散會を宣けり

宣言書

東亞全局の平和を保持するは我帝國の天職なり此の天職を全うせんと欲せば宜しく清國を保全し朝鮮を擁護せざるべからず我黨茲ゑ見る所あり夙に帝國主義を主張し積極政策を主張し鋭意素論の貫徹を圖るに勉めたり或は日清戰役或は北淸事變者くは今回の日露問題に對し聊か微衷を致し報效を期せるは蓋し之に外あらざる所なり抑も露國何者ぞ約ゑ背き信を破り擅ゑ滿洲を占領し朝鮮を蹂躪し以て東亞の平和を攪亂し其暴戾神人の共に憤る處なり我皇赫怒茲ゑ宣戰の大詔を發し玉ふ之れ誠に建國未曾有の大事にして國家安危の決する處なり苟も國民たるもの一意專心奉公の義を重んじ王師をして後顧の憂なからしめざるべからず今や臨時議會召集の大命下りて茲ゑ我黨の大會を開く想ふに今回の事國家の前途も亦未だ測り知るべからざるものあり局に立法の府にあるもの愼重以て眞責務を盡し一は以て叡旨を奉體して宸襟を安じ奉り一は以て國民の意志を代表して擧國一致の實を世界ゑ宣明せざるべからず國民內に一致して王師外に奮戰す今日の事唯之れあるのみ議會ゑ於ける戰時非常稅其他の法案に對する我黨の態度ゑ至りては之を代議士會の協議に一任し以て我黨の主義本領を發揮せんことを勉むべし之れ臨時議會ゑ對する我黨大會の宣言とあす

◎帝國自由兩黨領袖等の首相邸參集　十六日午前十時より首相邸に招待せられたる佐々、大野、林、駒林、尾崎、佐竹、白井、大竹、板東、鈴木、島田、井上、田口、横田、石田、三井の諸氏は各定刻迄に參集し內閣側よりは桂、小村、曾禰、山本、芳川、寺內の各大臣參會戰時財政計畫ゑ關する豫算說明書を配付したる後桂首相より一場の挨拶ありそれより各質問あり各相交々說明をなし正午午餐を饗し午後引つゞき熟議し二時頃散會せり

を扶植するに努むる事

第四章　財政の監督

第一、戰費は公債を以て主とし增稅を以て之を補充する事

第二、增稅は之を戰費に限るの主義を明にする事

第三、戰費を特別會計とする事

第四、政府をして財政行政の大整理を斷行せしむる事

第五、臨時費及び地方費を刪減する事

第六、增稅の限度を定むる事

第七、濫費を戒むる事

第八、實業を興し積極の方針を執る事

第五章　結論（畧）

◎憲政本黨大會

は十六日午後一時より同本部において開會せり來會者は大隈總理以下各代議士、前代議士、評議員代議員等無慮百五十餘名、犬養毅氏會長席につき黨員の異動其他の諸報告あり後宣言書を議題に附したるに異議なく可決し畢て大隈總理は起つて一場の演說をなせり其の要左の如し

大隈總理の演說

諸君、今日は軍國の時機にして邦家安危存亡の岐るゝ所なり余はコゝに於て一言せん抑も前議會は何の故に解散されたるか是言ふ迄もなく外交機宜を失し內政は紛糾を事とすとの彈劾によるなれども今日は既に敵國と戰爭を開き所謂擧國一致の實を擧ぐべきの時なるを信ずるがゆゑに敢て既往のことを追咎せず先づ目前に横はれる所の問題に向て力を注かざるべからず今日我憲政の大目的は即ち戰爭の目的を完全に達するにあり而してこれに伴ふ大問題は（一）戰時に於ける外交（二）戰時に於ける財政（三）戰時に於ける經濟是なり吾人は此等の諸問題について大に研究するところなかるべからず而して尙進んでいへば吾人も勝敗の外一物もなきあり思ふに戰爭は慎くべき恐るべき一種の破壞力を有す故に吾人は今日よりして既に戰後の事に關しては大に慮るところなかるべからず見よ戰爭の結果として東亞全局の平和を保持するは我帝國の天職なり此の天職を全うせんと欲せば宜しく淸國を保全し朝鮮を擁護せざるべからず我黨茲に見る所あり夙に帝國主義を主張し積極政策を主張し鋭意素論の貫徹を圖るに勉めたり或は日淸戰役或は北淸事變若くは今回の日露問題に對し聊か微衷を致し報效を期せるは蓋し之に外あらざる所なり抑も露國何者ぞ約に背き信を破り擅に滿洲を占領し朝鮮を蹂躙し以て東亞の平和を攪亂し其暴戾神人の共に憤る處なり我皇赫怒茲に宣戰の大詔を發し玉ふ之れ誠に建國未曾有の大事にして國家安危の決する處なり苟も國民たるもの一意專心奉公の義を重んじ王師をして後顧の憂なからしめざるべからず今や臨時議會召集の大命下りて茲に我黨の大會を開く想ふに今回の事國家の前途も亦未だ測り知るべからざるものあり局に立法の府にあるもの愼重以て其責務を盡し一は以て叡旨を奉體して宸襟を安じ奉り一は以て國民の意志を代表して擧國一致の實を世界に宣明せざるべからず國民內に一致して王師外に奮戰す今日の事唯之れあるのみ議會に於ける戰時非常稅其他の法案に對する我黨の態度に至りては之を代議士會の協議に一任し以て我黨の主義本領を發揮せんことを勉むべし之れ臨時議會に對する我黨大會の宣言とかす

◎帝國自由兩黨領袖等の首相邸參集

十六日午前十時より首相邸に招待せられたる佐々、大野、林、駒林、尾崎、佐竹、臼井、大竹、板東、鈴木、島田、井上、田口、横田、石田、三井の諸氏は各定刻迄に參集し內閣側よりは桂、小村、曾禰、山本、芳川、寺內の各大臣參會戰時財政計畫に關する豫算說明書を配付したる後桂首相より一場の挨拶ありそれより各質問あり各相交々說明をなし正午午餐を饗し午後引つゞき熟議し二時頃散會せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年三月廿五日　發行所　松陽新報社　松陽新報第壹號外

東京電報

（廿五日發）

◎旅順攻擊公報

（東郷司令長官報告海軍省着電）

我水雷艇隊は二十一日の夜間旅順口港外の任務を行ひ本隊は二十二日午前八時沖合に達し富士八嶋の二艦は港內に向て間接射擊を爲せり此際露國軍艦は漸次港外に出で砲臺下にありて運動し間接射擊をなしたるを以て敵の砲彈は多少富士艦の附近に達したれども一の損傷なし

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

十三号

15

を扶植するに努むる事

第四章　財政の監督

第一、戰費は公債を以て主とし增稅を以て之を補充する事

第二、增稅は之を戰費に限るの主義を明にする事

第三、戰費を特別會計とする事

第四、政府をして財政行政の大整理を斷行せしむる事

第五、臨事費及び地方費を刪減する事

第六、增稅の限度を定むる事

第七、濫費を戒むる事

第八、實業に關し積極の方針を執る事

第五章　結論（畧）

◎憲政本黨大會　は十六日午後一時

宣言書

東亞全局の平和を保持するは我帝國の天職なり此の天職を全うせんと欲せば宜しく清國を保全し朝鮮を擁護せざるべからず我黨茲に見る所あり夙に帝國主義を主張し積極政策を主張し銳意素論の貫徹を圖るに勉めたり或は日清戰役或は北淸事變若くは今回の日露問題に對し聊か微衷を致し報效を期せるは蓋し之に外ならざる所なり抑も露國何者ぞ約に背き信を破り擅に滿洲を占領し朝鮮を蹂躪し以て東亞の平和を攪亂し其暴戾神人の共に憤る處なり我皇赫怒茲に宣戰の大詔を發し玉

明治卅七年三月廿八日　（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（廿八日發）

天津發電報に依れば奉天よりの電報に曰く

◎第六回旅順攻擊

十六日朝日本艦隊は又々旅順を攻擊し露國艦隊は港外に出で暫時の中互に砲火を交へたりと露國の公報ありたり

倫敦發電報に依れば聖得彼堡より達したる公電に曰く

◎北韓占領（露軍退却）

鴨綠江平壤間に屯せる露國軍隊は日本軍四万の到着せるを見て鴨綠江南岸の堡壘内に立退き日本軍の前隊は安州博川四五哩の間を占領して堡壘を築き防禦線を張りしが露兵退却の際義州に至る五川の橋梁を破壞したるにより日本軍の前進困難ならんと

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

16

十四号

明治三十七年三月三十日

松陽新報第壹號外

◎旅順再閉塞の詳報

（二十九日東京發電）

我聯合艦隊は二十七日午前三時閉塞船四艘を水雷艇の援護に依り旅順港外に達せしめ敵の探海燈の照射を冒して港口に直航を計りて（此の間電文不明）に達したる時敵の爲に發見せられ兩岸の要塞及び哨艇より猛烈なる砲撃を受けたるも之に屈せず四隻は相踵で港口に向て突入し千代丸は先づ黄金山の西側に於て爆發沈沒し福井丸は尚ほ前進し敵の水雷に的中して同時に爆發沈沒し八彦丸は其左側に出で投錨して沈沒し米山丸は稍後れて港口に達し敵の水雷驅逐艦の艦尾に衝突し つゝ既に沒沒したる千代丸福井丸の中間を通過して水道中央に投錨の際敵の水雷に的中して沈沒したり猛烈なる砲撃の下に於て斯の如く勇壯沈着の任務を遂行したるは間然する處なし實に賞讃するに餘あり只遺憾なるは沒沒滊船の中間尚空隙ありて完全に通路を閉塞するを得ざるの一事なりとす今回閉塞を再舉したるは前回從事したる勇士の切なる願望を容れ將校機關士は前回の者を以て之に任じ下士卒以下は新志願者をもつて交代せしめたり（乘込員海軍中佐廣瀨武夫外下士卒三人は戰死し海軍中尉島田八造は重傷し海軍大尉正木義太大機關士栗田富太郎下士卒六人は輕傷を受け其他は悉く無事なり水雷艇にて戰死せる廣瀨中佐杉野兵曹長の最後は頗る壯烈なり杉野兵曹長は船底に於て爆發藥點火の際水雷に的中して戰死したるを以て廣瀨中佐は乘組員を悉く短艇に乘移らしめたれども杉野のみ見えざるため三度び船中を捜索したるゆ此時船體漸次沈沒して海水甲板上に達したるを以て止を得ず短艇に乘込み砲彈の下を退却の際一巨彈の頭部に的中し一片の肉塊を短艇内に殘して海中に墜落したるものにして其最期實に軍人として萬世不滅の好龜鑑を殘せるものなり閉塞船乘組員の保護收容に任じたる我水雷艇隊は猛烈なる砲撃を受けて午前六時に至る間に任務を遂行して毫も損害無く就中蒼鷹燕の二艇は敵の水雷驅逐艦に對して激戰し大破損を加へたれば敵は機關破裂して退却せり又黄金山下に敵艦の一隻の全く進退の自由を失ひ居たるを見たり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年三月三十日

松陽新報第參號外

◎東京電報（三十日發）

芝罘より海軍省着電に依れば廟島附近に於て蒸滊船繁榮丸は露國軍艦の爲め捕獲打沈められ日本人十名支那人七名捕縛せられたり

◎日本船打沈めらる

◎閉院式

本日帝國議會閉院式行はせられ優渥なる勅語を賜り明日貴衆兩院議員より御宴を賜ふ

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

十七ニ7
18

十六ページ

19

明治卅七年四月十日

松陽新報第壹號外

東京電報（十日發）

●馬賊鐵道を破壞す

依れば本月一日一千の馬賊バカソウ附近に於て蜂起し鐵道三個所を破壞し露兵之れと戰ひ死傷者露軍四百名馬賊二百名

ハルビンより歸着したる清國人の談話に

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年四月十三日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（十三日發）

◎鴨綠江口の衝突（海軍省着電）

我海門艦長は鴨綠江口偵察の爲め

海軍中尉山口喜一下士卒五名をして朝鮮漁船に乘込み目的地へ向け派遣せしめたり**十日**午後二時同一行は**敵兵七名**の右岸（北岸）より支那漁船へ乘して來るを發見したるを以て左岸に在りし我が**騎兵斥候**と共に水陸より射擊し少時にして**敵兵十名**は大漁船を以て來り**應戰**しつゝ**退却**し日本兵是を追擊せしかば**敵は上陸して逃走したり此交戰は約一時二十分間にして敵の戰死者一名負傷二名あり日本兵には死傷無し**而して敵の乘捨てたる漁船を檢するに實彈十個打殼四百發を殘せり此敵は騎兵にして同地監守の任にありしものゝと認めらる

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

20

十七号

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
（明治卅七年四月十四日）

松陽新報第壹號外

東京電報（十四日發）

◎旅順砲撃（十三日芝罘發電報ニ依れば）十三日午前牛莊より入港せる英國汽船の報告する處に依れば同船の旅順沖通航の際盛に砲聲を聞きたりと

◎別報（別電に依れば）午後（十二日午後か又は十三日午前の誤電か）八時日本艦隊は旅順口砲撃を始め正午に至る迄も砲聲止まずと

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

十八年

21

東京電報（十四日發）

◎敵艦擊沈＝マ提督の溺死

倫敦發電報ニ依ればマカロフ提督の坐乘せる戰鬪艦ペトロパウロウスク（一万九百六十噸）は擊沈せられ同提督は其幕僚並に乘組全員と共に溺死せり

◎敵艦沈沒後報

東京筋ニ達したる電報ニよれば聖彼得堡ニ到着したる電報に曰く露國戰鬪艦ペトロパロスタは旅順に於て沈沒し生存者は只士官四名にしてキリール大公はその一人なるも負傷せり

◎特發別電

我交際三ケ國より外務省に達したる電報ニ依れば十三マカロフ中將は其參謀長以下の各將と共に一等戰鬪艦ペトロパウロスクニ乘り旅順近海を視察中幕僚數名の外マカロフ提督以下凡て即死せり

我敷設せる器械水雷に罹りて同艦は沈沒し

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

十八ニ

明治卅七年四月十五日

松陽新報第壹號外

東京電報（十五日發）

◎豆粕輸出再禁止

上海發電報ニ依れば曩ニ解禁せられたる豆粕輸出又々禁止を命じたり（豆粕は清國が曩ニ戰時禁制品として其輸出を禁し本邦公使の抗議に依りて解禁せしが又々禁止せるなり）

◎第七回旅順攻撃（上海發電）

十三日午前七時日本艦隊五隻は旅順口を攻撃し港口に於て露國巡洋艦バーヤンに出會ひ之に對し砲撃を加へたれば巡洋艦アスコルド外一隻の巡洋艦は出港してバーヤンを救助せんとせしが日本艦隊の砲彈はバーヤンに的中し同艦は大破損を受けて砲臺援護の下に遁走せり日本艦隊は更に砲臺に對して猛烈なる砲撃を加へ東方に向け引上げたり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

73

十九号

明治卅七年四月十五日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第貳號外

東京電報（十五日發）

京城發電報ゝ依れば昨十四日午後十時京

◎韓京王宮の失火

城宮廷東南隅より失火し折柄東風烈しく忽ゝ中央の諸宮に延燒し平和殿は全燒したり原因不詳日本兵は直ゝ宮殿の周圍を保護し朝鮮皇帝皇太子等は米國公使館に避難あらせらる

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

十九ヒ

24

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年五月十五日

松陽新報第壹號外

東京電報（十五日發）

芝罘發電報に依れば大連灣より來着せる者の談話に曰く青泥窪に於ては小蒸滊船艀船棧橋を破壞し敷設水雷浮標を撤去せり又旅順口に於ては港口沈沒船取片けの模樣なく港内には尚ほ軍艦商船十五六艘存在せり

芝罘發電報に依れば青泥窪の露兵大概旅順に逃走し現在二三十の駐屯せるものは日本兵襲來の際白旗を掲げて降服したれば引續き同地に殘留するものなり又過日浚渫船三艘港内に於て沈沒せり尚同地の糧食は大に欠乏して頗る困難を極めたり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美翰
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

二十七

明治卅七年五月十六日

松陽新報第參號

東京電報（十六日發）

◎ダルニー攻撃

倫敦發電報に依れば日本軍艦は十四日青泥窪を砲撃し陸兵は上陸して市街を攻撃せりと

◎宮古艦の轟沈（大本營着電）

第五戰隊と第二水雷艇隊は十四朝大窪口沖至る艦隊掩護の下に聯合掃海をなし敵は大孤山北東に假設砲臺臼砲六門を具へて歩兵一中隊をも具へて頑固に抵抗せり此日敵の砲火を冒しながら機械水雷五箇を破壞し又陸上の敵に多少の損害を與へたり然るに作業中止する當

不幸にも宮古艦に敵の水雷觸れて爆發し爲めに艦体破損し死傷者二十四名を出して沈没せり

宮古艦は一千七百七十二噸速力二十ノットの巡洋艦なり

◎露兵殷山を襲ふ

京城發電報によれば露兵數百殷山金鑛を襲撃、工夫の財産を掠奪せり日本工夫に綿かに避難せしも多數に捕縛せられたり

殷山は安州の東四里の處　あり英人の經營せる金鑛山なり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

26

二十一ページ

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年五月十八日

松陽新報第壹號外

（十七日發）

東京電報

◎敵側の公報

奉天のフルーグ少將より上海なるデッシノ少將へ達したる公報の上海發轉電に曰く

▲鐵道破壞　十三日夜間普蘭站は敵の探海燈にて一面を照らされ敵は普蘭店瓦房の附近の鐵道を破壞せり依て花溝口（瓦房店の北）万家嶺（花溝口の北）の二停車場を閉鎖せり

▲日本軍の進軍　別報に依れば日本軍は遼陽に向ひ示威的行軍をつゞし居れり其の本隊は海城或は蓋平方面に進軍せんとす　もゝ如し其の他有力なる部隊は大孤山の西北に集れり

▲馬賊蜂起　塞馬集連山關に馬賊現はれ野戰郵便を攻擊せり寬甸城附近にて支那人は露人耶蘇信者に向ひ迫害運動を始めたり

露軍は連山關塞馬集間の馬賊掃討の手段を取り數回衝突せしに其結果コサック兵三名殺され十名負傷し四名行衛不明となれり十四日馬賊三百は煙台鐵山（奉天遼陽間にある石炭鑛）を攻擊　坑夫三十人を殺して退却せり

又遼陽の西十二哩の處に馬賊の大分隊現はれたりと　報あり

沙河江（遼河の支流）の流域　沿へて西に送り鐵道守備隊は馬賊猖獗の爲め白塔堡（奉天の南）　避けたり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

27

二十一ヒ

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年五月十八日

松陽新報第貳號外

（明治三十四年十一月五日發行）

東京電報（十八日發）

露都發電として米國新聞紙に掲載する所に依れば金州丸乘組

◎金州丸の最期敵報

陸軍將校六名は些少の抵抗する事無く降服

し抵抗したるを以て船体と共に打沈めたるに彼等は

沈没を終るまで射撃を繼續

したりと浦潮斯德艦隊司令長官より報告あり

天津發電報に依れば

◎大石橋占領（特發）

は大石橋（蓋平の北）に向て進軍し直に敵兵を擊退して同地を占領せり

北京發電報に依れば

營口南方に於ても烈しき砲聲を聞く

◎露軍の逃仕度（特發）

地に向て出發せりとの報告に接し

狼狽一方ならず兵糧秣を燒

き何時にても海城方面に向て退却するの準備整ひたりと

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

28

明治廿七年五月十九日

明治三十四年十一月廿五日第三種郵便物認可

松陽新報第壹號外

◎第二軍の戰況（大本營着電）

十六日我騎兵將校七名の率ゐる一隊は五十里堡（金州の北五里）にて敵兵數名を殺し七名を捕虜とせり一部隊は蘇家屯にて北向の軍用列車と戰鬪して之を擊退し鐵道電線を破壞せり

十六日十三里臺（金州の北三里）附近の敵を擊退し九里庄、陳家屯附近の高地を占領す敵はセウキン山より砲八門にて時々砲擊ぜり

我死傷者は百四十六名にして將校中戰死なかりしも水谷砲兵少佐、小木谷砲兵大尉、板倉砲兵中尉の三氏は重傷を受け高梨歩兵大尉、森下砲兵大尉、木口砲兵中尉、島田砲兵少尉、飯野砲兵少尉、尾關歩兵少尉の六氏は輕傷を受けたり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

29

ごさこと

明治七年
五月十九日

松陽新報第貳號外

東京電報（十九日發）

芝罘發電報に依れば蓋平は十七日陷落せるやに傳ふ

青泥窪より清國人二百名露國人十二名何れも狼狽して避難し來れり夫等の談に依れば同地にては小蒸滊船艀船の外の建造物は悉く破壞せられ露兵は全く逃走したるものゝ如く日本軍の元氣頗る盛なりと云ふ

蓋平占領（金州發電）　十六日日本軍は蓋平占領す露兵武器を棄てゝ大石橋方面へ潰走し營口より來る露兵は引還せり

營口には一千の露兵砲十八門あり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美輔
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二十二日ち

30

明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可
明治三十七年五月十九日

松陽新報第參號外

東京電報（十九日發）

芝罘發電報に依れば昨夕營口より來着せる外國人の話に依れば營口に於て日露兵の衝突あり激戰の後日本軍の大勝利に歸し露兵は大砲五十門を放棄して遼陽方面に向け敗走せりと云ふ

京城發電報に依れば露韓兩國の條約協定及び特許を廢棄し露國人の森林契約は全然廢止するの件詔勅發せらる

須磨艦は十一日大連灣附近に於て露兵の一屍体を發見し海軍葬喪令に依り水葬せりとの公報ありたり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美樹
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二十三号

31

東京電報 （十九日發）

◉日本海軍の最大不幸

初瀬、吉野兩艦の沈沒

東郷聯合艦隊司令長官報告

其一 （十五日着）

本職は茲に三度不幸なる變災の報告を進達するを深く遺憾とす十五日午前五時千歳（第三戰隊旗艦）なる出羽司令官（第三戰隊司令官）より無線電線に報告に依れば午前一時四十分頃第三戰隊は旅順口封鎖の任務より歸航中山東角の北方海面にて濃霧に遭ひ春日は吉野の左舷艦尾に衝突し吉野は浸水甚しく遂に沈沒せり春日より出したる救助艇にて收容なしたるもの機關長以下約九十名なりと濃霧未だ霽れず痛心に堪えず

其二 （十五日着）

本日は海軍にありて最大不幸の日にして茲に最も不幸なる報告を進達するの止むを得ざるに遭遇せり初瀬、敷島、八島、笠置、龍田、は午前十一時頃旅順口冲にて敵を監視中初瀬は敵の水雷に罹り先づ舵機を破られ初瀬より曳船送れとの電信に接したるを以て將に之を發送せんとする時更に敷島より初瀬は第二の水雷に罹り遂に沈沒せりとの非報來れり本職は之を報告するに臨み唯遺憾至極と云の外なし前後の處置に就ては夫々出來得る丈けの手段を盡し災厄を增大せざるに力め居れり當地附近の濃霧未だ霽れず

其三 （十五日着）

敷島は初瀬遭難狀況報告の爲め今當地に歸航しつゝあり驅逐隊全部及び二個水雷艇は敵の驅逐隊に當り且つ溺死者救助の爲め午後一時三十分當地を發して旅順口方面に向へり霧未だ晴れず

其四 （十六日着）

初瀬艦の敵の水雷に罹りしは老鐵山の南東約十海里の處にして當時同方面には敵なく又其附近に敵の驅逐艦もあらざりしといふ此事實より判斷する時は敵は其附近に機械水雷を沈置したるか或ひは又潛水艇を利用したるものならん初瀬は約三十分間を隔て二回の被害にて漸次に沈沒したるも敷島、八島、笠置、龍田等にて梨羽少將（第一戰隊司令官）中尾大佐（初瀬艦長）以下三百名を救助收容せり初瀬沈沒の頃敵の驅逐艦十六隻は旅順口内より出て來り我を追尾せしが偶其地に來りし明石、千代田、秋津洲、大嶋、赤城、宇治、及び高砂は前記諸艦と協力して之を擊退し初瀬生存者の收容を果す事を得たり

以上の報告は混信の爲め文意不明瞭なる無線電線と今朝遭難報告の爲め來りし龍田の少尉並に八嶋の艦宰水雷艇指揮官の口頭報告等を綜合して製作したるものなり當地近方霧未だ霽れず

其五 （十八日着）

今朝濃霧霽れ各隊追次入港す其報告に依り初瀬は全く敵の機械水雷に罹りしものなる事を確むる事を得たり

初瀬は明治三十二年英國に於て製造せり一万五千二百四十噸速力二十節の鋼製一等戰鬪艦にして艦長は大佐中尾雄氏副艦長は中佐有森元吉氏なり
吉野は明治二十五年英國に於て製造せる四千二百二十五噸速力二十三節の鋼製二等巡洋艦にして艦長は大佐佐伯氏副艦長必得は少佐廣渡顯一氏なり

發行人兼印刷人 原豊次郎 編輯人 吉田美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所 松陽新報社

東京電報（二十日發）

◎大連灣上陸（上海發電報に曰く山海關來電によれば）**十七日日本軍の一師團は艦隊援護に依りて大連灣に上陸し內地に向て進軍せり**

◎敵將更迭（倫敦發電報に依れば鴨綠江の敗將西伯利亞第二軍團長陸軍中將ザスリッチは其職を免ぜられ其後任は西伯利亞第二軍團長ケルラア將軍なり）

◎鐵道破壞（北京發電報に依れば）**十八日露兵は自ら牛莊大石橋間の鐵道線路を破壞せり**

◎蓋平方面の敵情（芝罘發電に曰く牛莊より達したる報告に依れば）**十六日終日蓋平方面に當りて烈しき砲聲あり仝日露兵二千は大石橋より蓋平に向て進軍せり**

◎露軍の左翼を包圍す（特發）（倫敦發電報に依れば）**日本兵はクワデン、シタイハトウカタイシカを攻擊し更に進擊して遼陽の東北二十五哩の處に到着し露兵の左翼隊に對し包圍せり**

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二千三部

33

明治卅七年五月二十日

松陽新報第參號外

東京電報（二十日發）

◎金州戰爭の死傷　十六日金州附近戰場に於て敵の死者三十あり捕虜の言に依れば敵の死傷者三百以上ありステツセル防禦司令官は金州半島に在りと

◎初瀨艦の戰死者

初瀨艦戰死者左の如し

參謀少佐　塚本善五郎
分隊長少佐　仁禮景一
少尉　小林貞任
仝　今井行一
仝　園田藤
中機關士　大石親德
仝　佐藤道久
軍醫中監　關文之助
少尉候補生　鈴木繁音
仝　田中哲
仝　澁江龍次郎
少機關候補生　永原和衛
仝　横田榮
兵曹長　佐藤捨三
外下士卒

副長中佐　有森元吉
中尉　秋山米吉
仝　廣綱
仝　松原忠一
大機關士　松崎代三
少機關士　山賀繁隆
仝　山本治衛
中軍醫　三島重吉
仝　神宮
仝　小林清之助
仝　內山芳一
仝　原田甚太郎
仝　和田村太
仝　池野龜之助
仝　岡崎清彥

◎吉野艦戰死者

吉野艦戰死者左の如し

艦長大佐　佐伯間
航海長大尉　竹內兼藏
大尉　黑澤孝三
少尉　素府川新平
三等機關士　松崎正明
少機關士　島村喜次郎
仝　土肥博
大主計　廣瀨鶴馬
同　近藤鎌吉
同　村田熊治
同　新開嚴吉

副長少佐　廣瀨顯一
砲術長大尉　末松兵一
中尉　小林幾之助
仝　久繼利一
大機關士　竹內三千三
同　龍司敏
中軍醫　草苅庸中
少尉候補生　越間隆彥
仝　向爲次郎
仝　宮城蕃
少機關士候補生　石田隆峯
仝　伊藤泰二
外下士卒

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

34

明治卅七年五月二十日

松陽新報第四號外

東京電報（二十日發）

●本縣出身士官戰死

郡高津村出身なり

初瀨戰死者海軍少機關候補生池野鑑之助氏は本縣美濃

●金州附近の衝突

（大本營着電）

遼東上陸軍山田大尉の部下一小隊金州東方ショウキン山敵情偵察の際敵歩兵二小隊と衝突し二十分間激戰後之を擊退す此戰鬪にて小野寺少尉外士卒四名戰死山田大尉外八名負傷敵死傷約五十名

●我艦勃海灣に進入す

東鄕艦隊司令長官公報

十五日夕刻我戰隊旅順沖を去り近沿岸偵察陸上の敵を擊退せり十七日艦隊は掃海を行ひ勃海灣に進入十六日トウトウ山蓋州角附灣頭に進め鐵道架橋及び軍兵列車其他敵の建物を砲擊し損害を與ふ砲艦を

●我軍大孤山上陸

日本軍の一部十九日大孤山上陸を開始せり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

36

二十四ページ

明治卅七年五月廿一日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿一日發）

◎旅順方面の砲聲（特發）芝罘發電報によれば英國滊船は上海より來着の途中一二十日午前一二時威海衛沖に於て旅順口方面に當り激烈なる砲聲を聞きしと云ふ

◎第二回內債條件決定　第二回內債は價額九十二圓五分利附償還期間七年を以て發行する事と政府銀行家の間協議決定せり

◎露艦坐礁破壞　大本營着電確報によれば浦鹽斯德巡洋艦ボカチール（六千六百七十五噸速力二十三浬）は港外に於て濃霧の爲め坐礁破壞せりと

◎露兵遼西に入る（特發）上海發電報に依れば露兵は遼河を渡りて法庫門（開原の西約二十里）に至り同方面より更に南下せんとする の模樣あり又奉天方面の輜重隊は開原（奉天の北二十五里）に退却せり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年五月廿一日

松陽新報第貳號外

東京電報（廿一日發）

◎旅順口偵察戰公報

東郷聯合艦隊司令長官報告

砲艦の一隊と驅逐艦水雷艇隊の數隊は二十日午前一時旅順港口に迫り要塞の猛烈なる十字火を冒し强行偵察を試み目的を達して天明に引揚げたり我砲艦隊に多少の飛彈ありしも著しき損害なく又死傷なし

◎海軍不幸と英國（特發）

倫敦電報に依れば日本海軍不幸に付き英國に於ては親厚なる同情を惹起せり然れども上等社會一般の信ずる所に依れば之れが爲め日本軍作戰計畫に何等影響する所なしとなせり

◎亞大將の免職

其の筋に達したる情報に據ればアレキセーフは一切の軍職を免せられたりと

◎任島根縣技師　麁島縣技師江間定次郎

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

37

二十四号

明治卅七年五月廿二日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿一日午後五時四十分發遲着）

◎金州總攻擊中　唯今金州總攻擊中なりとの電報あり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二十五ヶ

38

東京電報（廿二日發）

◎露韓斷交の通牒　京城發電に依れば十九日韓廷は各國公使に向ひ露韓兩國の交際斷絶宣言の通牒を發したり

◎露韓兵の衝突　咸興に於て露兵韓國兵と衝突し戰鬪二時間の後露兵は家屋三百を燒拂ひて退却せり

◎英國新聞の表情　倫敦發電報に依れば英國各新聞は初瀬吉野兩艦の沈沒に就て同情哀悼の意を表せり

◎日本砲の猛烈　上海發電報に依れば露國軍隊各方面の指揮官は孰れも日本軍砲彈の猛烈なる旨を報告せる由

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　天朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

40

二十七年

（明治二十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治四十七年十一月廿二日

松陽新報第參號外

（廿二日發）

東京電報

◎旅順偵察戰公報

旅順口偵察に赴きたる驅逐隊中曉は敵の破裂彈を受けて大尉末次直次郎外二十四名戰死せり其他無事

（海軍大尉末次直次郎氏は曉艦長として第二回閉塞の時掩護の任に當り功名ありしあり）

行人毎日刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　鳥根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

41

二十六号

五月廿四日　松陽新聞夕刊

東京電報（廿四日發）

●ダルニー避難者

芝罘發電報によれば青泥窪より韓人八百名露國人五百名支那人五百避難し當地に着したり

●敵軍の退却準備

上海發電報によれば遼陽よりては機關車百十九貨物列車千三百準備せられたり右はハルビン退却の準備なるべしとの報あり

●彼我軍情の敵報

倫敦發電報に曰く露都に達したる電報に依れば露兵は蓋平を引拂ひ海城に向て退却せり日本兵は更に遼陽に向け進軍を開始し鳳凰城の西北五十キロメートルに達し馬匹兵員疲勞せる樣見受けらるゝと

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美樹
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

明治卅七年五月廿四日

松陽新報第貳號外

東京電報（廿四日發）

◎露艦又破壞　戰鬪艦オレル號は坐礁破碎したり

オレル號は黑海艦隊の一にして一万三千六百噸速力十八節進水千九百二年（一昨年）の最新造艦なり

◎ス提督の着鳥　其筋に達したる電報に曰く　スクルイドロツフ中將は浦塩斯德に到着し旗艦ロシヤ號に坐乘したり

◎東京大相撲　本日雨天休業

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

42

二十六号

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治三十七年五月廿八日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿八日發）

大本營着電

◎南關嶺占領――我死傷約三千

我軍は二十七日陸軍少將中村覺の一枝隊を派遣し南關嶺を占領せり敵兵は三十里堡停車場を燒拂ひ旅順口方面に退却せり我軍は準備次第前進すべし戰利品大砲五十門我軍死傷約三千敵の死傷者を遺棄せるもの四百

◎海軍の協力行動公報

二十六日赤城鳥海の二艦並に水雷艇は海岸に接近して敵壘を連續砲擊せる際敵彈鳥海艦の甲板を擦過せる爲め海軍大尉河野道夫負傷し下士以下二名戰死二名負傷せり艦隊の一部は更ら鐵道線路を砲擊し陸軍の海中を徒涉し猛烈なる前進を援護せり且つ南關嶺砲擊の際敵彈鳥海艦上に破烈し林艦長戰死し佐藤少佐以下三名負傷せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

43
二十七年

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年五月三十日

松陽新報第壹號外

東京電報（三十日發）

黑木第一軍司令官公報

◎鐵陽邊門占領

二十八日鐵陽邊門にある敵二千擊退之を占領ぜり我死傷三十三

鐵陽邊門は鳳凰城の東北々興京街道の要地なり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田[illegible]朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

44

二十八ヨリ

明治卅七年五月卅一日

松陽新報第貳號外

東京電報

（卅一日發）

東郷司令長官報告

◎旅順口强行偵察

三十日砲艦四隻驅逐艇三隻水雷艇二隻は敵の砲火を冒して旅順口の强行偵察をなし砲艦は敵彈を受けて戰死一名負傷三名を生し砲一門を損ぜり

◎本縣出身戰死者

邑智郡日貫村出身第一師團歩兵大尉福田房五郎氏は南山に於て戰死せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

45

ウラを見ヨ

二十九号

ダルニーの占領

昨日午後三時四十分東京電報

奥大将報告

ダルニーに碇泊せる露船六隻内鮮斬り覆信号停車場無事列車二百餘連用し得べし飲道廠橋は破壊されたり

染井破壊されたり大橋は破壊されたり

明治廿七年六月二日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（二日發）

錦州發電報に依れば

◎我軍の北進（特發）日本軍の一枝隊は既に遼陽の東北に達し露軍の左翼に迫れり

◎捕虜日本人 倫敦發電に依れば日本人の捕虜二百六十八名は亞細亞西比利亞トムスク（バイカル湖より遙かに西、エニセイ河畔）に到着せり其内海軍軍人は第三回旅順口閉塞の際捕獲せるなり而して日本兵の容姿擧動の清潔なるに何れも感服し居れりと

◎敵の石炭運送船（特發）諸威瀛船三隻は旅順口に輸送すべき石炭を搭載して吳松（上海尻）附近に碇泊し待命中なり遠からず日本の爲め捕獲せらるべし

◎旅順の死守 上海發電報に依れば旅順外部内部砲臺の二線に跨りて危險なる方法を以て地雷火を濫設したり右はバルチック艦隊の到着する迄は出來得る限り日本軍の侵入を防禦すべき旨命令したるを以てなりと云ふ

發行人兼印刷人 原豊次郎 編輯人 吉田美艾

島根縣松江市殿町四十三番地

發行所 松陽新報社

三十号

46

東京電報

（三日發）

◎旅順の露兵（特發）　上海發電報に依れば旅順口にある露兵は狙擊歩兵八千要塞砲兵二三千鐵道守備兵二千海軍兵約六七千なりといふ

◎賽馬集の戰鬪（特發）　倫敦發電報に曰く露都に達したる電報に依れば賽馬集に於て三日間戰鬪の結果露軍退却したり

◎李家屯の交戰

三十日我騎兵は李家屯附近に於て敵の歩騎兵砲兵約七中隊と衝突し交戰二時間の後敵兵を擊退せり我軍の死傷將校五下士卒不明

李家屯は首山堡の北九里

◎摩天嶺占領說　倫敦電報に依れば日本軍は摩天嶺を占領したり

發行人兼印刷人　原　豐永郎　編輯人　吉田
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新聞社

三十一号

47

明治四十七年六月四日

松陽新報第壹號外

東京電報（四日發）

倫敦發電報に曰く奉天よりのルーター通信よりの電報に依れば

◎黑鳩の攻勢準備（特發）

クロパトキンは大計劃を以て攻勢を取るの準備整頓したりと云ふ

◎赤十字車砲擊に就て

露國政府は佛國を經て曩に日本軍が普南店にて赤十字機關車を砲擊したる國際公法違反なりとの抗議を申込たるを以て我政府は此件に付き事實を指摘して反駁したりと云ふ

◎工科大學燒失

本日午前零時東京帝國大學工科教室に大火起り其損害甚し

◎臺灣幣制改革

我政府は臺灣の貨幣制度を改革し內地同樣金貨本位とし一圓銀の通用を廢止せり但公納金を限り許可す右は七月一日より實施し其の引上げたる銀貨は清韓滿洲に於て使用する由

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美鶴
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

三十二号

48

三十二号 49

明治卅七年六月四日

松陽新報第貳號外

東京電報（四日發）

芝罘より外務省への着電に依れば露國混成一師團は廿九日蓋州（蓋平附近）に到着し一万五千は更に三日を以て同地に向ひ牛莊を通過せりミチエンコ將軍は近衛騎兵四千を以て貔子窩に於て日本軍を孤立せしめんとの報あり

右ミチエンコ軍の南下は我第一第二軍の連絡を絶たん計畫なるべし

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年六月四日

松陽新報第參號外

東京電報（四日發）

◎第二軍の戰報

奥司令官報告

二十日我歩騎兵一部隊は田家屯にある敵の騎兵三中隊を擊退し之を追擊して張家屯に至り更ら敵騎兵二中隊を合せて擊破せり竜王廟に至り敵の歩騎工兵約七中隊に出會ひたるに是亦擊退せり敵は得利寺（瓦房店の北）方向に退却せり

◎文川の衝突

元山より外務省着電ら依れば三日文川（元山の北）に於て敵の斥候二十名は我斥候と衝突し敵の戰死者六名我兵死傷なし

◎大總督府

戰期の進むら從ひ大總督府を戰地に進めらるべしとは數次報道したるが右は愈七月中旬を以て旅順口に進めらるゝ事に內定し去る二日山縣元帥は總督に拜命せりとの報あれども未だ確報に接せず

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

三十二号

50

二十三号
51

明治廿七年六月五日

松陽新報第壹號外

東京電報（五日發）

北京發電報によれば蓋平に到着せる露兵は

◎南下の露軍

第九の兩師團全部にして旅順援護の爲め露國皇帝の命に依りクロパトキン斯の如き大軍を派遣したるものなり又我一軍の牽制の爲一方海城方面にも亦大兵を集中せりと云ふ

京城發電報に依れば

◎東韓岸の露軍

（元山成興の中央）に到着し尚ほ三千の後續隊ありと云ふ又

露兵三百永興成興の露兵は後續の大兵到着を待ちて前進準備中なり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　大朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

東京電報（五日發）

佛の無線電信

佛國は泰皇島（山海關沖）の高地點より無線電信柱を建てたるを以て一般の注意を惹けりと天津より其筋へ報ありたり

封鎖行動公報

東鄉司令長官報告

其一

封鎖の爲め旅順沖にありし高本千歳艦長より無線電信の報告に依れば老鐵山頂より帆檣四及び哨舎あり一本の柱には無線電信用のガーフの如きものを認む又た四日朝以來旅順口方面より當り數回の大爆發を聞き黑煙の盛んに揚るを見たりと云ふ

石田第二驅逐隊司令の報告に依れば雷は南三チン嶋沖にて敵の機械水雷を認め之を爆沈せしめたりと

其二

北陸城及び大欽嶋より無線電信柱の如きものを見ず又た四日午後七時過更より旅順方面より當り數回の大爆聲を聞きしも煙は認めざりしと

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

三十三号
52

明治卅七年六月六日

松陽新報第壹號外

東京電報（六日發）

◎遼東敵情

北京發電報に依れば大石橋を通過せる露兵は砲四十八門コサック騎兵三千よりして遼陽鳳凰城間には三万駐屯せり遼陽には歩兵二個師團騎兵三千砲七十門あり薪火を焚き砲臺の前は掩蔽壕を設け鐵條網を張り陷穴を作り居れり亞總督は依然として汽車内に仕臥し黒鳩大將は遼陽にあり

◎吉野初瀬（特發）

沈没軍艦吉野は損傷輕傷よりして原形のまゝ十分引上の見込あり初瀬艦は沈没位置三十尋に達し居るを以て原形のまゝ引上ぐるは困難の模様なれども砲門其他材料は引上の見込ありと云ふ

◎敵艦爆沈

東郷司令長官報告

五日大本營着電

今朝封鎖任務より歸航したる第五驅逐隊の報告よ依れば四日午後七時四十分同隊が東方より旅順港外を監視中ギリヤークの如き敵の砲艦一隻城頭山の前面にて爆裂沈没せり多分我水雷に罹りしものならん尚ほ他よ敵の砲艦一隻驅逐艦汽艇等數隻港外にありて搜海事業に從事せるものゝ如くありしが皆倉皇灣内に入れりと城頭山は老虎尾半島鷄冠山の西隣よりあり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　大朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

三十四ヒ

53

三千五百 54

東京電報 (七日發)

◎大連灣掃海公報

六日片岡第三艦隊司令長官報告

四日大連灣掃海の一部は北三山島及び大孤口村を偵察したり其報告によれば北三山島の家屋をく又何等敵の設備せしものなく大孤口村には敵の電信所あり土民の言ゑよれば敵は十數日前其通信器具を取外して遁走せり然して其の退去に際し飲料水源に毒を投じたりと依て目下精査中

又

東郷司令官報告

大連灣掃海は三日以來南方烏島の死傷(此邊電文不明)ありしも豫想外に進捗し六日午後二時迄に發見して爆沈せる敵の機械水雷四十一個ゑ及び又甞て敵の水路嚮道者たりしものを領し一の有望なる航路を發見し既に淺吃水船を通航せしむるを得るゑ至れり尚ほ掃海隊員は鋭意作業しつゝあり掃海隊員船主總て無事

發行人兼印刷人 原 豐次郎 編輯人 吉田 美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所 松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

明治卅七年六月七日

松陽新報第貳號外

東京電報（七日發）

東郷司令長官報告

◎敵艦爆沈詳報

今朝封鎖任務より歸來したる第四驅逐隊司令長井群吉の報告によれば一昨四日午後七時四十分旅順港外に擬沈したる敵艦はゲレミヤスチー型にして同驅逐隊は當時鮮生角に近づき敵情監視中老律嘴砲臺より十數發の砲擊を受けしを以つて少しく南方沖合より之れを避けしに港外に在りしグレミヤスチー型の敵艦我に向ひ砲擊しつゝ進行し來しが幾ばくもなく城頭山の南方約一海里と思はる處にて大爆烟を擧げて沈沒せり又其の傍に有りしガイダマーク型の一敵艦も同時に其の艦影を沒せり敵は城頭山、老鐵山下に沿ふて頻りに掃海を施行しつゝありしもの如し掃海艇と思はる船は城頭山下に群集し尚ほ數艇の老鐵山の東方に運動するを見たり是等の數艇は敵艦の爆沈と共に倉皇港内に逃げ入れり

第四驅逐隊は數個の片彈を受けしも一の損傷なし

此グレミヤスチー型艦爆沈は即ち昨日の東電ギリヤーク型とありし砲艦にして別個の爆沈せしにはあらずグレミヤスチーは千四百九十二噸の甲裝砲艦ガイダマークは四百噸の砲艦

◎外國武官の露國觀

倫敦發電報に曰く露國軍隊に從軍せる各國武官の其本國政府への報告に依ればクロパトキン將軍が活潑なる行動をなさゞるを以て無聊に苦む事又同將軍が露國皇室の信任を失へる事を述べ又旅順陷落の後に於ては露國々内各處に内亂を企つるものあるべし畢竟露國の運命は旅順に依て決定せらるべしと云ふ

◎千家屯の衝突

七日太孤山上陸軍報告

金州街道潘賈屯にありし一小部隊は五日朝太孤山西北約十五キロメートルにある千家屯に於て敵の騎兵約三十を遠擊し之を西北方に潰亂せしめ兵卒二名馬十三頭を捕獲せり此敵は西伯利亞コサック第五聯隊の二中隊に屬す

◎旅順の慘狀（特發）

芝罘發電報に依れば旅順口より逃亡して來着せる支那人の談話に曰く旅順にては港内情況の外部へ漏洩するを恐れ一切の支那人を禁足して嚴重に之を警戒し逃亡を企てたりし支那人六十人は既に慘殺せられ自分等も又最初四名なりしも内三名は發見慘殺せらる旅順の兵卒には俸給を支給せず糧食は從來パン三斤なりしを二斤に減少し士官等は依然美食するが爲め兵卒等の怨嗟益々強く士官を殺害し日本軍に降伏せんとする潛勢力日々盛ちり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美鶴

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

三十五号

55

明治卅七年六月八日

松陽新報第壹號外

東京電報（八日發）

◎黑鳩の南下（特發）　上海發電報に曰くクロパトキン親しく南下せりとの報あり而して旅順口陷落以前に彼自ら南下するは如何なる策に出しかに付て大に注意を惹起せり

◎獨逸の增兵（同上）　上海發電報に依れば獨逸は更ゝ山海關に二百秦皇島に五十人增兵せり

◎旅順芝罘間の無線電信（同上）　北京發電報に依れば旅順口に於ては無線電信を以て芝罘露國領事との間に通信するものありとの說大に信せらる

◎露國馬賊に苦む（同上）　奉天府以北の電信並ゝ道路は往々馬賊の爲に破壞せらるゝを以て露兵は更に兵站道路の新築に着手し日夜工事中あり

◎馬賊鎭定の要求（同上）　露軍は馬賊の爲め益困難を加ふるを以てアレキシーフは遂ゝ在北京露國公使レッサーに對し清國政府に向け馬賊鎭定の事に就て嚴談すべき旨訓令したりとの公報ありたり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田玉朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

三十六号
56

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年六月八日

松陽新報第貳號外

東京電報（八日發）

◎旅順口强行偵察

七日東郷司令長官報告

砲艦四隻は豫定の如く昨夜午前〇時過旅順口港外に至りて强行偵察を行へり敵は猛烈なる砲火を以て之を砲撃し第四號砲艦は敵彈八個を被り多少の損害あり卒一名戰死し二名微傷を受く其他は無事

◎補第三艦隊司令官

◎大連灣の水雷

海軍少將　山田　彦八

戰地より歸來せる人の談に依れば大連灣には無數の水雷をM字に並列したる形狀を以て布設し居れるを以て太だ危險なり旅順及び大連に布設せる敵の水雷は總計**三千個**に達せるものゝ如し

◎露帝の勅命

露國皇帝は露國の面目を保持するに足るの一戰を經たる後に非ざれば遼陽を引揚ぐべからざる事をクロパトキンに命せられ遼陽に在る露軍の態度は一變せり

露國皇帝がクロパトキンを旅順を救ふべき事を命せられたるは旅順に在る貴族の父母

露國皇帝に哀願せる結果なり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　弼
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

三十六号

57

明治卅七年六月九日

松陽新報第壹號外

（九日發）

東京電報

◎大連灣掃海公報

八日片岡第三艦隊司令長官報告

大連灣に於ける捜海隊は昨七日十一箇今八日十箇敵の沈置せる機械水雷を發見し何れも爆沈したり人員船舟共異狀なし

八日午後四時二十分大本營着片岡第三艦隊司令長官報告

大連灣の掃海は豫定の通り進捗し既に掃海面第一區を清め得たりと云ふ又北三山島の西約千メートルと南三山島の南西とに沈沒船あり前者はパヤーリン後者はノンニーと信ぜらるゝ

◎旅順口强行偵察

八日東郷司令長官報告

七日夜より今曉に掛け艦載水雷艇八隻を放て更に旅順口强行偵察を擧行せり敵は之れに對し多少の砲撃を加へ八雲艦載の水雷艇二隻下士卒各一名戰死し其他損傷なし

◎バルチック艦隊

露國は若し旅順よりして陷落せばバルチック艦隊を送るの意思を抛棄することゝしたりとの報あり（六日倫敦發電）

◎露國攻勢を執るに決す

聖彼得堡情報によれば露國參謀本部は皇帝議長の下に大會議を開き軍略上攻勢を執るの議を決定したり（仝上）

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

三十七号
58

明治廿七年六月九日

松陽新報第貳號外

東京電報（九日發）

◎南三山島偵察公報

八日片岡第三艦隊司令長官報告

六日松島艦より陸戰隊を南三山島に上陸偵察せしむ其報告の概要左の如し

燈臺は改築中と見受けらる附近に少量の建築材料あり點燈器具無し附屬の煉瓦家屋四棟あり內一棟は破壞し其他は床を壞ちあるも使用に堪ゆ發電機及び機關は爆發藥ゑて壞ちたる形跡あり又鉄蓋ヶ有する監視哨所らしき土工物一あり西灣の北角ゑは二小埠頭あり兩側崩壞しあるも船舟の接着に便利なり同島北部南東角に大小五棟の煉瓦屋あり即ち避病院なるが如し屋內一物なく床板、窓、扉等は概して破壞しあるも暖爐家屋及び壁は完全ゑして多少の修理を加ふるれば使用ゑ適す內一棟は消毒室にして機關及び消毒鑵あり機關は其儘使用し得るも消毒鑵の內箱は取外しありて附近に見當らず外に二棟の亞鉛板家屋及び濾水池一あり飲料水は露國人の穿ちたる井一土人の使用する不完全のもの二あり共に濾過の後煮沸すれば飲用し得べしと信ずるも水量多からず牛馬鵝豚多ゆ煮らる

◎義手足御下賜（特發）

皇后陛下ゑは松山日本赤十字社病院に收容せる捕虜負傷者へ義手足御下賜の御沙汰ありたり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

三十七号

59

明治卅七年六月十日

松陽新報第壹號外

東京電報（十日發）

◎馬賊の鐵道破壞（特發）天津發電報に依れば遼陽附近に於て又々馬賊蜂起し鐵道線路を破壞し其亂暴益甚きを以て露兵頗る困難を極め居るとの電報達したり

◎岫巖占領說 第二軍の一部隊は昨九日岫巖を占領せりとの說あれども未だ公報無し

◎旅順救援軍（特發）倫敦發電報に曰く聖彼得堡よりの電報にはればクロパトキン將軍は旅順救援軍隊四万の諮詢を經て指揮する事となるべしと

◎敵一部隊退却說（特發）倫敦發電報に曰くプタツケンブルク將軍の率ゐる一部隊は大石橋に退却せりとの說あり

發行人兼印刷人 原豐次郎 編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

三十八号

60

明治廿五年六月十一日

松陽新報第壹號外

東京電報（十一日發）

倫敦發電報に依れば日本軍艦は運送船三艘を護衛して八日蓋平熊岳城間の海岸を砲擊せりとの電報あり

◎蓋平方面の砲擊

◎露軍集中（特發）天津發電報に曰く南下せる露兵の大部帥巖方面より却せる露兵と會し全露軍の過半は蓋平大石橋間に集中し居るもの、如しと

◎賽馬集戰敵報（特發）倫敦發電報に曰く露國側の公報に依れば七日日本軍一旅團は賽馬集を攻擊し露軍は敵軍の優勢なりしを以て退却せり死傷百

◎馬賊露軍を襲ふ（特發）上海發電報に曰く錦州來電に依れば七日露兵百名は牛家屯より遼河方面へ彈藥運搬中馬賊五百に襲擊せられ二時間戰鬪の後露兵は彈藥を遺棄して逃走せり

◎露艦の破損　アレキセーフの公報に曰く　ポヒエダ（戰鬪艦一万二千六百七十四噸）は修繕を終り所定の位置に碇泊する際日本水雷の流れ込みたるものに罹り其損害を受けたりと

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美穀
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　新聲社

三十九号

61

三十九号

62

明治廿七年六月十一日

松陽新報第貳號外

東京電報（十一日發）

◎大連灣掃海公報

十日片岡第三艦隊司令長官公報

掃海隊は八九兩日間敵の機械水雷十六個を發見して之を破壞せり我れに一の損傷なし大箇口には露國人の設備る係る潴水池約百坪のもの一、三十坪のもの三あり何れも深さ約一尋餘あり鐵管を導き通水る便なるも鐵管は所々破壞しありて多少の修理を要す毒水の件は屢る露國人退去に際し毒を投じたりと密告したる支那人其の踪跡を失したるを以て見れば或は我軍に利便せしめざるの目的を以て吹聽したるものにあらざるか目下嚴査中尚水も取寄せ化學的試驗中あり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

六月十一日　松陽新報　第參號外

東京電報（十一日發）

旅順の窮狀

芝罘發電に依れば旅順に在る露艦九隻の内五隻は完全ふ航海するを得るも殘り四隻は全然用を爲さず修繕を加へられず大砲は皆市街周圍の堡塁ュ引揚けたり又五隻の露艦も久しく蒸氣を燒かず少しの番兵を殘して皆陸上防備ュ從事す水雷艇ノ完全なるもノ十隻あり海陸兵は砲臺ノ防備ュ忙殺され支那苦力は道路改修ュ從ふ露兵總數約一万五千なるべし旅順附近の支那人は毎日食糧を徵發され各地より來りしものは大概逃け去り殘りしものには給料食品與へらむず日本軍に打破せられたる露ノ續々北より逃け來り支那人は益々恐怖し居れり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田支朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

三十九号
63

四
第十号
64

明治卅七年六月十三日

松陽新報第壹號外

東京電報（十三日發）

◎露軍の卑怯（特發）　倫敦發電報に曰く奉天より達したる情報に依れば露軍よりは其從軍せる各國新聞記者を前進せしめざるを以て遼陽以南の狀況知れ難し右は露軍が其敗情の暴露するを恐れてならん

◎バ艦隊の出航に就て（特發）　バルチック艦隊は近日を以て日本海太平洋に向け出發せんとの說あり右に就き佛國ルタン新聞は此程精細ある學理上の研究をなし何れの点よりするも途中根據地を有せざるにクロムスタットより旅順口に回航することは到底不可能に屬すと論せり

◎亞總督召還ぜらるる　十日錦州發電に曰く昨夜遼陽より來りしものゝ語るところによれば去六日アレキセーフは露帝よりの召還電命に接し翌日露都に向け遼陽を發したりと

◎馬賊の猖獗　スタンダード新聞のオデッサ通信員の報に曰く哈爾賓より當地に來れる信ずべき報によれば武裝したる馬賊の一隊と四萬の清國國境兵とは殆ど露國の覬し能はざる所にして清國の中立は危殆に陷れりと

◎露軍の南下聲言　又同報告に曰く遼陽にある露國陸軍の高等司令部は援軍の到着することを言明しクロパトキン將軍は之を待て前進するに決せりと

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

六月十四日　松陽新報　第壹號外

東京電報（十三日發）

東郷司令長官報告

◎海軍公報

艦隊は依然旅順の封鎖を鞏固にすると上陸軍の後方援護をなす

第六戰隊は蓋平沿岸の敵を**砲擊**して**損害**を與へたり又封鎖勤務の**四驅逐隊**は榮城子双臺溝附近の敵を**砲擊**して**損害**を與へたり

又大連灣附近巡邏の**一驅逐隊**は小平島附近より現はれし敵の**驅逐艦四隻**を旅順に逐ひ込みたり

大連灣及附近の掃海は、第一期を終り水雷七十個を爆沈し將に第二期に着手せんとす黄海浮流の水雷尚絶えず今日迄に三十個を發見せしも風潮の爲め渤海灣にも流入せり

◎其一

東郷司令長官報告

蓋平附近砲擊の結果より統き七日營口を出帆したる外國滊船々長の言に依れば營口にありし露兵三千砲二十門は同地を撤退し北方へ去れりと

又八日復州灣にて露兵二名乘船して旅順に向はんとするを捕獲せり其言に依れば万家嶺瓦房溝瓦房店には步騎兵三聯隊砲八門ありサムソン少將之を指揮し居れりと尚此捕虜は多數の公文書を所持せり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

四
五下一号
65

四
五十二号

66

東京電報（十四日發）

◎征露大總督府　旅順口陷落を俟たず遠からず大總督府を設置せらるべし

◎ジヤンク又歸る（特發）　芝罘發電報に依れば旅順より避難者を搭載せるジヤク又々歸來せり其言に依れば旅順にある露國非戰鬪員孰れも立退き準備中なりと云ふ

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四五十三号

67

明治卅七年六月十六日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（十六日發）

◎常陸丸砲擊受く　御用船日の丸船員の談によれば常陸丸は敵艦に圍まれ頻りに砲擊を受け白煙を上げたるを見たり多分沈没せしならん

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田長朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四

五丁三号

68

東京電報（十六日發）

◎露艦襲來後報

門司へ避難せし日の丸船長の實見談に依れば十一時過白島の西方沖を航行中西方五海里の處に敵艦を認む常陸丸佐渡丸の二艘は夫れより五海里沖にあり折柄海上風波なく瓦斯立罩む**露艦グロンボーイ、リューリックの二隻**と**砲艦一隻**は近づき來るを以て短艇を卸し投錨の用意をなし一同決死船首を轉じ全速力を以て背進するや金澤丸と遇ひ敵艦の來襲せる旨を告げ共に最近の陸岸地の島に向ひ又跡より來りし脆振丸にも危險を告げ共に門司へ避難せり金澤丸は地島附近へ避難せり

常陸丸は機關部を擊たれし樣なれども其他の消息は知れず

常陸丸は六千百七十二噸佐渡丸は六千二百二十三噸にして共に郵船中の大船なり

白島は筑前若松沖の島

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四
五十三号

69

明治卅七年六月十六日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第參號外

東京電報（十六日發）

◎得利寺激戰公報

一昨日より得利寺附近にて激戰あり我死傷一千敵の大砲多數と聯隊旗とを鹵獲せり敵の死傷我に超ゆ

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝

發行所　島根縣江松市殿町四十三番地　松陽新報社

四
三十三号
70

明治卅七年六月十六日

松陽新報第四號外

浦郷電報（十六日發）

◎露艦隱岐沖に現る　露國軍艦四隻本日午後二時過頃知夫郡宇賀沖に現はれ一隻は坐礁したる模樣に見受らる

◎浦塩艦隊黃海遊弋說

十四日發ロイテル電報に曰く倫敦スタンダートの露都來電に依れば露國太平洋艦隊司令長官スクルイドロフ將軍は浦塩の艦隊は總て六月七日旅順港外三十海里の所に於て日本艦隊に出會せしも旅順口より軍艦一隻も出で來らざりしを以て六月十日浦塩に歸港したる旨電報したる由

記者曰く此ロイテル電報を以て見れば浦塩艦隊は對馬海峽を通過し黃海を北航せしものゝ如し而して十日に浦塩に歸航して更に襲來せしが或は其歸航の途次一昨日來の蠻行を演出せしか暫く記して後報を待つ

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四
五十四号

71

明治廿七年六月十七日

松陽新報第壹號外

東京電報（十六日午後十時二十五分特發）

◎常陸丸佐渡丸共に擊沈せらる

四司發電報に曰く常陸丸の乘組員三十五名は土佐丸に救はれ當港に歸着せり常陸丸は十五日午前十時半頃露艦のため擊沈せられ其際乘組員二百名は海中に飛込みたり

小倉發電報に曰く佐渡丸の遭難者百名はボートにて當地に着せり佐渡丸は常陸丸と共に露艦四隻に砲擊せられ午後三時敵の水雷のため二艘共に沈沒せり船長其他數名は保留せられたり

萩發電報に曰く常陸丸遭難者の一部は阿武郡沿岸へ漂着し其大部分は救助せられたり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　英藩
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

東京電報（十六日午後十時三十分發）

◎三船遭難公報

佐渡丸常陸丸長門丸何れも露艦のため撃沈せらる佐渡丸遭難者七十名は沖の島に漂着し百十七名は小倉に着せり常陸丸遭難者三十名は若松に三十七名は門司に着せり常陸丸遭難者田所軍曹の報告に依れば**露艦は始め空砲を發し次で實彈の急射撃をなし我は彈藥庫を開く間もなく機關破烈し死するもの多し且つ失火せり聯隊長スチ中佐は軍旗を燒き汝等は海を泳ぎ歸りて報告すべしと命じ間もなく破彈に中りて戰死し將校大部は割腹又ピストルにて自殺せり船長事務長は海に投ぜり船は三回の急射撃を受けて全く沈没せり**

長門丸は千八百八十五噸の郵船

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美夢
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四
72
五十四号

明治廿七年八月十七日

松陽新報第五號外

東京電報（十七日發）

◎瓦房店戰敵の損害　倫敦より大本營着電に依れば十四日瓦房店附近の戰鬪に於て露軍の死傷は將校二十三名下士以下三百十一名にして十五日戰鬪の損害は未詳

◎二船の大損害　佐渡丸は機關部に水雷命中し沖の島附近に漂泊す救助として日の丸急行せり常陸丸乘員は殆んど全滅せるもの、如し佐渡丸には下士以下數千名の死者あらん

◎避難者　田村鐵道技師外十二名は壹岐勝本に避難せり

◎佐渡丸の遭難者　佐渡丸乘組の將校皆無事約百名は本船にあり短艇にて遁れたるもの本船に還るもの多し常陸丸乘組員十二名も佐渡丸に來る

（右三項陸軍省着電公報）

◎海軍公報　十五日朝露艦三隻沖の島附近に現はるとの報に接し上村司長官は總艦隊を率ゐて出向し竹敷要港の水雷艇も出向せしが海上朦朧として艦影を認め得ず水雷艇も航行困難にして砲聲の數時間連續するを聞くのみにて敵狀不明なり水雷艇數隻は遁難地に救助船を率ゐて向ふ佐渡丸乘組の今川主計の報告に依れば監督將校は敵艦に行き交渉の結果各員に退去を命じ非戰鬪員は敵艦に收容を承諾せるも運轉手英人の外は乘せず猶豫時間を俟たず兩側より水雷を發射せしが命中せしを以て各員總て海中に投じ全員溺死す七十九名のみ救助せる名水雷艇は頻りに搜索中

◎又々砲聲　今朝又々沖の島附近に於て砲聲聞ゑたりと電報或方に達したり

◎第一軍の前進期　ルーター電報に依れば黑木將軍の軍の遼陽、奉天に向ひての展開前進は奧將軍の軍が旅順口を攻擊する時機の近く到れるを見て之と相應ずるやう精確に時機を計りて決行せらるべしと批評家等は思惟せり

◎露國豫備軍の召集　十四日發倫敦電報によれば聖彼得堡にて十四區より豫備軍を召集せりいて發表せらるゝ所によれば露國は地方六十四區より豫備軍を召集せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四 73 三四号

四
74
五十五号

（明治三十四年十一月十五日第三種郵便物認可）
明治卅七年六月十八日

松陽新報第壹號外

菱電報（十八日發）

◉露艦又々隱岐沖に現はる

露艦四隻中の嶋南方近く出現せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣江松市殿町四十三番地　松陽新報社

明治廿七年六月廿一日

松陽新報第壹號外

東京電報（二十日發）

◎上村艦隊の報告（本紙の續き）

上村第二艦隊司令長官報告

茲ゝ於て本職は敵艦隊が濛氣濃密なるに乘じ既ゝ北方ゝ退却せしもけと判斷し之を追尾せしが爲め針路を北方ゝ轉せしも雨彌劇しく視界益狹く敵影を發見するの望み殆ど絶ゆ翌早朝敵と會戰するの望みを以て速力を增加し敵の退路を扼するの地點ゝ針路を定む此間我艦隊諸艦か高速力を以て濛氣四塞の間に不期の運動を行ひ些の故障をかりしは本職の滿足する所なり此夜水雷艇隊をして索敵動運を取らしめしも其目的を達するを得ざりし十六日黎明豫定地點ゝ達す此時天候回復し視界亦た廣かりしも遂に敵の影を見ず更に針路を轉じ索敵動運を繼續せし其効なく十七日敵艦隊は猶ほ本邦沿岸に在るものゝ如きを以て之を擊んが爲め巡洋艦隊を以て搜索列を張り南下せり此日天候全て平穩ゝして視界廣く心愉に搜索の好望なるを期せしも竟ゝ敵艦隊ゝ會せず同日午後對州の北端を距る北東約百海里の地點ゝ來りしに無線電信に依りて敵は北海道方面にあるの情報に接したるが故に索敵運動を中止し今十九日歸航せり此行動中約四壹夜の搜索運動は竟に何等の効なくして歸航の止を得ざるゝ至りしは深く遺憾とする所なり終りゝ臨み本職は玄海灘ゝ於ける遭難諸氏に對し深く痛恨哀悼の意を表するもれなり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四十六号

75

四十七年

76

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年六月廿二日

松陽新報第壹號外

（廿二日發）

東京電報

◎水雷の浮流　上海發電報に依ればシカゴデーリーニュースの通信船は二十日牛莊航路の海面に於て水雷の浮流せるを發見したりと云ふ

◎亞總督出發說　上海發電報に曰くアレキセーフは露都に向け奉天を出發せりとの說あり彼の知已は彼れが銃殺せらるゝか或は非常の恥辱を受くべきに就て憂慮しつゝあり（既記亞總督は本月六日遼陽出發露都に歸りたるとの報ありしは全く事實無根ありし）

◎露將死す　芝罘發電報に曰く得利寺の戰鬪にて負傷せし西伯利亞步兵第一旅團長ケロングロース少將は間も無く死歿せし由

◎敵の援護軍　倫敦發電報に曰くクロンドラチンコ將軍の指揮せる三師團はスタケルベルグ將軍の退却軍を援護しつゝあり

◎北韓の露兵　元山發電報に曰く十五日露國騎兵二百五十は城津に一泊の後平壤に向ひたりとの報あり又南下せる露兵は十五日長津の民家を燒て江界（長津雲山間の一都邑）方面に退却せり

◎馬賊の活動　山海關發電報に曰く馬賊の棟梁憑林客、杜律山、金集參等は部下九百を率ゐて或活動を試みんため西家屯方面に向へり

（以上特發電報）

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

大正七年六月廿二日

松陽新報第貳號外

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社
發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝

東京電報（廿二日發）

二十日附スクリドロフ提督の公報に曰はく日

◎露艦浦鹽に歸る

本海に遊戈したる巡洋艦隊は何等の損傷も受けずして浦鹽へ皈着せり

◎對韓策決定

過日來凝議中なりし我對韓政策に愈廟議決定したるを以て林公使歸任の上は大に見るべきものあるべしと云ふ

◎敵の二艦一船沈沒

東郷司令長官報告

二十一日午前八時旅順港外より封鎖勤務に服せる第五驅逐隊が港内より出でたる支那船の支那人二人を抑留して詰問したるに三四日前敵の驅逐艦一隻は旅順港外約一里半の處にて布設水雷に罹り沈沒し兩艦の死傷百四十許なり又新太平號と稱する滊船も數日以前港外より於て作業中爆沈せりと

四十七号
77

明治三十七年六月廿三日

松陽新報号外

東京電報（廿三日發）

◎日露公債取引禁止

獨逸政府は日露戰爭間全國取引所にて日露新公債の賣買を禁止せり

◎露軍の架橋

露軍は韓錢を徵發して豆滿江に架橋し居れりと

◎敵の糧食本部

露軍は大石橋を糧食本部を置けり

◎總司令官以下新任其他

左の如く仰付らる

滿州軍總司令官　大山巖

滿州軍總參謀長　參謀總長陸軍大將　兒玉源太郎

參謀次長陸軍大將　福島安正

陸軍少將　井口省吾

陸軍少將　山縣有朋

滿洲軍總司令官參謀　元帥陸軍大將

參謀總長　陸軍少將　長岡外史

參謀次長

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美穂
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四十八号

78

明治卅七年六月廿四日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿四日發）

◎退却露軍の集中

北京發電報に曰く一度び南下したる露兵は到底旅順救援の難きを見て退却を始め目下大石橋に集中しつゝあり露軍は遼陽を死守するの形勢あるも第一軍を牽制するが爲め柳木城に增兵をなせり

◎得利寺戰敵の損害

露國第一軍團長スタケルベルグ中將の公報に曰く得利寺瓦房店附近の戰にて露軍の死傷左記の外は未詳なり

▲東西伯利亞師團將校七十六名卒以下千九百四十六▲第三十三第三十五第三十六聯隊將校二十八名卒八百二十名▲第二砲兵旅團將校十名卒三百三名▲第九砲兵旅團將校一名卒二十五名▲トボルスク聯隊將校二名卒四十六名▲チルチンスク聯隊將校六名卒百四十名

右の內戰死將校四十二卒八百四十八、負傷將校六十九、卒千七百六十七、失踪將校十二、卒六百七十五總計三千四百十三

◎滿州丸着仁

觀戰船滿州丸は二十二日夜仁川へ着し二十五日乘組員一同は韓帝に謁見する筈

◎前古未聞

倫敦各新聞社の通信員は孰れも我國の俘虜を優待するを見て前古未聞と評せり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田夫朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

四十九号

79

明治四十七年六月廿四日

松陽新報第貳號外

東京電報（廿四日發）

◎鐵陽邊門の擊退

黑木司令官公報二十三日大本營著

約歩兵一聯隊騎兵二聯隊砲兵一中隊より成る敵兵は二十二日蓋馬集より前進して鐵陽邊門なる我一部隊を攻撃したるも夜に入りて新開嶺方向に退却せり久保田少佐は此戰にて戰死せり現に認められたる敵の損害は戰死五負傷二十餘なりし

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　[illegible]

島根縣松江市殿町四十三番地

發行所　松陽新報社

四十九号

80

明治廿七年六月廿五日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿五日發）

◎獨逸の派艦　某所へ達したる電報によれば獨逸は八月迄に更に三隻の軍艦を東洋に派遣すべしと

◎發航見合　廿四日佐世保發電に曰く當地より某地點に向け出航の筈なる船舶は何故にや本日俄かに出航見合せの命に接したり

◎旅順港外の砲戰　公報に依れば一昨日敵艦隊は旅順港内より出て來り我艦隊之に應戰し多少の効果を得たる由（詳細後報）

◎旅順艦隊殆んど全滅　廿三日旅順口を出で得る丈けの敵艦及び驅逐艦突出したるを以て我艦隊は全力を擧て之れを攻擊し敵の巡洋艦三四隻驅逐艦數隻を擊沈し殆んど敵艦隊をして全滅せしめたり我が損害は甚だ僅少なり（詳細後電）

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　大伊
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

四五十号

81

明治卅七年六月廿六日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿六日發）

◎敵の將校斥候を捕獲す

黑木第一軍司令官報告

二十四日朝サシコウレイよて狙擊第二十四聯隊少尉フリーシュマン及ひ卒一名を捕獲せり彼の言に依ればケルレル中將はヴアリエンジにある狙擊第六師團長に命ずるゝ黑木大將の軍は岫巖方向より鳳凰城方向へ運動する模樣なるに依り之を偵察すべきを以てし之が爲め少尉は派遣せられたるものなり又敵の陣地はヴアリエンジの東方約四里トウマリウカ東方の高地にして堅固なる防塞工事あり野砲二中隊ありと連山關附近には狙擊第三師團ありて其位置確實ならず

今朝ツンコブーザ（雪裡店の西方約二里）附近にて狙擊歩兵第二十四聯隊中尉ヤウオスキー及下士二名を殺し其屍体を埋葬せり中尉も同じ任務ゐて出たる由なり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　大秋
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

五一号

87

東京電報（廿六日發）

◎得利寺敗兵

二十五日發山海關發電に曰く得利寺敗兵一萬六千餘十八日海城附近に退却營し又蓋平より海城に向へる滿車四十臺には死傷兵約一千を載せ居れり

◎露兵の動靜

仝電に曰く數日前露兵三千海城より析木城に進軍せり目下遼陽殘留兵は一万以内に減少せり

◎大連灣掃海終了

廿五日門司發電に曰く大連灣掃海事業既に終了し遠からず自由に船舶を通行せしめ得べし

◎玄海の警戒

浦鹽及旅順艦隊逸出の形勢ある爲め玄海灘通行船舶は嚴重なる警戒の下に航海しつゝあり

◎海城集中

廿五日ロイテル發電に曰く露國陸軍省の受けたる電報によればクロパトキンは黑木大將の側面攻擊を受くる虞れあるを以て强いて日本軍と蓋平に戰ふの意なく却て海城に集中せんとせり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

五一号
83

明治卅七年六月廿六日

松陽新報第參號外

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

東京電報（廿六日發）

◎旅順港外海戰詳報

東郷司令長官報告

聯合艦隊は二十三日旅順港外ゝて敵艦隊を攻撃せり此日早朝より敵艦隊ペレスキット、ポルタワ、セバストポリ、バーヤン、パルラタ、イアナ、アスコリト、ノーキックゝは數隻の掃海汽船を先頭として漸次港外に出んとするものゝ如く封鎖勤務にある我哨艦は無線電信を以て其擧動を警告せり此に於て敵の出動に對する豫定計畫に基づき各方面ゝある諸隊直ゝ發動の準備を整へ艦艇は逐次に出航して急速旅順ゝ向ひ特別任務にある艦艇の外我艦隊は悉く豫定位置に集中せり是より先第一驅逐隊及び第十四水雷艇隊等は港外にありて終始敵の動靜を監視せしが午前十一時頃に至り敵艦隊はツエザレウキッチ、レトウキザン、ポベータを加へ全力悉く港外に出で其許多の掃海船艇は我機械水雷布設面を航破して漸次通路を開かんとするを見屢次近つきて之を妨碍し午後三時頃四驅逐隊十四艇隊は掃海を掩護せる敵の驅逐艦七隻と砲戰して之を擊退し其一隻は我砲彈の爲め火災を起して港内に遁入せり次て敵艦ノウキックは其驅逐艦を掩護するが爲め近つき來たり我を砲擊せるを以て我驅逐隊艇隊は遂に退却し戰隊ゝ合せり之を當日戰鬪の發端とす

然るに敵は掃海を急行し敵の艦隊はノウウキックを先頭とし掃海汽船の後方に從ひ沖合ゝ出で來り午後四時を過る比第三戰隊は其部下を集團して敵と接觸を保持し漸次之を南方に誘致せり敵は初めは南東の針路を取りしが次で西南に變進するが如くなりし此の時第一戰隊は禹岸の南方にて尙ほ敵の視界外になりしが先づ驅逐隊水雷艇隊を集合して襲擊準備をなさしめ徐ろゝ敵の洋中に出るを待ちしが六時十五分に至り始めて敵艦隊を禹岸の北西約八海里ゝ見たり敵はツエザレウキッチを先頭とし戰鬪艦を前に巡洋艦を後ゝ十隻の單縱陣をなしノーウキック及ひ驅逐艦七隻を右側に置き南ゝ向へり我艦隊は戰鬪旗を揭げ戰機の熟するを待てり午後七時三十分彼我の距離一万四千米突ゝ入り我艦隊は敵の隊列に對し逆まにイの字形を畫きしが敵は次第に右方ゝ針路を轉じ得れど同方向ゝ進まんとするもの〻如く我も少しく右方に轉進して終始敵の先頭を壓せり然るゝ午後八時過ぐる頃敵は終に針路を北方に反轉し旅順口に向ふ如くゝなるを以て我艦隊は一齊に敗き八點に廻頭し横陣を以て姑らく之を逐ひしが時正に日沒ゝ近く水雷襲擊の事業稍熟せしを以て八時二十分驅逐隊水雷艇隊に襲擊を命じ同時艦隊は左八頭ゝ廻頭して單縱陣ゝ復す各驅逐隊艇隊は直に我艦隊の後尾を過ぎ疾風の如く敵に向つて進めり午後九時三十分の頃十四艇隊は港外約五海里ゝて敵艦隊の後尾に對し既に第一の襲擊を試み第五驅逐隊之に續けり敵の艦隊は倉皇順序を亂し旅順口に向ひしが終に港内ゝ入る能はずして午後十時三十分頃皆燈子營砲臺の前面より城頭山の下に投錨せり是より終夜驅逐隊艇隊は敵艦隊及び敵要塞の無數の探海燈と猛烈なる防禦砲火を冒して天明に至るまで連續前後八回餘の襲擊を爲せり此襲擊中奏功を確認したるは午後十一時三十分の頃鮮生角の方向より迂回して急進したる十六艇隊の攻擊にして我林中佐の指揮せる白鷹はペレスウキット型と見ゐたる敵艦の艦首に對し斜に二號水雷を發射し同艦の大火焰を上て轟沈するを目擊せりと云ふ其他の効果に就ては敵の防禦砲の音激甚なりしと海面を擊てる敵彈に依り無數の水柱上りしため我艦艇より確實ゝ認め得たるものなし翌天明港外を偵察したる四、五驅逐隊其他哨艦の見る處を綜合すれば敵艦隊は數に於てペレスウキット型一隻を減じ外にセバストポリ型一隻ヂアナ型一隻だけは自力ゝて航行し得ざるだけ損害を受けたるものと認む蓋し當夜月明かにして襲擊に便ならざりしと敵艦の碇泊陣列我發射線に對して狹小の正面を現はしたるが爲め効果多大ならざりしも我攻擊隊に於ても敵砲火の猛烈なりしゝ拘はらず損傷意外ゝ少なく第一驅逐隊の白雲は敵彈に士官室を壞られ火災を起し舵機を損し下士卒三名戰死し宮川少軍醫以下二名負傷し十四艇隊の千鳥は後部機關室に炸發せさる巨彈を受けたると六十四號艇六十六號艇が少許の損害を受けたると五十三號艇の準士官一名負傷したるゝ過ぎず各戰隊の諸艦に至りては固より損傷なし此戰鬪ゝて聯合艦隊が少許の損害を以て敵を屈したるものは一に　大元帥陛下の御稜威ゝ依る

二十四日旅順港外の敵艦は或は曳かれ或は自力ゝて港内に入り午後四時頃城頭山に擱坐せりと見ゐたる一艦の入港するを最後として港外又敵影を見ず是に於て聯合艦隊の諸隊は再び豫定の配備に就けり

◎得利寺戰損害公報（大本營着）

得利寺附近の戰鬪に於ける我軍の損害は左の如し

戰死將校七名、下士以下二百十名、負傷將校四十三、下士以下九百三名、馬匹死廿六、傷六十七

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

六月廿七日 第七版

松陽新報 第壹萬壹百九拾九號

東京電報 （廿七日發）

◎滿洲政務革新

清國政府は滿洲の政務革新を斷行する事に決定し其總督候補者は肅親王袁世凱なり

◎大連灣の復舊

大連灣の掃海は全く結了し附近の鐵道線路の修繕も落成せり今後の活動上多大の便益を來すものなり

◎旅順の窮狀

旅順口にては日本軍隊の攻擊を待受け婦女子等は四散せんとするも道路なく運命旦夕に迫り居るを悲み其の慘情目も當られず又兵糧食物益不足を告くるを以て勇氣大に沮喪せり

◎旅順方面の偵察

遼陽よりの報に依れば我斥候は幾多の危險を冒して土城子營城子附近の偵察に往きたるに敵の爲め我兵三名戰死し一名は三ケ所の負傷なしたるも辛じて歸來せり土城子に於ける敵の防備は無數の砲臺を以て固め南山よりも更に嚴重なり

營城子は旅順より六里二十町にあり土城子は其中間旅順より約三里の處なり

發行人兼印刷人 原 豊次郎　編輯人 吉田 美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所 松陽新報社

五二号

85

五二号 86

東京電報（廿七日發）

◎再び大石橋以南に備ふ　蓋平附近の敵の一部は熊岳城を撤退したる當時大石橋方面に退却せしが昨今再び增兵して大石橋以南に約二万の兵力を配備せり

◎析木城に集中す　敵は大石橋方面の防禦を掩護せんが爲め海城より前進して岫巖街道析木城附近に二個師團の兵力を集中せり

濱田電報（二十七日發）

◎屍体漂着　昨日富地沖に玄海灘遭難者の屍体二個（五個ともいへど未詳）漂着せり委細後報

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

87

五三号

八月廿八日 松陽新報

東京電報（廿八日發）

◎露艦北海に現る　札幌發電報に曰く二十七日朝露艦らしきもの七隻宗谷海峽に現はれたりとの急報あり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

松陽新報第貳號外

東京電報（廿八日發）

◎分水嶺占領公報

大孤山上陸軍報告廿七日午後大本營着

軍は廿七日午前五時より十一時に亘る激戰の後分水嶺（岫巖の西方約九里）を占領せり敵は潰亂して柝木城方向へ退却せり此敵兵數は歩兵五大隊騎兵二聯隊砲十六門なり此戰に損傷は大庭少佐戰死し其他死傷百内外ならん

◎敵軍の大計劃

二十六日發北京電報に曰く露軍は海城附近にて大決戰を試みんとするの計畫をなし西比利亞及び本國よりの增派兵續々同地に輸送せられ全數約五六個師團に達すべしとの報あり

◎營口方面の砲聲

二十七日北京發電報に曰く營口よりは二十四日午後七時より翌朝まで掛け南方遙かに砲聲を聞けり

◎旅順の砲聲

二十七日芝罘發電報に曰く羊頭灣（鳩灣）を發して當地に歸着せしジャンクの所傳報導に依れば二十五日午後九時頃より翌二十六日の朝五時頃まで老鐵山方面と小平島附近に砲聲を聞けり

◎日債騰貴

廿六日倫敦發電報に曰く旅順海戰の結果として倫敦市場に於ける日本公債は一磅方騰貴せり

◎蓋平戰近づく

二十七日北京發電報に曰く日本軍は更に熊岳城より北進し蓋平の南方三十清里（五里）の地にて既に斥候の衝突あり兩軍の大戰鬪遠からざるべし

◎仲裁進捗說

二十六日發倫敦電報に曰く英國皇帝は獨逸國キールのヨット競走會に臨まんが爲め同國へ赴かれたるが獨逸皇帝と會見の結果は交戰國内に仲裁を入るゝの議大に進捗すべしと大陸諸國にて豫期せらる

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

五三号
88

明治三十七年六月三十日

松陽新報號外

東京電報（三十日發）

ロイテル電報ニ曰ククロパトキンの報告ニ依

◎分水嶺占領敵報

日本軍は二十六日摩天嶺大嶺分水嶺の峽隘を占領せりと

◎砲臺破壞

二十四、二十五日我艦隊の砲擊せし爲め老鐵山の第二砲臺は破壞されたり

◎旅順現狀

旅順參謀部は我砲擊を恐れて地下に穴を穿ち何時ニても此處に移るの用意をなし婦女子も別の地下室ニ收容せり市街の重ゐる建設物ニは地雷火を埋設ス兵士の逃走するもの日々增加す

◎ポペエダとヂアナ

二十三日の海戰ニて白鷹の擊沈したるはポペエダ（公報ニペレスウヤツト型とありし分）なる事を確認されたり又ヂアナ型一隻は破損沈沒せしか戰鬪力皆無となりしからん

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

五四号

89

明治卅七年六月三十日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第貳號外

東京電報（三十日發）

◎北韓の露兵退く

京城發電報に曰く元山よりの報に依れば南下したる露兵の出沒常ならざれども其大部は漸次浦鹽方面に退却しつゝあるものゝ如く長津方面には全く敵影を見ずと

◎無線電柱新設

芝罘發電報に曰く露國領事館設置の無線電信は四五日以前新たに大なる電柱らしきものを建設せり

◎海城附近の敵軍

大石橋海城附近に集中せる敵は東部西比利亞狙擊歩兵第一、第五、第九の三箇師團全部及び本國より增派せる第三十一、第三十五兩師團の各一旅團砲兵約百二十門西比利亞豫備砲兵二十門と黑龍省ザバイカル西比利亞騎兵約二十中隊とにて日々輸送頻繁なり

◎遼陽の防備

遼陽の露軍停車場の周圍三清里に亘り深さ五六尺の穿を穿ち其工事終るや支那苦力を追ひ拂ひて徹夜秘密に地雷火を沈設せり

◎露艦元山を襲ふ

本日午前京城發急電に曰く本日午前五時より露國軍艦三隻は水雷艇を率ゐて元山に來襲し水雷艇を以て只今同港を砲擊中なり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美鶴

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

五五号　90

五六号

91

明治廿七年七月一日

松陽新報第壹號外

東京電報（三十日發）

◎露艦襲來後報

三十日午後大本營着元山發公報の要領

元山京城間の電信は午前十一時五十分より開通せり

敵は小蒸氣一隻帆走船一隻を擊ちて一旦葛麻角（元山灣の一角）に集りしが午前十時三十分より

雨強くして如何になりしや見えず

敵艦數は軍艦三隻驅逐艦一隻水雷艇六隻は逐次港外に出でたる後水雷艇九隻ありしが夫れより一度北に向ひしも更に港外に集り居りしが午前十時三十分より

燒き沈

八十餘にして目留地には多少の損害ありたり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

七月一日 松陽新報 第四頁

東京電報（七月一日發）

◎鳩灣占領

三十日發芝罘電報に曰くジャンクの報する處に依れば二十七日我軍は鳩灣砲臺を占領せり

◎黑鳩の本營

三十日發上海發電報に曰く大石橋は黑鳩將軍の本營となれり

◎蓋平占領近づく

三十日發上海電報に曰く蓋平は日本の海陸兩軍に迫られ危急なり

◎營口附近の占領

三十日芝罘發電に曰く營口よりの報に依れば我軍は二十六日同地の南約六哩の地を占領せり

◎機械水雷を布く

三十日發釜山電報に曰く寧國水雷艇は一旦元山港外に引返し機械水雷を沈設せしもの如し

◎元山の被害

三十日發京城電報に曰く露艦元山砲擊の爲めに日本人二名韓國人二名負傷し領事館官舍へ一彈一居留民家中にも飛彈あり二ケ所火災を起したるも直に消し止めたり一旦避難なしたる居留民は露艦發航後無事何れも居留地へ歸りたり

◎清國の照會

三十日北京發電報に曰く清國は露國に對し敗兵の暴行取締り難きにつき嚴重なる照會をなし且つ此專清國の中立と重大の關係を有する旨を主張せり

◎潛航艇沈沒

二十九日發ロイテル電報に曰く露都よりの報によれば三十二名は昨日潛航艇デソフイン號に搭乘したるが同艇の普通搭載力は十名なる爲め忽ち沈沒し大尉一名外二十名溺死せり但し艇は救助せられたり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

十六、97

五七号
93

明治二十七年七月二日

松陽新報第壹號外

東京電報（二日發）

◎露艦又々襲來す

昨夜夜半下關發電報に曰く露艦三隻水雷艇五隻昨一日午後八時二十分再び筑前沖の島附近に現はれたりとの確報あり爲めに船舶の航行中止せらる

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　大輔
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年七月二日

松陽新報第貳號外

東京電報（二日發）

◎敵軍の自認　クロパトキンの報告ゝ曰く分水嶺を占領したる日本軍は二十七大隊より成り露軍の大損害を受けたる事を承認せり

◎露國軍港の椿事　倫敦發電報に曰く露國軍港クロンスダットの兵器庫に火藥爆發ゝ火災を起ゝ化學試驗室等破壞せり其原因は何者かの陰謀ゝ依るものならん

◎露艦牛莊に密航す　一日發芝罘電報ゝ曰く營口よりの報によれば露國驅逐艦一隻は旅順よりの通信を齎らし廿九日遼河を溯りて牛莊ゝ到着したり

◎日露艦隊の開戰

昨日午後七時三十分對馬海峽に於て我艦隊は露國艦隊と衝突し開戰せりとの確報あり未だ詳細なる報告なし

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

五七号

94

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年七月二日

松陽新報第參號外

東京電報（二日發）

◎日露艦隊衝突後報（午前十時卅分東京發）　昨夜八時三十分頃迄對馬海峽に砲聲を聞きたるも其結果未だ達せず多分追擊中なるべしと云ふ

◎海軍省着情報　昨日午後七時過き壹岐對島の附近に露艦三隻現はれ砲聲聞えたり

◎別報　情報に依れば露艦は昨日午後六時四十五分壹岐の北端ゝ近き處を南西に進航し次で針路を東ゝ轉じ又北に轉じ八時半頃より十五分間計り砲聲を聞きたり

◎旅順方面の砲聲　一日芝罘發電報に曰くジャンクの報によれば三十日午后二時頃より旅順方面に砲聲を聞き又一日正午芝罘より三十海里なる所に於て激烈なる砲聲を聞けり

◎露軍の落膽　二十三日の海戰後旅順は背面攻擊の爲め陷落の已むなきを覺悟し全軍落膽せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

95

五七号

八号 96

明治廿七年七月三日

松陽新報號外

（三日）

東京電報（發）

二日發芝罘電報ゟ曰く羊頭灣より來れるジャンクの報ゟ依れば

◎敵艦擊沈と大損害

港外に出てしに我艦隊の爲め二隻擊沈せられ二隻は大損害を受け一隻は逃走せり

◎敵艦修繕

前項ジャンクの齎す報告によれば先日の二回の海戰に於て損害を受けたる敵艦二隻は旅順のドックにあり晝夜兼行ゟて修繕を急き居れり

◎旅順の日探

開戰以來旅順口に於て日探の嫌疑に依り殺されし支那人二百名以上なりと

◎ス提督迎へ

二日芝罘發電に曰く二十九日旅順港外に出たる驅逐艦の一隻はスクルイドロフ提督の陸路營口に來り居りしを迎へんが爲め牛莊に赴きたるものゝ如し

◎絶影島の砲聲

二日釜山發電に曰く今朝絶影島の西南ゟ當り砲聲を聞き其都度電光を見たり多分彼我艦隊の交戰ならん

◎旅順殘留の清人

旅順口に殘留せる支那人は目下三四百名あり若し夜間集合して密談する時は露兵は直に侵入して拘引し又は銃殺し又戸外に佇立すれば怪みて狙擊せらるゝ事屢ありと云ふ

◎又々逸す

三日門司發電に曰く對馬より其筋への電報ゟよれば

一昨夜一時頃沖の島の西北十海浬の處にて彼我艦隊砲火を交へたるも眞の戰鬪をなさず敵は遂に北東へ逃げ失せたり

◎旅順附近の占領

我軍は二十六日小平島の西旅順を距る三里の地點を占領し敵の捕虜約七十名をダルニーに送れり

◎同敵報

二日ルーター發電に曰く露國公報ゟ依れば

旅順の東八海里なる龍王溝諸山を占領せり此時露國砲艦及水雷艇は旅順より來りて海上より援助せり日本軍の强大なる諸縱隊はダルニー旅順間の中央道路に沿ひ進軍中也

◎航行開始

二日門司發電に曰く本日より船舶の西航を開始せり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉岡　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治三七年七月三日

松陽新報第貳號外

（三日發）

東京電報

◎二日發芝罘諸電

▲旅順の近況 昨夜より今朝に掛けダルニー旅順よりジャンクにて來れる歐洲人幷に支那人の報告を綜合すれば連日の戰鬪にて露軍は多數の負傷者を出したりと旅順の西南三十清里（七里）の海間に**軍艦一隻坐礁**し居れり三十日旅順も大軍艦四隻驅逐艦十隻ありしのみなれば其他は港外に出でたるならん

▲一日の海戰說 昨一日午莊より入港したる獨逸船は一日午後一時頃芝罘より四十海里の所より**日本の戰鬪艦二隻巡洋艦五隻か北に向ひ砲擊**するを見たり多分露艦の海上に出て戰鬪せしものならんと想像す

▲又 昨日來旅順方面より來れるジャク曰く一日午前十一時頃より午後六時頃まで絶わす砲聲を聞きたり**小平島**は**二千八百の日本兵**あり

▲ス提督來旅說 當地の獨逸人は驅逐艦牛莊に入り**スクリドロフ提督を乘せ來れりと斷定**せり露艦港外に出でしは是れか掩護まあらすや

▲旅順の敵艦と士氣 一日午後八時旅順港内を出でしもの曰く港内は軍艦〇隻（不明）驅逐艦九隻水雷艇廿四隻ありと此說信なれば他の軍艦七隻は如何にありしか二十三日の海戰よりは**ポルタワと水雷艇一隻は破壞**せり旅順の兵卒は日本軍を恐れ將校を殺し逃走せんと企て居るとの噂高し

◎露艦襲來情報 其筋への情報によれば敵艦三隻は一日午前七時頃對馬の東水道に現出し我艦隊及艇隊は之に對して動作し敵は遂に北東に退却したる如く諸種情報により判斷するに未だ詳細の報告に接せざるを以て委細の事實分明ならず

◎露艦北航說 情報に依れば二日午後十時半頃敵艦隊ならしき軍艦三隻哨艦四隻北海道後志コウゴホリ沖合を北に向け進行せりとの報あれども未確報なし

◎貿易商の拘引 二日長崎發電に曰く貿易商江崎屋及本田屋主人は或嫌疑に依り賣春婦稻佐のオエイと共に拘引せらる

發行人兼印刷人 原豐次郎　編輯人 吉田美彰

登行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治廿七年七月四日

松陽新報第貳號外

東京電報（四日發）

◎營城子占領說

三日發芝罘電報に曰く旅順より來れる露國人の談る依れば二十日營城子附近にて激戰あり露軍の死傷三千に達し同地附近一帶の高地は日本軍に占領せらる

◎東學黨蜂起

三日發京城電報に曰く京城にて東學黨一千餘名蜂起し鴻山なる暴徒三百餘一揆を起し巡撫の力にては容易に鎭撫する能はず

◎露艦追擊に就て

三日發門司電報に曰く本日入港せる某船の信すべき報導に依れば敵艦隊は壹岐水道より艦首を轉じ最初來襲せし日本海の航路に引返し逃走せしを我艦隊は之と接觸を保ちつゝ追擊したる事疑ふべからず

◎敵の馬匹徵發

二日發山海關電報に曰く海城附近にて露軍の徵發せる馬匹千六百餘頭は既に遼陽へ輸送せられ尙引續き買收しつゝあり

◎襲擊奏功說

三日發竹敷電報に曰く一日夜敵艦隊は我艦隊の砲擊の爲め北海に向け逃走するや他の我艇隊は更に進んで一回の襲擊を試み効果を奏せしよしなるも彼の損害其他未詳

◎敵の水雷爆發

盛京省コクセキショウ海岸にて敵の機械水雷漂着し巖石に觸れ爆發し爲めに我某聯隊の步兵將校二名下士六名負傷三好少尉重傷を負へりとの報ありたり

◎亞總督の報告

亞總督は二十三日の海戰に關し旅順司令官の報告を電報せり先づ戰況を揭げて一一日本水雷を擊退せる旨を述べ又少なくも日本水雷艇二隻を撃沈し餘の軍艦は總て滿潮を待ち港內に歸りたりと述べたり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

七 第七年 五

發行三十四年十一月五日第三種郵便物認可

松陽新報第壹號外

東京電報（五日發）

◎日本軍退却

ロイテル電報に曰く（クロパトキン將軍の報告に依れば日本軍は熊岳城より進軍せるもの〻外進軍中止し大石橋及び鳳凰城以北より東方に退却しつ〻あり

◎露軍の大嶺占領說

全電に曰く露軍は攻勢を取り大嶺の峻を占領したりと

◎黑鳩の奮發は大石橋にあり全軍を率ゐて近日大激戰をなす見込みなりと

天津發電報に曰く

クロパトキン將軍

◎旅順の主力營に在り

全電曰く

旅順軍の主力は水師

◎露艦再び武裝す

山海關發電に曰く營口にある露艦シヴーチ號は再び武裝せり旅順に廻航せんが爲めならん

◎敵將の憤死

全電に曰く旅順にある露國將官一人は各將官間反目不一致と危機の日々切迫せるとに依り煩悶の結果遂に毒を仰で憤死せり

◎柝木城の敵

全電に曰く柝木城附近の敵兵は

目下三万

なり

◎露兵清兵を殺す

上海發電報に曰く遼西の支那兵十五六名は露兵の爲めに殺されたるを以て袁世凱は嚴重なる談判を開始すべき旨を訓令せり

◎露國漸く醒む

全電に曰く露國は清國に對し秘密に滿洲還附の運動をなし居れり

◎遼陽の殘兵千に過ぎず

全電に曰く露兵頻に南下し遼陽に殘留せるは僅に

六

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

立花文庫 99

明治二十四年十一月五日第三種郵便物認可
明治二十七年七月五日

松陽新報第貳號外

東京電報（五日發）

◎第一軍の新占領

二日第一軍方面戰地發報ニ日く

中央隊は摩天嶺小摩天嶺新開嶺の線を畧取せり前面の敵二千は甜水站西方へ退却せり又東北部隊の一部は二十九日敵の抵抗なく北分水嶺を占領せり此敵はホンケイコ西方の山地より退却せり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

100

土拾九号

明治廿七年七月六日

松陽新報第壹號外

東京電報（六日發）

◎英艦派遣

英國砲艦エスピエーグル號牛莊へ派遣を命ぜられたり

◎大石橋襲擊

海城發特電に曰く二日未明我軍の一部隊は濃霧に乘じて大石橋の南方に露營せる敵を襲擊し砲十二門を鹵獲し敵の死傷三百に達せり

◎海城附近の衝突

二日海城の南二十里堡に於て衝突あり

露軍は死屍數百砲十數門とを戰場に遺棄して海城に敗走

せり翌三日海城より枯草に裹みたる露兵の死屍數百を馬車に積み鞍山店に輸送せり

◎戰ずして退く

柳木城の敵は二十九日歩騎兵五六大隊砲約數十門を以て我大孤山上陸軍を逆襲する模樣ありしが遂に戰はずして退却せり

◎黑鳩の戰略を難す

露國の一將官は佛國從軍記者に語て曰くクロパト將軍の二ケ月以內に本國より來着すべき援軍を待たずし輕卒に戰鬪を開きたるは作戰上根本的に謬りたるものにして九連城得利寺にて二大打擊を受けたる露軍は更に多大なる援軍の到着する迄は退却するの外策なし强ゐて雌雄を決せんとせば更ゐ不名譽れ戰敗を重ぬるの外なし云々

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美穎
發所　行　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

七月六日 松陽新報 第貳號 外

東京電報（六日發）

◎摩天嶺の擊退

黒木司令官報告五日大本營着

四日午前四時頃敵兵二三名摩天嶺の西北約二キロメートルの我小哨に現出し次いで約一中隊の敵兵同小哨を急襲せり小哨長吉田少尉は忽ち之を其後方に報するゝ共に漸次退却し眞本隊と合せんとするや他約一中隊の敵は北方山地より現はれ我を包圍せり吉田少尉は部下の大部を南方山地に派遣し自ら五六の兵卒と共に止まり格闘して敵を切る事十數名遂に血路を開きて退却せり前哨部隊は銃撃を開き直ゝ陣地に就かんとせしも敵の一部は既に我陣地に侵入しあり爲に於て彼我悲慘なる格闘戰をなせり此際該前哨部隊の一部は南方山地より側撃したる爲め敵は退却の色あり恰も好し前哨主力の一部も之に遭遇して遂に敵を擊退せり是に於て馬場大佐は部下の一部を率ゐ追撃して金家堡子附近に抵り塔灣西方の敵と對せり小匂嶺西方なる我前哨部隊前に摩天嶺方向より少し後れて敵來襲せしが忽ち擊退せり爾敵の兵力約二大隊なりき而して此戰闘は殆んど白兵戰にて我死傷の多くは數ケ所の傷を負へも我死傷特務曹長吉塲字治以下十名負傷中尉河野治一（重傷）少尉小林都四郎（輕傷）以下三名敵の隊號は摩天嶺に向ひしは歩兵第十第二十四聯隊新開嶺に向ひしは歩兵第二十二聯隊にして楊子嶺方向に退却し其の少數は塔灣及び其の西北高地附近に停止せり敵の死体にして我軍の埋葬せしは五十三名負傷者約四十名追撃の爲め生じたる敵の死傷は未詳なるも尚は多數あるを認也

◎露軍の送砲準備

倫敦發電報に曰く露軍は戰場に送らんが爲めバルチック艦各要塞地の重砲を取下しつゝあるも日本は砲の數量に於て露國に優されて而已からず縱橫の巧みなる点に至りては到底露軍の企て及ぶ能はざるなる点にあらずと認らる

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　大輔
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

大こう

松陽新報

東京電報（六日發）

◎總司令官一行出發

大山滿洲軍總司令官兒玉總參謀長の一行は愈よ本日午前十一時を以て戰地に向け出發せり官民數千名新橋停車場迄見送りたり

◎繃帶御下賜

本日皇后陛下より御手製の繃帶十二卷入り三十個を海軍省へ恩賜の御沙汰ありたり

◎北韓の露兵

五日元山發電報に曰く目下鏡城に在る露兵は百七十餘にして全地以北には交通機關完備し其以南にも電線を架設すべしと確報あり

◎露國平和を望む

露都の新聞紙を始め一般地方輿論は日露戰爭に對して其悲觀的狀態にあるを非難し又國民中には將來に付己に失望を抱き何時にても平和の終局を結ばれんことを唱ふる者多し

◎露艦派遣勅許說

露都發の信ずべき報に依れば露國海軍總督アレキシス太公は黑海艦隊所屬の艦船を以て太平洋第三艦隊を編成するの勅裁を經たり尙トルコ皇帝より右艦船は再び黑海に歸航せざる條件の許さダーダネルス海峽通過の允諾を得バルチック艦隊と同時に極東に向け出發すべしと

◎訂正

前電摩天嶺の擊退の項中輕傷三名とあるは三十六名と訂正せらる

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

103

大一ヒ〉

明治四七年七月七日

松陽新報第壹號外

東京電報（七日發）

◎旅順港外に備ふ

情報に依れば旅順よりあと敵の軍艦及び驅逐艦は再び港外に出で前面に防材を設き其下部より鐵條を沈め居れり尚驅逐艦中時々小平島附近に密航するものありと

◎旅順の皇族逸す

旅順にありし露國皇族は先日逸出して營口に逃れたる驅逐艦ブルコフ號にて無事避難せりと

◎英船を沒收す

六月十六日佐渡沖合にて露艦のため捕獲せられたる英國汽船アラントン號は捕獲審檢所にて審檢の結果貨物は勿論汽船に至る迄沒收する事に決定せりとの報あり或は之がため英露間に國際問題を惹起するやも知れずと云

◎英船の行衛不明

六日小樽發電報に曰く京釜鐵道の用材二万本を搭載して去二十八日釜山へ直航せし英國滊船セルランハム號は行衛不明となれり

◎水雷沈設は事實

六日發元山電報に曰く露艦の元山發來の際港口に水雷を沈設せしは目擊せしものあり確實なり

◎鐵道敷設

六日發京城電報に曰く平壤鎭南浦間の鐵道は急敷設する事に決し既に工事に着手せり

◎清廷の訓令

六日北京發電報に曰く清廷は袁世凱、馬玉崑に對し日露大戰の機は迫れり蒙古遼西の中立地域は之れを限定す可し危急の場合には更に訓令を俟つ可しと電訓せり

◎敵軍增加說

六日發ロイテル電報に曰くクロパトキン部下の兵力は追々增加して遼陽及び海城に於ける位置は極めて安全となれり

發行人兼印刷人　原　豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社
編輯人　吉田　美朝

六三ヒ

105

大正七年七月八日

松陽新報第壹號外

東京電報（八日發）

●旅順背面の激戰　七日發芝罘電報に曰く六日○○○○に於て激戰あり我軍は旅順を距る○○清里の地に迫り日々陸戰と斥候衝突にて露兵の死傷夥しく病院は滿員となる

●我軍迫る　七日午後九時上海發電報に曰く錦州よりの來電に依れば日本第二軍の斥候將校四名は兵卒百名を率ゐて蓋平の北牛家屯に至る又黑木軍は柝木城に迫れり

●旅順砲臺陷る　全電に曰く五日旅順の北東二十清里なる某砲臺は我海軍の砲擊中我歩兵の突貫に遭ひ露兵は守を棄て退却せり

●旅順の窮狀　營口より來電に曰く双頭灣より來れる實見者の談に依れば老鐵山砲臺破壞せらるゝより旅順の參謀將校は穴中に生息し各所に地雷火を埋設せり

●露艦逃込に就て　旅順露艦の逃走して膠州灣に入るや否やに就ては英國軍艦最も注意しつゝあり

●旅順附近の激戰　七日芝罘發電に曰く五日夜より午後に至る迄旅順の東南十五清里の附近に非常の激戰あり六日も海陸盛に砲聲を聞けり

●荒蕪地開墾問題　七日京城發電報に曰く荒蕪地開墾問題につき外務大臣は皇帝の認許を得て妥協案を提出せり

●群小就縛　全鬼に曰く排日檄文の煽動者三名捕縛せらる

發行人兼印刷人　原　參次郎　編輯人　吉岡　彰
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

大四六
106

東京電報（九日發）

◎露國の大召集

七日發ロイテル電報に曰く露國は本日勅令を發し徴兵令に依り兵役に服すべき義務ある者を召集し尚バルチク海々軍港補充に爲め歐洲露西亞の海軍豫備兵全部及びセバストポール防備爲め南部諸州の豫備兵等を召集せり

◎馬賊蜂起

七日發北京電報に曰く六月の末遼陽の北及四平匪附近にて馬賊蜂起し電線切斷し鐵道を破壞せりとの報あり

◎旅順敵備の現狀

七日芝罘發電に曰く旅順より來れる露人の談によれば目下旅順にて比較的健全なるは軍艦九隻驅逐艦水雷艇十二隻にして二十三日の海戰に於る損害は皆應急修繕を了はりたり黃金山下にて新設せる大船渠は日夜工事を急ぎつゝあり

◎閉塞隊將校の自殺

前項の露人の談に曰く我閉塞隊員にして捕虜となり居るもの内將校二名は數日前自殺せり

八日上海發電報に曰く西比利亞砲兵第一旅團

◎敵將又死す

長チヤンクロスは得利寺戰鬪にて砲彈の爲め負傷し二十四日遂に死亡せりとの報あり

◎我軍の進程

八日上海發電報に曰く金州街道の日本軍は土城子の東北なる長嶺子一帶に進みたりとの報あり

◎馬賊の脅喝

又仝電に曰く王家店附近に現はれたる馬賊は大石橋を襲はんとて大に露軍を脅かせり

◎蓋平占領の一說

七日芝罘發電に曰く某所へ達したる電報に依れば日本軍の前衛は既に敵の抵抗なくして蓋平を占領し其一部は營口方面に向ひ他の一部隊は八嶺を經て高家屯街道へ出でたりと云ふ

◎捕虜の日本人

八日山海關發電に曰く露軍に捕虜にされ居る日本人九十七名は二十九日滿車にてハルビンに到着せり

◎蓋平附近の彼我軍情

八日山海關發電に曰く日本軍は蓋平を距る南方〇〇清里に前哨を置き露軍は蓋平を圍繞して其數二万以上なるも城内には一兵をも駐めず同地から大石橋に到る間の生石嶺に約三万新開嶺には約二万の露兵あり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治七年七月九日

松陽新報第貳號外

東京電報（九日發）

◎蓋平占領

第二軍は七日蓋平攻撃の準備を終り八日未明より敵兵二万を攻撃し數時間激戰の後遂に之を擊退して占領せりとの電報ありたり

（發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝）
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

107
六四ヒ十

韓臺號外

東京電報（十日發）

◎潜航艇積出 八日倫敦發電報に曰く米國にては**潜航艇四隻を露國に積み出すべき準備成れり**

◎蓋平方面の砲聲 九日山海關發電報に曰く英國よりの報に依れば六日正午より**蓋平方面に激烈なる砲聲聞え同時に再び營口沖に舞ひ戻り居たる露國驅逐艦よりも暫時發砲せり**

◎ス提督の旅順着 八日發芝罘電報に曰く**スクルイドロフ中將は牛莊より驅逐艦に乘じ六日旅順に到着したり**

◎日本軍迫る 八日發芝罘電報に曰く**日本軍は水師營附近に迫りつゝありとの說あり同地は旅順の鎖鑰にして露兵二万を以て守備しをれり**

◎廟墓移轉 九日上海發電報に曰く奉天府にある清朝歷代の封墓を悉く熱河に移す事に決定せり

發行人兼印刷人 原 豐次郎　編輯人 吉田 美明
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

五五

明治三十七年七月十一日

松陽新報第壹號外

東京電報（十日發十一日午前三時より七時間ニ不良延着）

●カンセウ占領

黒木第一軍司令官報告

我一枝隊は去る六日夜敵騎約三百を驅逐してカンセウを占領せり我死傷なし敵は北方に退却せり

五日午後チチンスキー第一聯隊千三百騎は北分水嶺附近にある我一枝隊の前面に來襲せしも擊退せられ北方へ退却せり我戰死下士四名負傷卒三名

●華族議員互撰

今十日佰子男爵議員の互撰を行ひ無事終了せり

●露軍の無禮を訴ふ

増祺將軍は外部に對して曰く露軍の無禮其極に達せり本將軍は之を忍容する能はず請ふ速ヤに前後の策を建てよと依て清廷は部桐に命して適當の方法を講ぜしめたりと

●海軍死傷統計

開戰以來七月九日迄の海軍戰鬪に於て我海軍の死傷總數一千二百六十七名生死不明八百六名

●雇馬賊逃亡す

奉天附の露軍に高給を拂ひて馬賊五百を募集し敵兵の後背良の小銃を給與したるに彼等は翌日何時ともなく逃走したるを以て之が爲めに露人は大に怒りて其首魁二名を捕ひてハルビンに送りたりと

●英國漁業の保護

ロイテル電報に依れば英國首相は議會に於て報告して曰く英國は日露の請求に依つてベーリング海峽の漁業に對し保護を加へつゝあり尤も之が爲め國際上問題を惹起する事なかるべし

●露軍馬賊に苦む

老山洞、高三河附近に集合せる馬賊は近頃ジタ家子附近にて鐵道を破壞し又召山の馬賊は析木城にて露軍を援護し露軍斥候兵は馬賊の爲めに不意の襲擊を受け損害少からず

發行人兼印刷人　原　豐永郎　編輯人　吉田　美稔
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

六七号

110

明治卅七年七月十一日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第貳號外

東京電報（十一日發）

◎第六艇隊の襲擊（此項十日發十一日午前九時不通延着）

東郷司令長官報告

第六水雷艇隊（司令海軍少佐内田吉隆）は八日夜旅順港口に在る敵の哨艇を襲擊する爲め雨霧を冒して港口に近つき索敵せしも天明ゝ至る迄敵を發見せず然るに翌九日午前五時三十分に至り第五十八艇（艇長心得海軍中尉中村猛正）は黄金山下漂氣中に敵艦アスコリドの碇泊するを認めたるを以て之を襲擊せしが其効果は未だ明ならず同水雷艇は敵の要塞より猛烈なる砲擊を受け第五十八號艇第五十九號艇にて各下士以下重傷を受けたり

◎昇任

任陸軍中將　陸軍少將　松村務本（歩兵第一旅團長）

任陸軍少將　陸軍歩兵大佐　山本信行（歩兵第四聯隊長）
同　同　梅澤道治（近衛歩兵第四聯隊長）
同　同　南部辰丙（歩兵第六聯隊長）

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年七月十一日

松陽新報第參號外

東京電報（十一日發）

十日芝罘發電ニ曰ク

◎九日の海戰　昨九日朝九時より午後三時迄旅順口沖にて又海戰ありたり

◎ワ艦引揚の消息　十日佐世保發電報に曰ク「ワリャーク」の引揚工事は大に進捗し石炭のみは既に大部分引揚を了し當港に運漕し來りたる程ニて豫定期日内には引揚終了の見込十分なり又運漕船ズンガリーも遠からず引揚を終るべしと云

◎外國船坐洲　十日伊勢四日市發電報に曰ク英國滊船グンレー、エレトリア獨逸滊船ローヤル諾威滊船ハルヂスの四隻は暴雨怒濤のため今曉當港沿岸の淺瀨ニ乘揚げ何れも損害あり船員は無事なるも船体の引卸し困難の模樣あり

◎露兵の蠻行　十日發佐世保發電報に曰ク得利寺の役負傷者の爲め假繃帶所を設け應急手當に從事中**敵砲彈頻**りニ至り危險なるに付山上高く**赤十字社旗を掲**げたるに野蠻なる**露兵は此旗を目懸け**て**尚砲火を加**へたるニ依り止むなく負傷者を徒歩或は擔荷にて夫々逃れ去らしめたりと云ふ

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　ヨ[illegible]
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年七月十二日

松陽新報第壹號外

東京電報（十一日發）

六月三十日發伯林電報に曰く露國水雷艇デルフインはペテレスブルグ附近にて爆沈せりと

◎露艇爆沈

◎警備艇建造の議　南江總督魏光壽は楊子江下流警備の爲め水雷艇十隻建造の議を政府へ提出し且つ之に必要の充員を日本に留學せしめんとす

發行人兼印刷人　原　豐永郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

112

六月十二日

東京電報（十二日午前十一時四十五分發 午後十一時十五分福湊延着）

◎第六艇隊の夜襲

東郷司令長官報告

第六水雷艇隊（司令海軍少佐内田良隆）は十二日午前零時過ぎ旅順港外に**防材布沈の爲**め進航し港口の**哨艦ヂアナ型**に對し襲撃を試み**第五十七號艇**（艇長海軍少佐内田良隆兼務）は之に對し**水雷を發射せしが其効果未だ明かならず敵は猛烈なる砲火**を以て防禦せしも我艦艇には一の損傷なし

發行人兼印刷人 原豊次郎 編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

113

114

明治卅七年七月十三日

松陽新報第貳號外

東京電報（十二日午後發十三日午前一時より）

（三時五分の間は電信不良輻湊延着）

◎敵軍裏切說

芝罘電報に曰く旅順より來着せし信ずべきノルウエー人の談は依ればクロパトキンは、スチエンコ將をして軍三万の兵を率ぬ鴨綠江を迂回し前進を開始せしめつゝあり（其目的は我第一軍の背後を出る計劃らんも事實信じ難し）

◎旅順愈窮す

前項ノールウエー人の談に依れば旅順にある婦女子は近日芝罘に避難すべし糧食は益欠乏を來し生牛は一週間鹽肉は三週間を支るに過ぎず

◎獨帝露軍を送る

獨逸皇帝は陛下が名譽大佐なる露國某歩兵聯隊が將に出征せんとするに付き聯隊長アイブルヂシラへ打電して同隊が敵と會戰するの機會に對し祝意を表し又左の勅語を下されたり

朕が聯隊が露國皇帝及び祖國の爲めに戰鬪せんとするは朕の名譽とする處なり朕は出征聯隊を誠實なる厚意を以て送る神よ聯隊旗を惠み給へよ

◎蓋平占領戰後報

奥第二軍司令官報告

岩旗廠、腰嶺子にありし敵の歩騎砲兵は十日太平廠（大石橋の西南）附近に集合し次て大石橋に退却し其一部は五泰山に留りたるものゝ如し該敵は

一第九師團に屬する部隊及び騎兵約二十中隊砲兵約六中隊

にして太平山、牛任山、防馬臺、生石山に亘りては

堅固なる敵の防禦工事

あり又大石橋東方過家堡子附近には數多の敵の幕營を見る

八日より九日の戰鬪に於て生したる

我死傷は百五十

を算すべし敵の損傷も亦尠からざるも未詳なり

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年七月十三日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第參號外

東京電報（十二日午後七時發十三日午前四時十八分不良延着）

◎柝木城方面の戰報

十日大本營着八日大孤山上陸軍報告

軍は本日一縱隊を以て仙家谷石關所方面より同方面に又一枝隊を以て分水嶺を經て柝木城に向ひ前進せしめたり石關所附近にありし敵は我前進を見て谿谷の西南ゝ向ひ退却せるも午後五時頃敵の砲兵周家庄西方高地方へ現出し射擊を開始せり其後の情況に就ては未だ報告を得ず

柝木城ゝ向ひし一縱隊は途中敵を擊攘しつゝセイヨウソウコク附近にありし敵の前進陣地を襲擊せしに敵は非常に狼狽せしが如きも後ゝ至り步兵約十大隊砲兵二中隊の現出せしを以て該縱隊は偵察の目的を達し交戰の必要なきを以て戰鬪を避け某地に引揚げたるも敵は窮追せざりし

柝木城以南ゝある敵は約一師團にて其騎兵の大部は牛心山方面に位置せるものゝ如し

十一日午前大本營着大孤山上陸軍報告

昨日の報告ゝ繼續する戰況左の如し

石關所、仙家谷に通ずる二道路を取りて前進せし一縱隊の一部は九日午前九時より十一時の間ゝ仙家谷金采谷南方高地に達せり然るゝ敵は仙家谷西方高地を占領して頑固ゝ抵抗し夜ゝ至るまで退却せざりし石關所方面に進みし同縱隊の主力は周家屯西方高地を占領せる騎兵約二大隊砲兵約一中隊の敵と九日夕刻迄對戰せしも遂に之を擊退し所關所附近にて戰鬪隊形のまゝ露營せり翌十日拂曉より前記諸隊は協同して仙家谷西方高地の敵を擊攘し之を追擊して更に周采溝の高地を堅固ゝ占領せる敵を諸方面より攻擊して該地を占領せり

此の戰鬪ゝ於て騎兵中尉竹內治孝戰死し其他取調中

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美馨

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

115

七四号

七月十三日 松陽新報第四號外

東京電報（十三日發）

◎水雷沈設 信すべき報ゝ依れば旅順の露國海軍は支那人ゝ莫大の金を與へ時々ジャンクにて港外ゝ水雷を沈設せしめ萬一を僥倖し居る模樣なり

◎敵軍團極東派遣 十一日倫敦發電報に依れば**露帝は五六兩軍團を極東に向け出發せしむる爲めモスコーにて閲兵しつゝあり**

◎露都の風聞 露都にて發表せらるゝ所ゝ依れば日本軍は處々の嶮隘に堡塞を築きつゝあるを以て其遼陽奉天に向け進行せんとは頗る眞らしからすと

◎露艦轟沈 **一昨日來の海戰にて露艦三隻沈没せりと傳へらる**

◎露國領事の長電 十二日芝罘發電ゝ曰く昨日當地露國領事より二十餘枚の長電を遼陽へ發送せり

◎露兵朝鮮に向ふ 十二日芝罘發電に曰く露兵三千毎日西比利亞より鐵道ゝて滿洲に入りつゝあるは**重に朝鮮に向はんとするものゝて遼陽の露兵も背面より鴨綠江方面に出でつゝあり**と云ふ

◎敵艦の逆戻り 十二日天津發電報ゝ曰く旅順口に向ひたる驅逐艦は途中日本艦隊の壓迫の爲め再び營口ゝ引返へせり

◎敵將校の決死 上海よりの電報に依れば仝地の露人へ宛てたる旅順將校よりの通信に**一同死守すべければ再會期し難しとて訣別の**意を表するもの多しと

◎親王御婚儀 **北白川宮恒久王殿下には御沙汰を以て桂宮の御跡を承けさせられ常宮昌子内親王殿下御降嫁あらせらるゝ御都合なるやに承はる**

發行人兼印刷人 原豐次郎 編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

七月十三日
116

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年七月十四日
松陽新報第壹號外

東京電報（十四日發）

◎例の辨解 ルイテル電報に曰く獨逸皇帝が其關係ある露國聯隊ゑ送りし電報は個人としての禮儀ゑ出たるものゑり日本に對する惡意に出てたるゑあらずと辨解せり

◎アスコリド 倫敦發電ゑ曰く露都よりの報に依れば巡洋艦アスコリド（日本艇隊の爲め水雷に掛けられ）大損害を受け乘組員多數失はれたり

◎露債成立說 ロイテル電報に曰く伯林銀行の代表者は三週日前露都に於て五步利付五千万マークの公債引受けの契約ゑ調印せりと云ふ

◎日軍退却說 十三日上海發電に曰く露兵は日本軍の占領したる旅順東方の一陣地を奪還せりノーウキック外數隻の助力を得て砲擊したる爲め日本兵退却の止むをきに至れり然し當地にては信ぜられず

◎海軍武官昇任 海軍中佐永井群吉仝木村孝吉仝松村直臣仝福井正義仝有馬良橘氏は大佐に任ぜらる外四百餘名進級せり

發行人兼印刷人 原豐次郎　編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

七文ドリ

117

明治卅七年七月十四日

松陽新報第貳號外

東京電報（十四日發）

◎露艦艇又北海に現はる

海軍省着情報に曰く十二日午前五時露國水雷艇四隻北海道沖に現はれ又十三日午前十一時天塩沿岸に露艦一隻水雷艇四隻現はれたり

◎愛知縣の被害

愛知縣にては風水害の爲め倒屋百七十七軒死亡三名負傷五名浸水床上千三百四戸浸水床下二千八百四十六戸を出せり

◎水雷沈置と爆沈

浦塩よりの報に依れは日本人はベートル灣に水雷を沈置したるものと思はる又韓國小形帆船一隻は爆沈せり

◎卒業式行啓

華族女學校にては本日卒業証書授與式を擧行し　皇后陛下臨御あらせられたり

（以上三項十三日發今朝不良延着）

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

118

七七号

明治七年七月十四日

松陽新報第參號外

東京電報（十四日發）

◎露艦の行衛

其後海軍省着情報に曰く昨日天鹽沖に露艦の現出ぜしは午前九時にして同十一時後は行衛不明となれり

◎營口占領說

之に累發電に曰營地の或筋に着したる電報に依れば十三日夜半我軍は營口を占領し同地に在りたる露兵三百は潰走せり

◎李家堡子の衝突

第一軍陣地發電報に曰く

十三日午前七時摩天嶺より派遣ぜし須永少尉の小隊は李家堡子の南方にて敵兵二個中隊と衝突し同少尉は戰死し下士以下四名負傷し塔灣の山上及中腹には約十二大隊の敵兵塹濠を築造しつゝあり

李家堡子は摩天嶺の西粼甜水店の東一里十二町ゑあり塔灣は甜水店の西十七町

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

119
六号

明治廿七年七月十五日

松陽新報第壹號外

東京電報（十五日發）

◎清帝危篤 十四日上海電報に曰く清國皇帝は赤痢病にて危篤と瀕せられたりとの報あり

◎旅順陷落期 十四日發門司電報に曰く芝罘より歸來せる者の談に依れば芝罘にては諸種の情報を綜合して旅順の陷落は本月の末ならんと一般に信せらるゝと

◎露艦の自滅準備 前項芝罘歸客の談に依れば牛莊にある露國砲艦シウーチ號は多量の石油を積み居れり之れ我軍の攻撃に際して自ら燒棄つるの準備ならんと云ふ

◎我斥候隊迫る 十三日發倫敦電報に曰く遼陽よりの報に依れば日本軍の斥候隊は同地を距る十二哩に近つき又日本騎兵の一枝隊は奉天附近に現はれたりと

◎韓國の慰問使 十四日發京城電報に曰く一時見合せとなりたる觀戰委員は慰問使と變更せられ權仲憲外四名をして近日戰地にある日本軍隊を慰問せしむる由

發行人兼印刷人 原豐次郎　編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

120

明治卅七年七月十六日

松陽新報第壹號外

東京電報（十六日發）

●日軍擊退の敵報

十五日ロイテル電報ゝ曰く露都電報に依ればアレキセーフの報告に曰く日本軍は十日夜旅順の諸陣地を攻擊して擊退せられ其損害非常に多くして概算し難きも約三萬に及ばん而して此の損害は露軍の布設せし地雷に罹りたるものなりと

●虛報は嘘報と認めらる

十五日發ロイテル電報ゝ曰く露都にては旅順攻擊にて日本軍三万死傷の報は追つて來るべき旅順陷落の悲報を輕めんとする手段ありと信ぜらる

●韓境の强盜

十五日京城發電ゝ曰く鴨綠江上流に沿ひ敗殘露兵は馬賊と共に五百餘名の一團体を組み常に强盜を行ひ地方人心爲に恟々たり

●露兵北退

十四日山海關發電に曰く牛家屯（營口の北）の露兵は其大部分は大石橋に引上げ尙大石橋の露軍前衛は海城に向け引上の模樣あり

●營口附近の日軍

十五日芝罘發電に曰く營口より入港せし滿船の報に依れば十三日日本軍は同地を距る五哩迄前進したりと

●密航船捕獲

十五日芝罘發電報に曰く昨夜麥粉牛肉を積み旅順に向ひたる支那滿船靖平號日本軍艦の爲め捕獲せらる

●露艦隊の運命

十五日芝罘發電ゝ曰く旅順歸客の談に依れば露國艦隊は近來非常に窮境に陷りたり日本軍龍王洞占領後は其の頂きに監視兵を置き常に敵艦隊の動靜を伺ひ居る爲め再三秘密に企てたる港外逸出も皆不結果に了りたれば愈々艦隊全滅を自覺し士氣一層沮喪せり

●清國鐵道公債

十五日發ロイテル電報ゝ曰く清國鐵道公債ゝ五十万ポンド十三日發行せらる

發行人兼印刷人　原　登次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

八の号
121

明治卅七年七月十七日
（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（十七日發）

◎下馬塔附近の擊退

十六日第一軍陣地發電報に曰く太子河々岸駐屯の敵二十騎は十四日午後五時我下馬塔の前哨線前三百メートルに來る我之を擊退せり敵は死傷十馬四を遺棄して遁逃せり遼陽街道には異變なし

◎十日激戰の報

倫敦電報に曰く露國及び佛國の通信員の報導は皆十日夜旅順附近にて激戰あり日本軍の損害尤も多く露軍は一千を失へりと傳ふ

◎十五日大海戰說

芝罘より報に依れば十五日朝より旅順港外にて大海戰ありたり其結果不明

◎通信船捕獲せらる

露艦はシカゴデリーニュースの備船フアン號を捕獲し旅順港内へ引入れたり

◎敵將負傷

サハロフ將軍の報へ曰く軍は賽馬集附近の戰鬪にて負傷せり

◎密輸の賞金

旅順口に食糧を送れるジャンクは一隻に付き金五千餘圓の賞與ありと

◎密輸出品沒收

亞米利加へ歸化せる露國人は十五日芝罘より旅順へ糧食の密輸出を企て支那監視船鎭海號の爲め沒收せらる

◎敵軍遼陽に集中す

大石橋、海城、析木城の敵は漸次後方に引揚げ日々遼陽に多數の兵を逆送し居り現今にては敵は遼陽を唯一の防禦地となさんとするが如し

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發　行　所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

122

明治四十七年七月十八日

松陽新報第壹號外

東京電報（十八日發）

◎大石橋の砲聲　芝罘發電報に依れば十五日午前九時より午後五時まで大石橋方向に激烈なる砲聲を聞けり

◎大石橋の激戰　十六日發ロイテル電報に依れば目下大石橋東北に於て激戰中

◎旅順口の流行病　旅順口に於て脚氣赤痢流行し頗る激烈を極めて軍人の病死するもの多し

◎露艦徒に臨檢す　露國補助巡洋艦はスモレンスクコウコイに於て獨逸汽船を臨檢し日本行の郵便物を差押へたるが爲め獨逸に於ては一大紛議を惹起すべしと云ふ

◎荒蕪地問題の異議　韓國各大臣は荒蕪地問題に我公使の要求を容れず彼の農鑛會社を新設せんとするに對し駐韓英米獨各國公使は何れも反對異議を申立てたり

◎營口附近の近況　芝罘電報に曰く牛莊より歸來せる支那人の談に依れば營口東方より當て毎日激烈なる砲聲絶ゑ間なし▲露兵は砲二三門を營口に遺棄して退却せり▲牛家屯の露兵は漸次大石橋方面に退却せんとする模樣なりしが其過半は未だ去らず營口に日本軍の上陸せん事を恐れつゝあり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

123

明治卅七年七月十八日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第參號外

東京電報（十八日發）

◎摩天嶺擊退公報

十八日黑木司令官報告

敵の軍團長ケルレルムは約二師團の兵を以て十七日午前三時頃より濃霧に乘じて我軍の一部の占領せる摩天嶺及び其左右に亘れる陣地に向ひ猛烈に攻擊し來れり我軍の一部は頑强に抗戰し各地点に向ひし敵を悉く擊退し金家堡子（甜水店の東約一里）まで之を追擊せり而して彼我の死傷は目下取調中なり此戰鬪に參與せる我軍は頗る勇敢に動作し能く其任務を盡したるものと認む

發行人兼印刷人　原　喜太郎　編輯人　吉田　美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

八三号 124

七月十九日 松陽新報第壹號外

東京電報（十九日發）

◎摩天嶺逆襲の詳報

十八日戰地發電報に曰く

昨夜零時半敵の一部は新開嶺に來襲し三時摩天嶺の前哨を來る〇〇〇聯隊は急遽集合し次て戰線に銃聲熾に起り我砲兵は小康嶺を占領せし敵に對し砲火を開きたれば敵は陸續集合し兵力總て四聯隊となり猛烈なる戰鬪を交ゆる事四時間の後敵は殆ど退却し我兵之を追擊し李家堡子附近迄大戰あり四時終局せり此の戰に於て我戰死下士以下十九名負傷將校以下百四十四名

新開嶺より前哨迄も敵襲わりしがマクーメンザの北方に擊退せり我偵察隊は其東方にて優勢なる敵に包圍せられ來援隊に收容せらる

戰死下士以下九名負傷十八名

下馬塔方面は〇〇〇〇聯隊の一大隊小康嶺を占領し主力は大東溝附近の遊軍を訪くる優勢なる敵を迫られ前哨中隊頗る苦戰し幹部皆死傷し漸く增援隊と之を擊退し又徐家堡子も來襲に會を受け之を擊退せり

此方面にて戰死將校以下十九名負傷七十三名此日來襲の敵は約二箇師團にして歐露より新來せし第十軍團の一部を加へ軍團長ケルレル親ら出馬せり敵の損害不明

發行人兼印刷人 原 豐次郎　編輯人 吉田 美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

125

八四号

明治卅七年七月十九日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第貳號外

東京電報（十九日發）

十八日發ルーター電報に曰く紅海に遊弋せる二隻の露國義勇艦隊巡洋艦及水雷艇は特に日本に向ふ汽船を監視するものと信ぜらる

◎紅海露艦の役目

◎英新聞の論調 十八日發ルーター電報に曰く英國諸新聞は露國巡洋艦のダーダネルス通過の際は商船旗を掲げ今は軍艦旗を上げて英國汽船に停船を命したるに對し其の二種の性質を有するに付き大に議論せり

◎露艇益暴行を逞す 十八日發ルーター電報に曰く露艦ベテルスブルクは紅海に於て横濱行滊船マラッカ號を捕拿しスエズに向け送りつゝあり

◎副總督暗殺 十八日發ルーター電報に曰はく露國コーカサス副總督エリサベスポール暗殺せらる

◎林公使 十八日京城に歸任せり

◎遼陽集中 十八日北京發電報に曰はくクロパトキンは遼陽にて一大決戰をなさんとし大石橋及び海城より漸次軍隊を引揚げつゝあり目下鞍山站及び遼陽には十八万の露兵を集中し居れり

◎無賴團体解散 十八日京城發電報に曰く警務廳は昨日ショウロに於ける排日團体の集會に解散を命じ巡檢をして事務所を封鎖せしめたり

◎旅順の○○ 十八日芝罘發電報に曰くシカゴデーリーニュウス通信船々長の談に曰く本船は旅順を去る二十哩の處にて二日間視察したるに（彡下三百七十二字其筋の命に依り抹削）

◎排日派領袖就縛 十八日發京城電報に曰く排日派の領袖韓國前中樞院議官宗秀滿は昨日捕縛せらる

◎蓋州の出水 十八日上海發電報に曰く蓋州一帶出水の爲め露兵四十馬匹二百溺死し車輛九十流出せり又大孤嶺にありたる露の伏兵は大佐以下一千餘溺死せり

◎豆滿江方面の敵情 十八日京城發電報に曰く慶興よりの報に依れば六月二十日露國將校及騎兵百餘來着し雄基灣に達する道路改修に着手し海岸に在る舟十餘艘を徴發し豆滿江架橋工事を開始し工夫人夫五百餘名は韓人を脅迫して督役し居れり又婦女を辱しむること甚だしく爲めに避難者多く民家空虛となり光景慘憺たり

◎郵便物交付に就て 十八日發ルーター電報に曰く露艦が獨逸滊船ハインリッヒ號を臨檢し日本行信書三十一囊小包二十四囊を交附するの止むを得ざるに至らしめたるに對し獨逸政府は露國政府の說明を待ち居れども政府機關紙はなるべく本件を抑へ付けんとしつゝあり

◎御供院廢止 韓廷は日韓兩國の交誼を重んじ勅命を以て御供院を廢止せり併し宮內大臣一派の者は尙ほ其の反對を唱へ居れり

發行人兼印刷人 原豊次郎　編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

八五ページ 126

八六号 127

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年七月十九日

松陽新報第參號外

東京電報（十九日發）

山海關發電報ニ曰く十四日日本軍は

◎大平山占領

營口の東北三十五清里なる大平山を占領し翌日午後二時より營口附近より大水塘一帶に激烈なる砲聲を聞けり

同電に曰く十五日拂曉日

◎大石橋附近の激戰

本軍約一万は大石橋南方二十清里なる生石嶺に據守せる露兵五千を攻撃し午前四時より午後一時迄激戰の後露兵は死屍二百を遺棄して大石橋方面に潰走せり

（右二項至急電報）

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田義朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

東京電報（十九發）

◎摩天嶺擊退公報

十九日黑木司令官報告

十七日午前三時頃敵兵摩天嶺西方の前哨に來襲し**岡崎少將**（圭三）の指揮する歩兵〇〇聯隊は直ちゝ摩天嶺に於ける豫定の陣地に着き又五房官西北方高地にありし砲兵も同時に放列ゝ着けり午前五時過**敵の歩兵約二個大隊**は我か前哨の退却に尾し丁摩天嶺西方の山谿に展開せしを以て我前線は之に向て射撃を開く●後敵兵益增加し午前七時三十分には**其兵力約四聯隊以上と**

なり屢我左翼を包圍

せんとせしも我摩天嶺最高地占領部隊の爲め奪目的を達する能はす九時ゝ至るまで我歩砲兵は**此數倍の敵**ゝ對し頗る

勇敢に抵抗

せしが遂ゝ敵は左翼より**逐次退却**を始む我歩砲兵は射撃を續て之ゝ

追擊

し更に此際到着せる歩兵〇〇〇聯隊の一部と共ゝ全線追擊前進ゝ移り騎兵聯隊も亦之ゝ參加せ敵は甜水店及び塔灣方向に退却し内約七大隊は金家溝子附近の高地に停止せも午後二時敵の砲兵四門、塔灣附近より我追擊隊を射撃せり依て追擊隊は李家堡子の西端停止して

敵と對峙

せり敵情偵察の爲め新開嶺よりマクメーンザ方向に派遣せ歩兵隊〇聯隊の一中隊はマクレンザ東方於北方山地より來れる敵の歩騎兵約一大隊塔灣方向より來れる二大隊ゝ遭遇して

苦戰最も力め增援隊と共に敵を西方に擊退

午後時頃マクメーンザ東方高地を**占領**し摩天嶺方面より塔灣方面に退却せし敵を

猛射

せり小高嶺の約一里ゝ亦りし歩兵隊〇〇聯隊の攻撃を受けしも此敵は摩天嶺の敵と同時頃退却を始めたるを以て該隊は小高嶺を追撃せ午前八時頃敵の歩兵約一大隊騎兵一中隊は下馬塔西北方ゝある

我前哨中襲隊に來し該中隊も苦戰最も力め曹長以上悉く死傷せり其後敵兵漸次增加して約一聯隊

ゝ至りしが我前哨本隊の二中隊及び〇〇〇聯隊の一部は之に增援し午後四時五十分ゝ至り遂に之を庶家堡子方面ゝ

擊退

せり又ケウトウ方面よりは敵歩兵約八中隊騎兵一二中隊徐家堡子ゝ

來襲

之ゝ對せ我歩兵隊は工兵隊の增加を受け午後一時ゝ至り之を西北方ゝ

擊退

るを得たり

第三、第六師團

膠子嶺方面の敵情偵察の爲め派遣せし偵察隊は午前五時李堡嶺を發し午後三時歸還せり偵察の結果敵は歩兵三中隊砲八門を集結しヤンザ西方高地に現はれたり

狙擊

の指揮する此日來襲せし敵は軍團長ケルレルの指揮を以て編制せしものなり

及び歩兵第九師團

（芝罘發電に曰く十六日（以下五十三字抹削））

西師團に於ける我死傷は將校以下二百九十九名にして敵の損害及び鹵獲多數

なるも其數未だ詳ならず

◎旅順沖の〇〇

紅海に於ける露艦の行動ゝ付ては英國及び獨逸ゝ於て

◎露艦暴行の抗議

一般の憤怒を惹起し國際法違犯として列國政府は露國に抗議すべしとの議熾なり

◎日艦新來說

（ロイテル電報に曰くシンガポールよりの報に依れば）

巡洋艦二隻馬來半島附近を西方に向て通過せり多分日本軍艦ならんとの說あり

◎三國同盟の聲

（ニューヨークに於て發行するサン新聞は）

日英米三國同盟の成立すべきを立言せり

◎敵の虛報に就て

（北京發電報に曰く旅順背後の戰鬪ゝ於て日本軍二万の死傷を出せりとの露國の報告は當地ゝ於て信せられず各國人も質問に對して）

露國公使は何等の返答もなさすと云ふ

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陰新報社

明治廿七年七月二十日

松陽新報第貳號外

東京電報（二十日發）

◎清船捕獲 上海發電報に曰く開平炭坑會社の所有船北平號は十七日威海衛沖にて日本軍艦に捕獲せられ拿捕物並に乘組員は日本に向け送られたり

◎遼陽附近の衝突 山海關發電報に曰く十三日日本軍の一部は遼陽の東セウサンゼにて露兵と三時間交戰し敵の死傷四百名ありたり

◎營口附近の撤兵 山海關發電報に曰く牛家屯五臺子千家店の露兵は十六日全く撤退し軍需品は鐵嶺に輸送せり

◎露軍の道路改修 元山發電報に曰く露兵は國境より雄基灣に至る道路修繕の爲め士官三名兵百名を送れり

◎馬賊の活動 滿洲各地の馬賊は益活動を始め某地にあるは千四百の一隊は目下盛に堡壘築造中なり

◎英艦派遣 英國艦隊十八隻は埃及アレキサスドリア港に到着すべし

◎韓皇の謁見謝絕 京城發電報に曰く林公使は十八日仁川に着し十九日入京韓皇に謁見を求めたるに皇帝は暑中の故を以て絕謝ぜり

◎浦鹽包圍の豫期 浦汐司令官は同地の早晩包圍せらるべきを豫期し住民に食糧の用意を命じたり

◎營口我軍を待つ 山海關發電報に曰く營口のコウギンヨは日本軍來着の時兵舍に充んが爲め家屋の修理を始め其他一般に日本軍歡迎せんとするもの如し

◎旅順軍の自覺 芝罘よりの歸來者曰く我前哨は敵の作戰計畫の誤れるを說き旅順陷落目睫の間に迫れば速かに投降すべしとの多數の張札を敵兵哨兵線に張りたるに敵は夜間之を取り去り居りしが此頃に至り敵兵も其意味を解し運命逼れるを自覺せるが如しと

◎青泥窪上陸 伯林發電報に曰く露部發の確報に依れば日本軍はダニーに一万の兵と五十の砲を揚陸せり

發行人兼印刷人 原豐次郎　編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 陽新報社

八八四

129

明治卅七年七月二十日

松陽新報第參號外

（二十日發）

東京電報

◎浦鹽艦隊逸す

日々新聞着電に依れば本日午前三時半露艦三隻龍飛崎方面に顯はれ六時過津輕海峽を通過し太平洋に出で影を失ふ

◎露艦北海に現出

本日午前三時三十分露國軍艦北海道塩尻附近に現はれ六時三十分に至りて小樽港函館との間なる塩國崎に現はれ横濱小樽間を航海中なる滊船を押收したりとの電報ありたり

◎浦鹽艦隊逸走公報

大本營着電今朝午前三時三十分露艦三隻津輕海峽を東に通過す

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

130
八九号

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治廿七年七月廿一日

松陽新報第壹號外

（廿一日發）

東京電報

◎敵艦襲來後報

二十日午後三時五分室蘭發電報ゝ曰く恵山岬沖にて露艦の取調を受けたる英國汽船サラマ號入港す

又曰く午後二時迄は敵艦を尻屋岬方面に認められたり

廿日午後二時半函館發電報ゝ曰く露艦三隻は津輕海峽を東に進航せしも恵山岬沖ゝて針路を轉じ背進する模樣あり

◎誤認擊沈

廿日芝罘發電に曰く支那船乘組員の談依れば五六日前露國水雷艇は旅順沖にて營口より來れる商船を日本軍艦と誤認し之を擊沈

乘組支那人四十餘名を救助せるを見たりと

◎ス提督來旅の否認

スクルイドロフ中將の旅順に來れりとの事は虛傳なりとの說あり

◎露艦暴行と英政府

十九日倫敦發電に曰く英國政府は露艦の行動に關し二十一日國會ゝ於て是れが說明をなすべき旨を約言せり

◎捕獲船通過

十九日倫敦發電報ゝ曰く紅海に於て露艦に捕獲せられたる英國汽船マラッカ號は露國々旗を樹てリバウ港ゝ向け本日蘇士を通過せり

◎英船寄港

二十日芝罘發電に曰く英國汽船ウオサン號は廣東より天津に向ふ途中昨日當港へ寄港せしが多數のダイナマイトを積み居れり

◎露船艇の爆發

十九日倫敦發電報に曰く露都方の報ゝ依れば露國汽船水雷艇各一隻は浦汐港に入らんとする時敷設水雷に觸れ爆發破壞せり

◎北進日軍と旅順攻擊

二十日上海發電報ゝ曰く蓋平の日本軍はマンゲン站に進みたり旅順總攻擊は海城の露軍主力と決戰の後開始せらるゝならんと傳說せらる

◎敵艦暴行の目的

十九日發倫敦電報ゝ曰く英國新聞紙は一般ゝ露國の目的は國際的紛紜を釀生し併せて起ることある可き干涉を胚胎せしめんとするにありと云へり

◎露艦の條約無視

十九日倫敦發電報に曰くコレーツ號と同型なる露國軍艦チエルノモレツ號は武裝をなし本日ボスフオラス海峽を通過せり是れ條約を無視すること

のなり尙ほ二隻の義勇巡洋艦はセバストポールに於て石炭を搭載しつゝあり

◎敵軍背進と大戰期

二十日北京發電報ゝ曰く露軍は斷然大石橋より海城へ向け背進しつゝあり日露兩軍の衝突は鞍山站以北にて見るを得べし其機の熟するには尙ほ一ヶ月半の猶豫あるべしとの說あり

◎藤侯の再渡韓

伊藤侯は不日再び韓國に派遣せらるべしとの說あり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田長翰
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

132

東京電報（廿二日發）

◎英新聞の强硬　二十日倫敦發電報に曰く英國諸新聞は熾ゝ英國政府の緩漫なる態度を鳴らし速に露國に對する行動を執らん事を勸告しつゝあり

◎敵國の購艦　二十日發倫敦電報に曰く露國は日進春日の姉妹艦なる巡洋艦二隻を南米アーゼンチン國より購入せり

◎獨逸の形式的抗議　二十日發倫敦電報に曰く紅海露艦のハインリッヒ號の郵便物押收に對する獨逸政府の抗議は單に形式にして中心より出たるものにあらずと認めらる

◎排日群小の運動　二十日京城發電に曰く排日團体は解散を命せられたるも容易に解散せず尙ほ事務所をテントウに移さて日本排斥の運動を繼續し居れり

◎排日熱の一源因　二十日京城發電に曰く昨今は排日熱の上下の間に昂りつゝある源因の一として傳ふる處に依れば駐露韓國公使李範晋より此程秘密信書を宮中老女の手を經て宮廷ゝ屆けられ夫れより俄韓廷親露派の復活したる模樣なり

◎〇〇〇方面の砲擊　二十一日芝罘發電に曰くジヤンクの報ゝ依れば十九日日本軍艦は〇〇〇の西より砲擊し同時ゝ陸上にも砲聲を聞けり

◎旅順の窮狀　芝罘歸客談ゝ曰く旅順の慘狀は益々甚しく婦女子は日本軍の攻擊ゝ戰慄して皆巖石の間ゝ隱れ居れり

◎我要求拒絕と外部の辭表　二十日京城發電に曰く韓廷外務部は荒蕪地特許の我が要求ゝ對し昨十九日拒絕の廻答をなし同時に外部大臣李夏榮は辭表を提出せり

◎擊沈滊船　昨報〇羊頭灣ゝて日本軍艦と見誤られ露國水雷艇のため擊沈せられたるは英國滊船ケウセイ號なるべしといふ

◎旅順の惡疫　既電の如く旅順ゝ流行せる惡疫は益猖獗を極はめ毎日八十乃至百宛の新患者を出せり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物
明治廿七年七月廿三日

松陽新報

（此號外は本紙の一部なり）

東京電報

◎第一軍右縦隊細河沿方面

黒木第一軍司令官報告

軍の一縦隊は小甸子（成廠の西北
歩兵一部隊を派遣し其主力を以て十八日三家子
沿附近に陣地を占領しあり午後四時三十分頃敵
歩哨大隊は偵察の爲め前進せしに敵は歩
を以て應戰せり茲に於て
し其一中隊は中隊長以下
至れり我前衛及び他聯隊の一大隊は午後
退却せず戰鬪隊形を以て夜を撤せり此時敵は
擊退せり

細河沿附近の敵の陣地は隘路を扼し二十乃至百米
前地を掛制し且つ堅固なる防禦工事を施し其左側
り右側も亦陽朴溝より高峻なる山を越ゆざれば
縦隊の主力は十八日夜半より運動を
陣地を占め縦隊の主力は敵陣の正面に一部は右側
本溜湖方向を警戒し十九日午前五時より砲戰を開
二門を以て我に應戰し激
過まで繼續せしも爾後互に緩徐なる射
一部隊は嶮峻なる山地を越ゆ前進し午後三時頃敵
援せし一部隊も亦其附近に到着せり

是に於て縦隊の主力は攻
亦急射擊を以て之を援助
強に抵抗し主力は苦戰最
に薄り枝部隊並に附援部
つて奮進し其方面の戰鬪
後五時三十九分主力は遂
の敵陣地に突入す右側攻
敵の退路を遮斷し八時過
地は我有に歸せり

敵は中將某の指揮する歩
大隊第三十六聯隊三大隊
隊野砲三十二門にして其
平方向に一部は北方に逃
我死傷は戰死河野（三郎）歩兵
四名負傷岡村（勝三郎）平岡（八郎）

敵の歩騎兵に對し
力不明の敵は細河
狀ありしを以て我
隊砲八門
頗る苦戰
傷するに
日沒に及ぶも敵は
みしも我皆之れを
高地線にして遠く
べからざる山地あ
地及其南方山上に
は老母嶺を占領し
敵の右側に向ひし
時に他の縦隊より扶
に移り砲兵
兵は尚頑
敵の右翼
側背に向
を極む午
西南高地
隊は同時に
近一帶の
四聯隊四
騎兵一聯
亂して安
十士卒五十
少佐以下將

詳なるも二十日中に我軍にて埋葬せる敵の
屍體百三十一鹵獲品は彈藥車三小銃三百被
服多數なり敵の第三十聯隊長負傷し其他死
傷は一千以上なるべし

平岡少佐は戰死せり負傷西久保、岩田、牟田口、日野の各大尉青柳、今村、古川、下田の四
中尉、中島、佐藤、岸田、小野、末松の五少尉、谷軍醫、松村特務曹長下士以下四百卅六名
（細河沿は連山關の北十餘里にあり昨報橋頭激戰即ち是なり平岡少佐は負傷後戰死
せしなるべし）

◎張家堡の戰鬪

黒木第一軍司令官報告

軍より派遣したる一枝隊は十九日小甸子南方約二里張家堡に於て工事をなしある陣地
に據る敵の歩兵約一大隊騎兵約一千を攻擊し
四時間に亘る戰鬪の後之を太子江岸に擊退せり我隊の
負傷下士以下十七名敵の死傷未詳なり

◎義勇艦增派

伯林發電二日〜オデッサよりの報に依れば露國は更に
義勇艦二隻出發の準備をなせり

◎露軍再び營口に入る

露軍は十八日兵二
千砲二十を率る再び營口に入り五臺子砲臺
に駐屯し同日日本軍と衝突あり露兵負傷者
三百を後送せり太平山（營口の東北三十五清里）南方にては日々斥候の
衝突あり

◎英國抗議の理由

二十日露都發ロイテル電報に曰く駐露英國大
使は露船ペテレスブルクがマラツカ號捕拿の件に就き露國政府に抗議し速に同船の解
放を請求せり其の抗議の理由は第一ペテレスブルグの資格不規則なる事第二定期船に
搭載せる彈藥は英國政府の所有に係り英國在清船隊の用に供せらるべきものなる事の
二點にあり又抗議の末文に於て本件の頗る重大なる事態に
立至るべき事を露國政府に通告せりと

◎露國の申譯

ロイテル電報に曰く二十日露都發電に依れば露國ルツ
ス新聞は露國政府の意を受けたるものと信ぜらる其社說に曰く紅海に於ける露船の所
爲は中立國の國旗は中立國の貨物を保護すと云ふ國際海上法の原則に反し斷じて違背す
る事あるべし從て中立國の船舶に依る國際貿易は戰時禁制品を除き總て自由なるを
失はずと

◎マラツカ號

英船マラツカ號は今尚ほポートサイドにて埃及政府より
抑留せられ居れりとの公報あり

◎佛外相の向露說

伯林發電二日〜佛國外務大臣デルカッセは近
々露都に赴き今回の露船暴行事件に就き談すべしとの說あり

◎露艦又通過す

伯林發電報二日を露國非裝甲小巡洋艦チエ
ルノモリエツ號はダーダネルス海峽を通過
せり

◎大石橋方面の砲聲

二十日大石橋方面にて劇しき砲
聲を聞けり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

九三ロ7
134

東京電報（廿三日發）

◎英國大使の嚴談

倫敦發電報ニ曰ク駐露英國大使ハ露政府ニ對シテラッカ號の即時解放要求の

嚴然たる通牒をなし二十四時間内に廻答を求めたり

◎英首相の答辯

英國首相は下院ニ於て

事態頗る重大なりと答辨せり

◎マラッカ出發

マラッカ號は露國戰艦員に依て露國の一港に向けポートサイドを出發せり

◎マ號捕獲の次第

マラッカ號は彈藥を積み門司ニ赴くものなりエアントワープより報告したるが爲め遂ニ捕獲せられたるものありと

◎英國の辨解

右に對し英國政府はマラッカ号積載の彈藥は英國の在清艦隊に送るものなりと辨解せり

◎露軍の敗報

倫敦電報ニ曰ク露都よりの報ニ依れば遼陽を距る十四マイルの處にて

大戰あり露軍は敗退したりと

（記者曰く此の敗報は細河沿方面の大敗ならん）

（以上六項倫敦發特發電報）

◎ハルビン近情

ハルビンには兵站部開始せり兵は僅に六百あるのみ南下兵は總て同地ニて下車せず直行しつゝあり

◎マ號問題の成行

ロイテル電報に曰く英國艦隊のマラッカ號を差押ゆるか他の意外なる出來事なくば此の問題は都合よく落着すべし

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

(明治二十四年十一月十五日第三種郵便物認可)
大正四年
七月廿三日

松陽新報第參號外

東京電報（廿二日發）

其筋へ達したる電報に依れば露艦三隻昨日

◎露艦遊弋

午前十一時頃茨城縣大洗(常陸)沖合を遙か南に向け徐行しつゝあり

◎再摩天嶺逆襲

戰地發電大本營着

二十二日朝敵歩兵約五中隊再び我摩天嶺軍に向つて攻撃を開始せり塔灣に在る我歩兵輝地より之を掩護砲撃して終に撃退せり我に死傷無し

◎露艦遊弋別報

二十三日大本營着電ゴ曰く茨木縣磯濱町加茂下友五郎所有の經船出漁中二十二日正午頃平磯町沖合約八十海里の所にて三本烟突三本檣二隻二本檣一隻國旗不明の軍艦らしきもの南進するを約一海里の距離より認め尙ほ其前後にて他ゴも之を認めたる漁船三隻あり又同日午后一時磯濱沖合八十海里の處にて一本煙突二本檣の黑船一隻北ゴ向け進航するを約八海里の距離より認めたる漁船あり但國旗不明との旨淺分署より報告あり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

135

明治卅七年七月廿三日

松陽新報第四號外

東京電報（廿三日發）

◎露船と墺新聞　墺國新聞は露船の英船拿捕を國際法違犯とし英國のみならず歐洲全体に累を及ぼすものなりと論せり

◎敵參謀の重患　露國參謀將官ウオーガツク少將は神經衰弱にて重体なり

◎獨逸新聞の風變　郵便物押收に關する獨逸新聞の激昂は大に冷却（此の事件は冷靜に所置せざるべからず之を誇張するは偶或一國を喜ばしむるのみとし露國の所爲は露國制定の戰國定規範圏内なりと論ぜり）

◎瑞西の激昂　瑞西從軍武官はクロパトキンより歸國せしめられ瑞西にては露國の放恣を激憤しつゝあり

大本營着浦賀よりの急電に依れば本日午前十時半頃房總半島東岸方面に砲聲を聞く

◎房總方面の砲聲（至急電報）

◎マラツカ事件落着　二十二日倫敦發電報に曰く露國はマラツカ號に關する英國の要求を容れたり英國は紅海に於ける露國の干渉を制止すべく決意し重ねて海賊的行爲なからしむる爲め其艦隊を同海上に派遣すべし

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

136

明治卅七年七月廿四日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿四日發）

◎旅順大海戰

芝罘發電に曰く〜ダルニーを經て當地に來れる支那人の談に依れば一二十二日朝より旅順方面に絶えず砲聲を聞き夜に入り旅順口沖に來りし時探海燈に照され二十三日午前三時に至り日本軍艦水雷艇〇〇隻は盛に攻撃し黄金山砲臺は殊に發砲するを見たり

◎遭難英船

營口より芝罘に航行中露艦の爲め撃沈せられたるは英國汽船ヒブサンタ號にして乘組の生存者五六十は其内五人の外國人と共に旅順に送らるはクロンスタットを發すべし

◎巴艦隊の增發

倫敦發電報に曰く〜バルチック艦隊中一一艦隊ス及び驅逐艦二隻はポートサイドに向けアレキサンドリアを發せり

◎英艦の消息

英國巡洋艦ウイーナス蘇士に入る同巡洋艦フューリア

◎マ號事件後報

露國政府は英國の抗議に答へて**將來重ねて今回の如き事變なからしむる旨**を約せり是にてマラッカ號は多分地中海スダ灣に移し英國領事立會の上貨物の審檢を爲す筈又損害賠償は英國より要求することゝなるべし

◎日排黨集會

京城發電報に曰く〜二十二日吳鍾路にて保安會の殘黨獨立協會員天主教徒等**二千名集合し我憲兵は二十二日其五名を翌日二名を捕縛せり爲に排日勢力益々增加す**

◎遼陽方面の敵數

芝罘發電に曰く〜**遼陽の露兵は城西の伯頭寺に五六万城毛子に二万鞍山站に一万城東蛾眉庄に四千カヨウミツに三万あり**

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

137

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年七月廿四日

松陽新報第貳號外

東京電報（廿四日發）

◎伊豆沖の露艦

大本營着電一日〜本日午前七時五十分伊豆國石廊岬の南西約三十海里の沖合に浦鹽艦隊と認むる軍艦三隻商船一隻を率ゐて東向しつゝあり軍艦は三本檣四本煙突二隻三本檣二本煙突一隻商船は二本檣一本煙突なり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

138

丸七ヒ

139

松陽新報號外

東京電報（廿五日發）

◎城廓再攻撃

第一軍戰地發電報に曰く

二十一日我歩騎兵は再ひ城廓を攻撃せり敵は騎兵八百と砲二門を有し其優勢を頼みて頑強なる抵抗をなしたるも終に我軍の撃退する處となり平頂山方向に退却したるを以て我軍は東方高地まで追撃せり敵の遺棄せる死體六負傷二十六にして我は戰死一負傷一を出ぜるのみ

◎遠州沖の露艦

二十四日濱松發電報に曰く本日午後七時三十分遠州御前崎發電に依れば只今敵艦三本檣四本煙突二隻三本檣二本煙突一隻は當地を距る約十海里の沖合を東に向け進航中なり

◎營口占領　錦州發電に曰く我軍は二十四日午前十時營口を占領ぜり（至急電報）

◎遠州沖の砲聲

別報に依れば昨夕六時頃遠州御前崎沖より當り砲聲らしき音響盛に聞ゆと

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

140

九九五

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年七月廿五日

松陽新報第貳號外

東京電報（廿五日發）

◎保安會一笑に附せらる

二十三日京城發電報ゝ曰く排日團体の保安會は二十一日駐韓各國公使ゝ向け哀願的の書面を送りたるゝ就れも一笑ゝ附し去れり就中或公使は韓國が自治權なく自ら好て列國の干渉を求むるが如き貧弱國なるに依り日本の力に頼り荒蕪地開墾等の必要あるありとて太く痛罵したる由

◎露艦の暴行

英國濠船チナン號は今朝汽船ナイトコンマンダー號の乘組員を搭載して横濱に到着せり其報告に依ればナイトコンマンダー號は二十四日伊豆沖にて浦鹽艦隊の爲に撃沈せられたり同艦隊はチナン號をも撃沈すべき氣勢なりしもコンマンダーの乘込員を托して之を解放せりコンマンダーは紐育より廻航の途にありしものなり浦鹽艦隊は尚ほピーオー會社の雇船獨逸濠船一隻を捕獲したりとの報あり同船は麥粉三万俵積載し居たり外ゝ英船一隻も捕拿せられ浦鹽ゝ送られたり（午前十時四十分發）

◎紅海艦隊尚暴行す

某筋ゝ着したる電報ゝ依れば獨逸汽船スカンヂア號は東洋に向け航海中紅海ゝ於て露艦に糺され露國旗の下にスエズに引還したり

◎昨夜の露艦

伊豆發大本營着電公報に曰く二十四日午後十一時半敵艦と認むべきもの三隻燈火を減し神子元島の五海里沖を東に向て去るを漁船が認めたり又昨日午後六時四十分救助船歸着せしが昨朝砲撃さしし商船に關しては得る所なし（午前十一時一分發）

◎又々撃沈せらる

其後の報に依れば濠船ナイトコンマンダー組員中印度人二十一名はチナッ號ゝ送り歐洲人は露艦ゝ收容せらる又昨日午後日本帆船二隻撃沈せられ其の乘組員は捕虜となりたる旨臨檢士官より聞けり（午後零時三分發）

◎今朝の露艦

情報に依れば本日午前五時頃露艦と認めらるゝもの三隻上總國勝浦より八十海里沖を東行するを見たり

◎總州沖の砲聲

勝浦發電報に曰く今朝六時半當港を去る南方ゝ於も段々たる砲聲一分時毎ゝ聞へつゝあり

◎又

上總大原發電報に曰く露艦は本日午前七時五十分勝浦沖にて發砲しつゝ大濱沖ゝ向ひたり

◎又

本日午前七時房州天津發電報に曰く只今當沖合ゝて砲聲聞ゆる事頻りなり

（以上三項午後一時三十分發）

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治廿七年七月廿六日

松陽新報第參號外

東京電報（廿六日發）

◎大石橋方面戰況諸報

二十五日天津發電報に曰く我軍は昨夜（二十四日）大石橋の敵を擊退したり牛莊の敵は今朝火を放て退却せり

上海發電報に曰く二十四日大石橋に大戰あり未明より日沒迄砲聲營口方面に聞えたり

露軍は營口を撤退せり露軍駐屯の地點は大火中なり日本軍未だ營口に來らず

（記者曰く本電に依て見れば大石橋は既に二十四日の夜占領せられたるが如く思はるれども總て天津及び上海發電報にして我公報は未だ到達せず）

◎露艦西に向ふ

浦汐艦隊は昨夜來更ゝ針路を西方に向け進行中と

◎情報あり

◎擊沈英船

英國汽船協生號は十六日夜濃霧中復州灣附近にて露國驅逐艦の爲め水雷にて擊沈され乘組の支那人七十名英國人六名露國一名は救助旅順に送られたり

◎露艦蠢行と米國

二十五日倫敦發電報に曰く米國は浦鹽艦隊の行動を以て太平洋面に於ける日本との通商を脅かすものとし華盛頓政府は本件に付き强硬なる政略を執るべき用意あり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

141

七月廿六日發行
松陽新報第貳號外

東京電報（廿六日發）

◎牛莊占領（至急電報）　今朝北京發電報に曰く我軍は些少の抵抗なく牛莊を占領せり

◎大石橋附近占領　我軍は二十三日より大石橋附近の敵を攻撃し漸次敵を撃退して終に大石橋東方高地を占領せり我損害些少なり其後情報なきも同地の占領は今明日の中にあるべし

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　夫朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

142

明治廿七年七月廿六日

松陽新報第壹號外

東京電報

（廿六日發）

◎大石橋の戰鬪 二十五日天津發電報に曰く營口よりの報によれば

二十一日蓋平大石橋にて戰鬪あり二十二日午後に至る迄繼續し露軍は八百の死傷を出ぜり次で二十三日朝再び開戰日本軍は其敵を追擊中なり

◎黑鳩と亞歷ロパトキン は尙大石橋にありアレキセーフは今二十五日遼陽に到着したる筈なり

◎牛莊露兵の北退 二十五日北京發電報に曰く昨日牛莊の南方に砲聲聞ゆ今朝未明より**牛莊及び牛家屯に駐屯ぜし露兵は續々北方に退却** すとの急報營地へ達したり

◎韓京不穩 京城發電報に曰く東門外に於て我元山行の貨物に對し百方妨害をなしたる韓人あり我守備隊は種々偵察したるも犯人の姿を認めず**京城益不穩の兆あり**

◎行衞不明の英船 二十五日天津電報に曰く營口よりの報に依れば營口芝罘間にて行衞不明となりたる**英國船シエシヨン號** は露國驅逐艦に**擊沈**されたるものにて**乘組員は皆溺死** せり右驅逐艦は今西砲臺（營口）の下に碇泊し砲艦は牛莊北方に碇泊し居れり

◎昨日午後の露艦 浦塩艦隊は昨二十五日午後四時過迄上總國夷隅郡長者町沖合肉眼にて認め得る處にあり滊船一艘を率ゐ居たり

◎露艦蠻行爲め包圍せられたり多分擊沈せられたるならん 昨二十五日總州勝浦沖にて**商船一艘露艦の難の模樣あり**

◎韓廷狼狽 京城發電報に曰く韓廷は一度荒蕪地開墾に對し拒絶の廻答をなしたるも我より之を突返したるを以て目下京城内騷然たり新内閣の組織も頗る困

發行人兼印刷人 原 豐次郎 編輯人 吉田 美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

143

芝罘特發電報（二十七日午前九時十五分發 午後零時三十三分着）

牛莊占領 激戰の末敵は大石橋及牛莊より退却し我軍は二十五日夜牛莊を占領遂行せり

右の電報は本日在芝罘某氏より本社主筆に宛てたる特電なり大石橋の勝利牛莊の占領最早や疑ふ可からず

東京電報（廿七日發）

浦鹽艦隊 露艦は今朝再び遠州御前崎沖を遊弋し居れりとの報あり

我○○○○の奮擊

我○○○○が二十四日夜大石橋附近の敵陣突擊は壯烈無比の銃劍突擊を以て敵中に猛進したる爲め戰況實に慘烈を極めたりと

東京灣の露艦 露艦は今朝二三時頃東京灣より六十海里の沖にあり

發行人兼印刷人 原豐次郎 編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

七月廿七日　松陽新報　第六號

東京電報（廿七日發）

◎大石橋附近の夜襲

確報に依れば我攻擊軍の一部は二十四日の夜敵の砲百二十門を以て堅固に防禦ぜる大石橋附近の開山嶺を夜襲し終に之を占領ぜりと其の結果大石橋は勿論占領ぜられたるなるべし

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

145

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
（明治七年七月廿七日）

松陽新報第貳號外

東京電報

（廿七日發）

倫敦發電報に曰く

◎英艦進航

英國戰鬪艦巡洋艦及び驅逐艦二隻は紅海に進航せり蓋し紅海の要路を嚴守せんが爲めならん

二十六日上發電に曰はく膠州灣よりの報によれば

◎露艦南航說

浦汐艦隊は臺灣方向に向け南航しつゝあり

右につき某海軍武官の談によれば露艦は澎湖島を占領しバルチック艦隊を待合はさんとの計畫にはあらざるか

倫敦發電報に曰く露都よりの報に曰く元獨逸ロイド會社の滊船なりしカイゼルウイルヘルム、フユストビスマルクの二隻は巡洋艦に改造せられ二十四日リバウ港を出發せり他の購買船五隻も亦之に繼ぐべし

◎黑海露艦續發

二十六日佐世保發電報に依れば

◎旅順附近海の雨霧

旅順附近は近來降雨甚しく毎日規則的に午後五時頃より漸次濃霧を催し咫尺を辨ぜざるを以て敵艦艇は之を利用し鮮生角を通過して我に近づき沿岸を砲擊するを以て我も又直に之を迎擊すれば敵は背進して鮮生角砲臺掩護の下に隱るゝに依り止むなく引返すを常とせりと

二十五日京城發電に曰く荒蕪地開墾拒絶書の林公使より突返されたる以來排日派の保安會は益暴慢を極め尙諸處に密集して協議するもの〻如し▲韓皇は更に親書を以て伊藤侯を招聘せられたり▲佛國領事館に於て親露派の集會なしたりとの說あり

◎韓京騷擾

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年七月廿七日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿七日發）

◎大石橋占領　北京發電報に曰く二十五日午後二時半日本軍は大石橋全部を占領せり露軍は退印の際停車場を燒拂ひたりとの急報あり

◎我軍營口に入る　土屋大尉の引率せる騎兵一隊は二十五日午後十時半營口に入れり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

147

明治廿七年八月廿八日　松陽新報第壹號外
（此號外は本紙ゟ再錄せず）

東京電報（廿七日發）

◉大石橋附近占領公報

其一

二十四日大本營着、奥第二軍司令官報告

軍は敵監視部隊を驅逐し二十三日午前十一時頃より湯池南方下湯池附近より孟家屯南方高地新樹屯附近を經て朱家屯附近ゟ亘る陣地を占領し騎兵は左側高嶺臺の附近にあり敵の砲兵二中隊は海城街道上の茶棚庵附近にありて五臺山附近を射擊し又た騎兵の大集團は太平山より南方ショウユー屯に前進す敵の本陣地は湯池北方シロウ溝より太平嶺生石山南部田家屯を經て牛心山と亘る線にありて堅固なる防禦工事を施せり而て敵の大集團は太平嶺の西北生石山の北及び橋臺舗の西ゟあり目下陣地敵情偵察中なり

其二

二十五日大本營着奥司令官報告

軍は湯池西南約四キロメートルのコジウ附近よりトクロウバラン及びグワリウ溝を經て五臺山に亘る線展開し二十四日早朝より攻擊前進ゟ移る午前九時我が右翼部隊は太平嶺西南約三キロメートル百八十フートの高地附近ゟ達し敵の砲兵はヤバダイ生石山の東方テイカコウ附近及ゼンシロウコウ附近ゟありて射擊をなしつゝあり其數は約五中隊にして海城、蓋平街道上に未た戰鬪起らず

其三

二十六日午後大本營着奥司令官報告

軍の前面にある敵の砲兵は其の威力より判斷するも百門に下らず我砲兵は地形の關係上有力なる射擊をなす能はずして軍攻擊前進は敵砲火の威力ゟ妨げられ戰鬪を持續しつゝ日暮ゟ至れり軍の前面にある敵の兵力は約五個師團にして二十四日交戰せし砲兵は約十六中隊餘なるが如し此夜彼我兩軍は窃に相接觸して對峙し特に蓋平より海城に通ずる街道に沿ふては敵兵二個師團あるものと判斷せるを以て軍は之に對し嚴重なる戰備を執れり廿四日日暮の爲め砲戰を停止したる後ち軍の右翼隊部隊は午後十時夜襲を以て大平嶺の東西にありし敵の第一陣地を奪取し夜半より更に第二陣地を攻擊し之れに隣接せる諸團隊も亦未明サンセイトウ東方高地を占領せり之れが爲め敵は大石橋方向に退却したるものゝ如く生石山は午前七時過ぎ敵の抵抗を受くるなく我軍の有に歸せり軍は大石橋に向ひ敵を追擊す軍の死傷は兩日を通じて概數八百餘名なり尚ほ詳細取調中

◉黑鳩大將の負傷

二十七日天津發電に曰く大石橋戰鬪に於てクロパトキン將軍は左肩に負傷し外に將官一名戰死し敵の死傷一万以上に達す

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　松陽新報社　島根縣松江市殿町四十三番地

148

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治四十七年七月廿八日

松陽新報第參號外

（廿八日發）

東京電報

◎伊豆下田沖の砲聲（至急電報）

昨夜十時下田警察署より靜岡縣廳に達した
る報によれば只今下田沖にて數十發の砲聲
を聞く其後も猛聲連續せり
又私報に依れば我艦隊は露艦を襲擊せしな
らんとあり孰にしても例の商船擊沈にはあ
らざるが如し

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

149

明治三十七年七月廿八日
松陽新報第貳號外

東京電報（廿八日發）

◎大石橋に於ける死傷　大石橋の激戰の結果我軍の死傷約九百に增加せり

◎奥軍の北進　確報によれば奥大將の軍は廿五日大石橋占領後更に北方一里の地點迄進みたり

◎退却露兵　二十七日發山海關電報に曰く營口の露兵は新民屯に向け船にて退却したるものにて官吏商人等も交じ居たりと

◎旅順の砲聲　廿七日芝罘發電に曰く昨二十六日朝來旅順方面に砲聲盛なり

◎清民我軍を迎ふ　廿七日山海關發電報に曰く營口の支那人は我騎兵隊の侵入に當り爆竹をなし國旗を掲げて歡迎せり

◎敵害少し　二十七日發錦州電報に曰く大石橋の建築物は過半は無事にして牛家屯は倉庫を燒き拂はれたるのみなりと

◎旅順の內輪喧嘩　二十七日佐世保發電報に曰く戰地より歸來者の談に昨今旅順にある敵の海陸軍の軋轢甚しく陸兵は海兵に向ひ我々が斯く窮地に陷りたるは爾等の意氣地なきが爲めなりと嘲罵し或は鐵拳を加ふる等の亂暴をなして內論喧嘩をなし居れり

◎其後の京城　廿七日京城發電報に曰く我軍事警察實施以來城內の取締効を奏し表面至て靜肅なるも裏面に於ける排日黨の潛勢力は決して侮る可からざるものあるが如し

◎藤侯再渡韓　伊藤侯は八月十日過出發渡韓すべし

◎放免　廿七日京城發電報に曰く荒蕪問題反對のため我手にて捕縛されたる金基雄は無罪放免せらる

◎韓露間の秘密交信　二十七日京城發電報に曰くソンタク孃を中心として露都上海京城間の秘密信書の往復近頃頗る頻繁となりたりと

◎韓廷の絕對的拒絕　二十七日京城發電報に曰く荒蕪地開墾に關する我要求に對し韓廷外部は昨日絕對的に拒絕の回答をなし我よりの公文書等一切無要なりとして返還し來りたりと

◎韓國財政刷新　我政府は臨時費より一千万圓を第一銀行に貸付け同銀行は更に之を韓國政府に貸付けて一大銀行を設立して白銅貨二千萬圓を引換へしめ日本貨幣を流通せしむる計畫にて目賀田主稅局長は財務顧問として渡韓すべしとの說あり

◎英艦來航せん　二十七日上海發電報に曰く英國戰闘艦オーシャンは並之駆逐艦三隻は横濱に向け香港を拔錨せんとす

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治廿七年七月廿九日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿九日發）

◎露艦捕獲　二十七日我軍は田庄臺の上流にて露艦一隻（シプー）（チカ）を捕獲せり

◎大石橋の敗兵　大石橋戰の敵の負傷兵一千は七臺の列車ゑて奉天に着し直ゑハルビンに向ひたり

◎露吏逃亡　營口の露國民政廳官は二十七日山海關ゑ向け逃げ去りたり

◎營口露領事　營口の露國領事は昨日（二十八日か）天津に赴きたり

◎航海杜絶　浦汐露艦再現の恐れあり津輕海峽の航海杜絶す

◎占領後の營口　營口占領後日本軍政署を置き多數の警察兵にて治安を計り市内は平穩ゑて唯支那人の露國民留地ゑ入りて種々なる殘品を分捕りたるのみなりと

◎韓國借欵說、　韓廷は京都の高木文平と一千万圓の借欵契約をなせり一說ゑは韓廷にあらず玄暎運にて公使館の手を經由したるゑあらずと

◎英首相の演說　英國總理大臣は露國が悲むべき出來事たる萬國公法を破棄したるを恐るゑ下院に於て演說せり

◎英船又捕獲せらる　英船ワルオルモサ號は又々捕獲せられ露國捕獲船乘組員に指揮せられ蘇士ゑ引返せり

◎黑鳩重傷說　クロパトキンは馬を擊たれ落馬負傷したりとも云ひ又彼自身彈丸を受け負傷したりともいひ兎に角重傷にて病院にあるは事實なりとの說あり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二〇

151

明治卅七年七月三十日

松陽新報第壹號外

東京電報（二十九日午後十一時發時間外電報）

◎大石橋占領戰要報

敵の本陣地は我右翼牛心山附近より青石山を經て大平嶺一帶の高地に據り我攻擊地帶を瞰制し數層の塹兵壕には銃眼を穿ち掩蓋を造り且つ處々に鹿砦鐵條網地雷を設け殊に其砲兵は巧に地形を利用したるを以て我砲兵は非常に苦戰して敵砲を沈默せしむるに至らざるも司令官は飽く迄攻擊を遂行せんとし右翼隊の損害を顧みず突擊を命したるも敵陣の一部隊だも取る能はずして二十四日日沒となれり敵の砲兵一部は午後九時迄時々我を炸射せり

是に於て右翼司令官は軍司令官の旨意を體して夜襲を行ふに決し十時歩兵隊は太平嶺附近の堅固なる敵陣地に突入して第一砲壘を取り多少の損害を顧みず第二砲壘を占領せり時に二十五日午前三時右翼團隊に隣接せる諸隊も之に續いて山塞洞附近を占領し臥龍崗附近の我砲兵は天明と共に青石山を占領せり

左翼隊は牛心山橋臺堡の線を占領せり敵の主力は海城方面に退却し午前十一時過大石橋を通過せり

捕虜將校の言に依れば クロパトキンは戰場にあり而してサハロフ中將コントラウイッチ少將負傷せり敵の死傷は少くも二千を下らず我死傷は將校以下千名内外戰利品捕虜は取調中也

敵は青石山に決戰を企てたるも我が强襲に依り左翼の破れたるが爲め遂に潰亂せり

◎退却後の敵

二十八日午前大本營着奥大將報告

二十六日敵は孤庄屯附近に位置し砲兵は金山嶺に現はれ周家溝附近を砲擊せり我偵察中なり

◎營口守備

二十八日午後大本營着奥大將報告

孤庄屯附近の敵は退却し又營口方面より退却せる敵はコウガサイ附近に停止したるものゝ如し軍より派遣したる營口守備隊は二十六日夜到着し曩に占領せる騎兵と交代して市内に入り警備に任す

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美穎

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年七月三十日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第貳號外

東京電報（三十日發）

◎第一軍の戰報

二十九日戰地發電報に曰く二十三日朝我右翼隊前方に敵騎三百砲八門の一團現はれ五時迄維持して退却せしが此の間午後三時敵は楡樹林子にて輕氣球を揚げ我を偵察したり又我左翼隊の將校斥候は鷄黃山の西に於て敵騎に攻擊され即死一名負傷下士卒四名を出せり

◎黑鳩戰死說

芝罘發電報に曰く當地清人間にはクロパトキン戰死の說熾なり

◎旅順諸報

芝罘發電に曰く鳩灣より入港せる苦人十八名は就れも二十六日より旅順背面に激烈なる砲聲を聞くと▲二十七日畫老鐵山の遙か南に我が軍艦八隻、水雷艇數隻が砲火を交へたるを見たり▲廿一日露國水雷艇三隻破壞沈沒せり

◎露獨通商條約

露獨通商條約二十八日獨逸首相ビユロー伯とウキツテとの間に調印濟む

◎擊沈帆船

ナイトコンマンダー船員の日擊談に依れば去二十四日露艦の爲め擊沈せられたるスクーナ型帆船二隻の中一隻は名古屋伊藤產八所有の勝運丸ならんと

◎大連灣の閉塞船

大連灣にありし露艦が豫て閉塞のため沈沒せる汽船は我軍にて大抵引揚げたり孰れも船体に防腐劑を塗抹しありと

◎ダーダネルス問題

露國軍艦のダーダネルス海峽通過問題に對しては列强尙ほ愼重の態度を以て注視しつゝあり

◎米國の詰問

米國は露國が如何なる理由にて米國貨物を載せ英國港灣に向けたる中立船舶を捕獲したるかにつき說明を求めたり

◎英獨船解放

蘇士にて露艦の爲め捕獲されたる獨逸汽船ハルサチア號は釋放され又マラツカ號もアルジールにて英國領事に引渡したり

◎露國內相暗殺後報

倫敦發電に曰く露國內相を暗殺したる爆裂彈は先づ馬車を破壞し御者を殺し且つ若干の傍觀者をも倒せり暗殺者は直ちに逮捕せられ附近の家屋も亦甚しく破壞せられたり

◎宣教師慘殺

二十六日白耳義宣教師ウエルヘーケン兄弟は清國湖北省宜昌附近にて土匪の爲め虐殺さる

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美穎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

153
一二三ゼロ

三三号

154

東京電報（三十日發）

◉英政府の抗議

英國首相バルフオアー曰くナイトコンマンダーの沈は全然慣例違犯なり英國政府は之を關し熱心に其見解を述べて露國政府に迫りたりと

◉亞歷の奮發　確報に依ればアレキセーフは戰局の挽回を圖らんが爲め自ら一箇師團の兵を率ゐて遼陽附近にて我軍に對抗ぜんとする模樣あり

◉不忘盟會と淑德會　明日市高等小學校にて不忘盟會を明後日淑德會を何れも午前七時より開く

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

◎旅順背面に於ける露兵の蠻行

三十日大本營着旅順包圍軍報告

二十七日の戰鬪に於て露兵は左の如き殘虐を働けり

負傷後嚴石の間に潛伏して露兵の迫害を免れたる兵卒の言左の如し

夜間敵の斥候は我負傷者の携帶品を奪ひ然る後頭部腹部の嫌ひなく銃創を以て之を刺し殘虐なる殺戮を行へたり

又戰場掃除隊より左の報告あり

露兵は我死傷者の金錢時計等を奪ひ死者の眼球を抉り首を斬り或は之を撚り取りたるもの少からず

◎露國の前途如何

倫敦發外務省着電に依れば露國內相プレーヴェの暗殺に關し倫敦諸新聞は加害者の所業を惡むと共に此の事變を以て

るべからざる處なりとし且つ之れが爲め露國の**專制主義は却て一歩を進むる**ものなりとし露新聞紙は露國の前途に**不祥の兆候少からざる**べきを述べ又斯の如く**內憂外患を有する露國の將來果して如何**と論せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美輔
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

155

二四号

明治卅七年七月卅一日

松陽新報第貳號外

東京電報（卅一日發）

◎旅順陷落迫る

三十日上海發電報に曰く當地マーキユリー新聞社より旅順陷落に關し芝罘に問合せたるに陷落は尚不確實なるも旅順の危機は旦夕に迫れりとの返電ありたり

◎露軍々略を難す

三十日上海發電報に曰く當地の外國武官は一貫にクロパトキンの作戰計畫を批難し偵察の不行屆なるは露軍の著るしき缺點なりと公言せり

◎奉天方面の戰

三十日天津發電に曰く昨日奉天を距る三十清里なるチヤンワイツアイに激戰ありたりとの報あり

◎露內相暗殺の摸樣

卅日ロイテル電報に曰く露國內相プレーウエに投ぜられたる爆裂彈は彼の一腕兩脚を粉碎し其胴を引裂きたり又馭者を殺し馬、車体共に粉碎せられたり

發行人兼印刷人　原豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社
編輯人　吉田美朝

二五号

156

157

一二六、三

大正七年七月廿一日

松陽新報第參號外

東京電報（廿一日發）

◎水雷艇隊の夜襲

二十六日大本營着東郷司令長官報告

海軍大尉桑島正三の指揮せる第十四艇隊並に特に附屬したる第十、第十一の裝砲艦及び三笠富士の艦載水雷艇は二十四日午前三時頃鮮生角の東灣に潛伏せる敵の驅逐隊を攻擊し艦載水雷艇より連發したる魚形水雷は慥に三個の爆發を認め又砲艦二隻は敵に近きて之に猛烈なる砲火を加へたり其の結果は煙霧の爲め未だ明ならず我艦艇一も損傷なし

附言　本文中三個の爆發を確認せりとあるは昨今續々傳へらるゝ彼の驅逐艦リ

ウテナント、ブラコフ外二隻ならん此ブラコフは最に

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

八月廿六日 松陽新報號外

東京電報（廿六日發）

◎旅順砲臺の破壞　二十五日芝罘電報に曰く二十四日夕方旅順を發して來着せし支那人の談に依れば旅順背面の諸砲臺は概ね破壞され唯椅子山の中央砲臺より微力なる發砲をなしつゝあるを見たりと

◎露艦解武着手　二十五日上海發電に曰く露艦は一二十六日朝を以て武裝を解除すべくアスコリドは二十八日出渠すべしと

◎旅順の彈藥缺乏　二十五日門司發電に依れば同地へ歸來せる某將校の談に旅順の敵は彈藥欠乏の爲め稍沈默の姿勢を執るものゝ如し

◎捕獲事件を是認す　二十五日北京發電に曰く芝罘露艦捕獲事件に付き我行爲を非難せし諸外國人等は我政府發表の説明書を見るに及び日本の態度としては此臨機手段を取るの止むなかりしを是認せり

◎浦汐敗艦　二十五日佐世保發電に曰くロシヤ、グロンボイ二隻は十七日浦塩の船渠に入り爾來書夜兼行にて修繕に着手し居れりと

◎捕獲事件と清廷　二十五日北京電報に曰く清國政府は芝罘の露艦捕獲事件に付き如何なる場合にも日本の後援を得べきを確信し露國の威嚇手段に對し何等恐怖心を懷き居らずと

◎逃走狙擊　二十五日芝罘發電に曰ジャンクの談　依れば昨二十四日夕方旅順沖通過の際微かに砲聲を聞きしも眞音響は接戰せしものにあらず敵の逃走を狙擊するもの〻如く聞きなされしと

◎大海戰敵の死傷　二十五日佐世保發電に曰く十日の海戰に旅順へ逃げ歸りし敵の戰艦四隻の死傷は戰死將校五名下士卒百五十名負傷將校二名下士卒百名なりと

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

158

明治卅七年八月廿五日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第參號外

東京電報（廿五日發）

二十四日芝罘發電に曰く當地の軍事專門家は旅順總攻撃に就て判定して曰く今や日本軍は白玉山椅子山砲臺を占領し既に要塞線内に進み居るも

◎旅順陷落期　**西は大陽溝東部にある二砲臺より市街の後を繞りて東黄金山に至る間防禦線二あり或は小部隊が其一角を破りし事あらんも全く防禦線を破りて市街に侵入するは早くも二十五日なるべく尚は激烈なる市街戰を經て愈最後の副廓を陷れ全部の陷落を見るは二十七日なるへし**

◎自由内謁　二十三日京城電報に曰く本公使は韓皇へ奏上要件ある時は**自由に内謁見をなすの新慣例**を開きたり

◎迷信者放逐　全電に曰く警務廳は巫子賣卜者等五百餘名を城外に放逐せり

◎顧問傭聘調印　全電に曰く議政府會議に於て決議せし財務顧問外部顧問傭聘の件は韓廷と林公使との間に調印を終れり

◎露艦又英船を檢す　二十三日倫敦發電報に曰く一露國巡洋艦は南亞バシーカ港にて**英國滬船コメディアン號に停船を命し檢査**せり目下多數の船舶は日本に向ひ喜望峰迂回航路を取りつゝあり右樁事の爲め船舶業社會に於ける**危虞の念再發**せり

◎給炭禁止　同電に曰く交戰國船舶にして戰地に赴かんとするもの若くは中立國船舶遮斷の目的にて戰地へ向ふ航路上にあるものに對し石炭供給を禁ずるの布告發せらる

發行人兼編輯人　吉田美朝　印刷人　原豊次郎

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年八月廿五日

松陽新報第貳號外

東京電報（廿五日發）

●老母嶺の衝突 二十二日第一軍戰地發電ゟ曰く二十日太子河右岸威寧營の**敵歩兵六百騎兵一百船橋十七個所**を作り太子河を渡りて**我右翼に迫る**老母嶺に出てたる我將校斥候は之れと衝突し**戰死三名負傷松本少尉以下九名**を出せり夜來增援隊を派遣せしに既に勢鋭なかりし

●敵兵捕獲 仝電ゟ曰く我偵察隊は太子河の左岸**寒坡嶺**（楡樹林安平の中間）附近ゟ於て**敵兵九名を捕獲せり**此方面には未だ大衝突なく彼我相對峙す昨夜ゟ驟雨霧れ天候快復せり

●上海露艦問題 二十四日上海電報に曰く清國政府は上海ゟ於ける露艦問題を**二十七日正午迄延期し更に出港の爲め二十四時間の猶豫を與ふべし當地の輿論は日本の忍耐を賞揚し清國の無能を痛論**中ゟは上海を列國保護の下に置ゐん事を極論するものあり

●アスコリット 仝電ゟ曰くアスコリットは今尙ほ修繕を繼續し居れり

●出港延期請求 二十四日北京電報に曰く外務部は露國公使レクサに對し二十七日まで上海露艦の出港猶豫を與ふべしと申し込みしも同公使は更らに**九月一日まで延期を請求せり**

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　森　豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
松陽新報社

八月廿五日
明治廿五年

東京電報（廿四日發）

◎露艦處分延期　上海露艦問題に付き清國政府は更に五日間の延期を與へたる旨其筋へ電報ありたり

◎潜航艇廻送　佛國は潜航艇二隻を印度支那に送らんとす

◎韓國政府の反對　二十四日朝京城發電に曰く前兵士のインシへイ等の維新會を起し新政改善に反對せんとしたるが爲め解散を命せられ逮捕五十名を鍾路に立せしめ五人以上衆談すれば何事に依らず解散を命せしめ居れり

◎迷信者退去　全電に曰く韓國警務廳は巫子賣卜者等の迷信者一掃を城外に退去せしめたり

◎露艦遁入の照會　露國巡洋艦チアナの佛領安南サイゴンに遁入したりとの風說に付き其事實を佛國政府に照すべき旨巴里駐紮本野公使に訓電を發したり

◎旅順最近報　芝罘發電に曰く二十二日夜旅順を出で二十三日當地着のジャンクの談左の如し

▲新占領線　十九日總攻擊開始以來椅子山、白玉山及び第一第五砲臺は日本軍占領せり

▲敵艦　港内にはレトウヰザン、ポルタワ、ペレスウヰット、ポベイダ、パルラダ、セバストポリ、砲艦三隻驅逐艦十隻許あり

組員の九歩方を失ひ甚しく損害を受け其他の大損害を受け居るも船渠には一人の職工なし

▲日軍の進程　日本軍は市外太平街迄來り居れり

▲慘狀　露兵の死傷者を市内に送り込むは實に無數なり戰死者の埋葬は將校のみにして其他は大なる穴を掘り埋め居るも尙累々たる死屍の山は幾個となく築かれ居れり負傷兵の手當も不完全なれば苦惱呻吟の聲は全市に亘り其慘狀實に目も當られずと

◎鞍山站防備　二十三日營口發電に曰く鞍山站の敵は南山の如く堅固なる砲臺に據りて永久固守の覺悟をなし居れり斥候の衝突は每日絶ゆる事なし兩三日中には大激戰あらんと

◎海城方面の大水　全電に曰く海城方面に大洪水あり橋梁皆落ち僅かに鐵橋に依り交通し居れり

發行人兼編輯人　吉田　東祐　印刷人　原　敬文郎
島根縣松江市殿町四十三番地
社

明治卅七年八月廿三日

松陽新報第四號外

東京電報（廿三日發）

◎釜山の暴風雨　其筋へ達したる電報に曰く釜山にては二十日非常の暴風雨のため居留地の損害夥しく日本人家屋全潰二十三戸半潰三十七戸難破船百四十七隻海上溺死　人行衛不明　人

◎參謀會議と參内　昨夜（二十二日）深更に到るまで參謀本部に於て參謀會議開き一時過ぎ長岡參謀次長齋藤海軍次官等參内せり

◎豫備召集の影響　倫敦電報に曰く露國豫備兵召集に關する最近の勅令は全國各階級の注意を喚起したるが就中聖彼得堡にては一般人心に大なる感動を與へたり

◎ノーウ井ツク追擊詳報

高木千歳艦長報告

二十日未明千歳は禮文島北西二十マイルに達し宗谷海峽の中央より進みしも敵を見ず且つ天候不良にして展望十分ならざるを以て午前八時二十四分宗谷岬に近寄り位置を確かめんとする際禮文島の西方六十海里より索敵しながら來航せる對馬を會し千歳は直ち宗谷岬とシレントコ崎との一線上に進みて監視の任に當り對島をして十時三十分よりコルサコフ方面を索敵せしめしに同艦は午後四時三十分コルサコフ港外にて敵艦ノーウキツクを發見砲擊し多大の損害を與へたるに敵は五時四十分錨地に引返して熾んに白烟を上げ其艦影を蔽ふに至れるを見たりと云ふ此時對島は敵彈の爲め六番八番の石炭庫に侵水あり艦の傾斜漸く大ならんとせるを以て一時彈着外に出で應急修理に着手せり千歳は對島の電信に接し直に戰場に向ひしも日沒に至れるを以て引返し同夜對島をして海峽を監視せしめ千歳は港外を警戒せり二十一日未明千歳はコルサコフ錨地に進みノーウ井ツクの既に市街陸岸近く淺瀨に乘上げ乘員の退去しつゝある如きを認め六時二十五分より午前七時十四分まで之を砲擊し彼の艦体は一時全く黑烟に包まれ我照準を困難ならしむるに至れり二千五百米突まで近づき撿する所によれば敵艦は右舷に傾斜し其上方に當れる左舷側に於てすら最下甲板後部舷砲は水中に沒し船體の水面に露はれたる部分は甚しく破壞されあるを認めたり對島の應急修理は既に成り戰鬪航海に差閊なく其他兩艦共損害死傷なし

◎大本營會議　本日午後參謀本部に於て臨時大本營會議開かれたり

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豊次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

松陽新報號外

東京電報

（廿四日發）

◎旅順戰報　二十三日芝不發電報に曰く二十一日鳩灣を發して來れる佛國人の談に依れば十七、八、九の三日間砲戰あり二十日中止し二十一日再び開始せしも彈丸は概ね波止場及び軍艦に落ちたりと

◎旅順諸報　廿二日芝不發電報に曰くショーゼウ附近太平崖を發して來れる支那人の談によれば二十一日出發の際日本軍は同地及び練兵場を占領し白玉山の下を圍み居れり▲旅順港内にある軍艦の完全なるものは一隻大損傷ぜるもの四隻内一隻は半ば沈み居れり▲露人側の一説に依れば旅順の東及び北の諸砲臺の破れるは結局老虎尾半島に防戰する計畫なりと

◎リューリック擊沈顚末

瓜生第四戰隊司令官報告

十四日蔚山沖戰鬪の初期に於ては出雲、吾妻、常盤、磐手專ら敵に當り浪速は單獨之に準じ行動す敵の殿艦リューリックは速力前續艦に及ばざる如く敵艦隊正面を變するに當りては常に提路を取り前續艦に續行せしが戰鬪正に酣なりてリューリックは既に多大の損害を受るに至り我出雲等四隻は敵艦ロシア、グロムボイを追擊しつゝ西航し午前八時三十分リューリックは孤立となりし際恰も好し高千穗等は迂回せる浪速と共に單縱陣にリューリックに逼りリューリックは漸次勢力を恢復し十二哩内外の速力を以て極力應戰したるも戰鬪初期より受けたる砲彈の爲め既に砲力を減殺され我浪速高千穗二艦より四千メートル内外の距離にて猛烈の砲擊を受け終に敵する能はず十時三十五分沈默し艦体後部は漸次沈沒之艦員は各自遁れて水中に飛び入るを見たり依つて砲火を中止し敵艦情況を注視せる内十時四十二分終に衝角を現はして後部より沈沒せり浪速及び高千穗より救助艇を出し迅速に溺者救助に從事し次で新高、對島、千早、雷水艇隊及び出雲　四隻來會し共に救助して午後十時三十分之れを了せり

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

163

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年八月廿四日
松陽新報第壹號外

東京電報（廿四日發）

◎老鐵山占領　二十三日芝罘發電報に曰く二十二日旅順を出でたるジャンクの談によれば日本軍は既に老鐵山砲臺を占領し西は練兵場迄東は市街を距る三清里の地迄進軍せり最早陥落同然なりと

◎露兵帆船を襲ふ　廿三日札幌發電に曰くカムサッカ半島に碇泊せる百七十二名乗組の日本帆前船に去る九日露兵に襲はれ二十三名の外辛くも避難せし昨日千島に歸着せり

◎米政府の訓令　二十三日倫敦發電に曰く米國軍艦は清國の中立を保護するの企圖に出でざる樣特に訓令を受けしが其の司令長官は日本軍艦の行動に干渉せよとの訓令を受けざりき

◎海戰公報（午前九時三十分發電急報）

片岡第三艦隊司令長官報告

二十三日午前十時敵嶗嘴砲臺附近の陣地より頻りに我軍を砲撃するを認めたるを以て日進春日は陸岸に接近砲撃し少時にして沈默せしめたり

又た朝汐艦長松永少佐の報告に依れば（朝來港外に出で我軍を砲撃しつゝありし敵艦セバストポリは午後一時機械水雷に罹り著しく右舷に傾き艦首を水中に沒し大形小蒸滊船に曳れて旅順港内に遁入せり

發行人兼編輯人　吉田美朝　印刷人　原豐次
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

164

明治卅七年八月廿三日

松陽新報第參號外

（廿三日發）

東京電報

二十二日上海發電ニ曰く我驅逐艦はアスコリッドの前に來り巡洋艦常盤新高高千穂の三隻吳松に入れり

◎露艦問題解決延期　全電ニ曰く上海道臺は日本の同意を得て二十三日正午迄露艦問題の解決を延期す結局到底武装を解くに至らん　列國の感情は露國を去れり

◎露艦南逃　露國巡洋艦ヂアナ柴棍（安南）に着せり

◎露軍の附元氣　二十二日倫敦發電ニ曰く露國帝皇はスラッセル將軍ニ電報して曰く旅順の要塞守兵は不屈不撓の勇を起し軍の光榮を支持し得るを確信すと

◎電信不通　釜山對島間海底電信不通ゝなり電報は總て船舶にて受繼ぐ事となれりと

◎露艦更に猶豫を請ふ　二十二日北京發電ニ曰く清廷はレッサー公使に對し上海ニある露艦は二十三日正午迄ニ出港すべきものなる旨通告せしに損害甚しきにつき應急修理を加ふる爲め十二日間の猶豫を請求し來れり露國の意は此の期間内に戰鬪に堪ふる丈の修繕をなしたる後武裝を解除し後日の用に供せんとするにある事明白なるも無能なる清廷はこれが要求を承諾せんとする模樣あり

發行人兼編輯人　吉田　美朝　　印刷人　原　豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

東京電報（廿二日發）

二十一日伯林發電報に曰く露國は四十七縣下の豫備兵及び全國の豫備將校を召集す（昨電參照）

◎敵軍中の熱病　全電3日〜クロパトキンは軍隊中にマラリヤ患者の增加するが爲め奉天に退却せん筈なりと

◎露國拒絕せらる　全電3日〜露國政府は獨逸ロイド滊船會社にバルチック艦隊の東航中石炭の供給を要求せしも拒絕せられたり

◎旅順敵情　二十一日佐世保發電に曰く旅順の敵の糧食は優に向ふ六ケ月間を支ふるを得べきも彈丸は殆んど欠乏を告げ居るが如し

◎黃海の暴風　全電1日〜十八日旅順港外は非常の暴風にて布設水雷多數漂流せりと

發行人兼編輯人　吉田美朝　印刷人　原豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
電話　新報社

明治卅七年八月廿三日

松陽新報第壹號外

東京電報（廿二日發）

◎二十二日發上海電報一束

▲上海沖の日本艦　日本巡洋艦四隻驅逐艦二隻は上海港外にあり驅逐艦一隻は吳淞に赴けり

▲露領事の頑强　露國領事は上海道臺の要求に係る露艦の出港若しくは武裝解除共に不同意を唱へて應せず

▲露艦問題の嚴談　內田公使は清廷に對し上海露艦處分問題に就き頗る强硬なる抗議をなし若し清國にして處分し能はざれば日本自ら之を處分せんとの意を達せり

▲各國領事會議　露艦問題の爲め今二十二日各國領事會議を開きたり其の結果未だ判らず

▲清國艦隊の示威　露國領事より武裝解除及び出港拒絕の復答をなしたる結果清國政府は南洋艦隊を吳松に集中ぜん筈なりと

▲上海露兵の亂暴　露國水兵は陸上に於て暴行をあし日本人四名爲めに負傷せり右暴行露兵の數名は米國人の爲に取押にらる

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
發　行　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

167

明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可
明治廿七年八月廿一日

松陽新報第貳號外

東京電報（廿一日發）

○巴艦隊發航　十九日倫敦電報に曰く露都よりの報に依ればバルチック艦隊十一隻は十五日リボウ港を拔錨し石炭船若干隻及び浮動船渠二箇を供へ航路は南大西洋より南米に出でんとする由而してロージエストウエンスキー提督は九月三日出發すべく若干隻の軍艦未だ其準備を終らずと

○砲臺築造　二十日芝罘電報に曰く〜ジャンクの談に依れば〇〇軍は羊頭灣東方五清里なる〇山に砲臺を築きたり

○露艦出ず　仝電に曰く十日の大海戰以來旅順の水雷艇は時々黄金山下迄出て來る事あるも大軍艦は出てたる事なしと云ふ

○上海露艦の嚴談　二十日上海電報に曰く當道臺は逗入の露國艦隊逐艦グロゾボイに二十日正午アスコリツトに二十一日正午迄に何れも武裝を解除するか若くは出港せん事を要求したり

○遼陽方面の活動　二十日上海電報に曰く遼陽方面の日本軍は十九日より大活動を始めたりと

發行人兼編輯人　吉田　秀朝　印刷人　原　豊次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

168

明治卅七年八月廿一日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（二十日發）

◎○○○占領　十九日芝罘發電報ニ曰ク、ジャンク乘組員の談に依れば十七日○○軍○○○の東方六七清里なる○○○を占領せり

◎旅順の露兵　全電に曰ク目下旅順にある露兵は其數一万以上ニ達し居れるも兵員の頗る不足なれは大低の負傷者は入院せず繃帶のまゝ直に戰列に就かしむると云ふ

◎敵將負傷　全電に曰ク、ステツセル中將は其足部に負傷せり

◎黃金山砲臺　全電に曰ク黃金山砲臺は開戰當時は一個所破壞せしが其後引續き損傷を受け目下完全に使用し得るものは僅に一個所なり

◎市街の損害　全電ニ曰ク、○○日○○軍の砲聲の爲め○○○○數個所船渠工場、耶蘇教會場其他主要なる建築物は殆んど損害を受けたり

◎旅順沖の砲聲　二十日芝罘電報ニ曰ク、直隸號船客の談ニ依れば十九日夜老鐵山沖にて非常の砲聲を聞けりと

◎露國抗議を容る　二十日倫敦電報に曰ク、露國政府は英米兩國の抗議を容れて條件附戰時禁制品と絕對戰時禁制品との區別を立つる事を承認すべしと

發行人兼編輯人　吉出　美朝　印刷人　原　豐次郎

島根縣松江市殿町四十三番地

松陽新報社

170

明治卅七年八月二十日

松陽新報第壹號外

（明治三十四年十一月五日三種郵便物認可）

東京電報（二十日發）

◎露艦暴行と英國　十九日倫敦電報に曰く露國が又もや近距離輸送に過ぎざる汽船を妨害を加ふるに至りたるに對し英國の激昂は二倍し來り各新聞紙も亦強硬なる論評を加へつゝあり

◎北韓の敵　十九日元山發電に曰く目下咸興及び敵兵千二百あり尚五千餘砲十餘門來るべしと聲言し居れりと又昨日敵騎五百稍秣ヶ携帶して文川まで南下せりと傳ふ

◎露軍退却　十九日芝罘發電に曰く歸來せる支那人の談に依れば遼陽の露兵は到底日軍の優勢に敵し難きを知り一部は背進しつゝありと

◎捕獲事件と清廷　十九日北京發電に曰く芝罘の驅逐艦捕獲審檢に就ては露國の恐喝的態度のため清廷頗る窮苦の位置にあるも結局北洋水師提督薩將軍及び芝罘道臺を譴責して落着を告ぐべしと

◎水路阻止　同電に曰く露軍は遼河上流に舟橋三箇所を架設し營口への水路を阻止せりと

◎馬賊跋扈　同電に曰く遼陽北方には馬賊跋扈して良民を苦しめつゝありて土民の日本軍を待つ頻りなりと

◎遼東の大雨　同電に曰く數日來海城方面は非常の大雨にて馬脚を沒するに至り行路困難を極むと云ふ

◎エッセン少將戰死說　蔚山沖の海戰にて露艦ロシーヤの艦橋は微塵となりて海中に飛散したるが同艦にはエッセン少將の坐乘し居たれば多分艦橋と運命を共にせしならんと云ふ

◎暴徒擊退　十九日釜山電報に曰く慶尙北道大邱の北方四里の地に暴徒二百蜂起し我鐵道工事受負組合を襲ひ我守備兵の爲め擊退せらる

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

東京電報（十八日午後七時以後發）

◎露艦解武の通牒　十五日ツエザレウ井ツチ並に驅逐艦の武裝解除を終り交戰中此軍艦を膠州灣に抑留すゝ旨膠州總督より帝國政府へ通牒ありたり

◎旅順の猛雨　情報依れば十七日午前より旅順一帶の地は豪雨頻りにて殆んと咫尺を辨ぜざる程なり〳〵と

◎伏見若宮御出發　博恭王殿下には明十九日佐世保軍港御出發御歸京等

◎旅順の砲聲　十八日芝罘發電　日く昨日旅順陸上にて砲聲を聞く勸降拒絶のためならん

◎總攻擊開始　仝電　日く昨夜〇〇ヶ距十六七哩の沖に假泊し居りし汽船員談に依れば陸上にて我軍〇〇市街へ攻擊を見しが其の曳火彈は非常に美事なる物にて空中より落下する如く其の光景の慘たる言語に絶す劍山にある我軍の總攻擊を開始せるものならん

◎攻擊激烈　仝電　日く十八　羊沼灣より來れるジャンク日く市街は我が〇山よりの攻擊烈しく危險云ふべからず

發行人兼編輯人　吉田　毅　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年八月十八日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第四號外

東京電報（十八日發）

◎降伏拒絶公報

旅順包圍軍報告

十七日朝敵の軍使來り昨日の回答を齎せり聖旨に出づる非戰員の避難は之を拒絶せり本職より送りたる勸降に對しても亦同じ

●戰鬪再開　旅順敵軍の勸降拒絶ゝ非戰鬪員に關する敵の條件非認の結果戰鬪行爲は再び開始せられたりと

●上海新聞の是認　十七日上海電報に曰く當地デーリーニューヌは芝罘にわけゝ露艦捕獲事件を論じ千八百十四年英米戰爭の際米艦のホルトガルに逃げ込みたる時英艦の之を捕獲せ一例を引用し**日本軍艦の行動を是認せり**

◎中立國船舶取扱　倫敦電報に曰く駐露英國大使は中立國船舶取扱ゝ關ゝ露國政府ゝ抗議書を手渡しせり

發行人兼編輯人　吉田　[illegible]　印刷人　原　豐次郎

島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

172

二六二 173

明治卅七年八月十八日

松陽新報第參號外

東京電報（十八日發）

◎愈決戰か　未だ公報なきも旅順の敵は降伏を拒絶せるが如し（午前九時三十七分發）

◎又　確報に依れば昨十七日敵軍は或る條件を附して我勸降を拒絶し來れりと（午前九時七分發延着）

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
松陽新報社

明治卅七年八月十七日

松陽新報第壹號外

東京電報（十六日發）

◎降伏勸告と決戰の決答

我旅順包圍軍は十四日ヘーグ條約に據り休戰の喇叭を奏しつゝ軍使を敵陣に派遣して降伏を勸めたり敵は型の如く使者の目を蔽ひ軍司令部に招致したる上我が提議を排し最後の決戰を試みん事を通ぜりと

◎旅順艦隊の窮境　旅順口に遁入したる敵艦隊は我軍の陸上の壓迫のため到底入港を繼續し得ざるべしと信ぜらる

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

174

二之一
-175

明治廿七年八月十七日

松陽新報第參號外

東京電報（十七日發）

◎龍王山占領　旅順包圍軍は十日龍王山を占領し胡家屯に砲臺を築きたり其砲彈は港内に達す

◎戰地特別郵便規則　戰地特別郵便規則制定發表せらる九月一日より實施す

◎露艦停船を命ず　英船グールカは葡萄牙南端セークレス沿海にて露國巡洋艦ドンの爲め停船を命せられたり

◎海戰の結果　英國までは今回の海戰に就き太平洋に於ける露國の海權全く破滅し從てバルチック艦隊の東航計畫は遺棄さるゝあらんと評し合へり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年八月十七日

松陽新報第貳號外

東京電報（十六日發）

◎レ艦々長の電奏文

芝罘にて我軍に捕獲せられたる露國驅逐艦レシーテリヌイ艦長より露國皇帝へ電報したる奏上文左の如し

本艦（レシーテリスイ）は旅順より**重要なる通信事務**を帶び**二重の封鎖線**を通過して芝罘に着したり本官（艦長）は**グリゴロウイツチ提督**の命により同艦の武裝を解き且つ艦旗を撤し其の他一切の手續きを適法に履行したり本艦は十一日より十二日に亘り夜間同港にありし際日本人より**賊的攻擊**を蒙りたり彼等は**水雷艇二隻及び巡洋艦一隻**を以て本海に接近し恰も我々談判をなさんとするが如く一士官の指揮の下に一隊の兵員を送り來れり本艦は之に抵抗すべき武器を有せざりしを以艦體爆發の準備を命じたり日本人が自ら其國旗を揭揚する際**本官は日本士官を毆打し彼を海中に投**じたり續て本官は乘組員に命ずるに敵を海中に投ずるを以てしたり然るに我は力及ばずして日本人は我艦を拿捕するに至れり**爆發は機關室及び艦の前部**に於て起れり併し艦體は沈没に至らず遂に日本人のために港外に持ち去られたり機關師一名火夫二名外四名輕傷を負ひ本官又右股に負傷したり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

177

明治卅七年八月十七日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第四號外

東京電報（十七日發）

◎勸降の軍使

旅順包圍軍報告

十五日朝軍參謀山岡少佐を軍使として敵の前哨に差遣し陛下の聖旨並に勸降書を敵の要塞參謀長に手渡しせしめたり十七日の朝十時敵より回答ある筈なり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年八月十六日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第五號外

東京電報（十六日發）

●敵艦擊沈　東郷聯合艦隊司令長官の最近の報告に依れば敵艦パルラタ型一隻は去る十日の夜我水雷艇隊の攻撃の爲め轟沈せる事確實なるものの如し（午後零時十分發至急報）

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美穀

發　所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二六。

178

東京電報（十六日發）

◎小倉少佐の海談戰（昨電續き）

斯くて彼我砲戰は益酣となりしが敵艦隊の先頭よりはなりし**旗艦ツエザレウイッチに我十二インチの砲彈命中し左舷に傾**きたる爲め急に廻轉せんとせし時後續各艦は衝突を恐れて左右よ思ひの儘の針路を執りたり茲に於て**敵の陣形は破れ始め支離滅裂**となれり其後或敵艦との距離近々〇千メートルに近接するや我各艦は**急射猛擊**し幾何もなくして敵艦の各砲をして**沈默**せしめたり然るにレトウ井ザンのみは**戰鬪の終始發砲**し遂には砲火斷續し僅かよ發砲し得る迄も戰鬪を繼續したり斯くて日沒に及び漸次暗黑となりし爲め午後八時半頃發砲を中止し**特別隊**を以て各方面よ散逃せる**敵艦を追擊**せり其後敵は最後の戰場たる圓島より山東角沖合に逃去したれば**我驅逐隊水雷艇隊**は午後九時頃より**探海燈の照射**を冒して**約一時間**內に**數回の襲擊**をなしたるに**一水雷は確かにツエサレウ井ッチに命中**せり其後敵艦は孰も戰鬪力を失ひて逃走し**殘艦六隻**は翌十一日正午までよ一隻つよ漸く旅順港內に逃げ入れりされば**今回の海戰は日露海戰の一段落にして當日最も苦戰せしは旗艦三笠にして敵艦に包圍せられし時の如きは多數の彈痕を印ぜしも幸ひに要部を外れ居り次て苦戰せしは日進八雲なりしが三艦共戰鬪力には何等の支障なし實に今回の海戰は世界海戰史上未曾有の大海戰にて殆と黃海全面に涉りて彼我艦隊堂々對陣し約七時間半の長時間砲火を交へ遂に我軍の大捷に歸したるなり**

發行人兼印刷人　原　豐永郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
所　松陽新報社

二〇〇
179

明治卅七年八月十六日

松陽新報第參號外

東京電報（十六日發）

◎韓政府の改革 十五日京城發電に曰く近々韓廷大臣の更迭あるべく官制改革も近く行はるべしと傳ふ

◎韓廷の優柔 仝電に曰く林公使の忠言的奏上に對し沈相薫以下各大臣は密議を凝らせしも例に依り議論區々にして絡らず**俄に我忠言を容るゝ模樣なしと**

◎捕虜來る 十五日佐世保電報に曰く蔚山沖にて擊沈せる露艦リューリックの**捕虜六百名**本日當港へ着せり

◎露公使の詰問 十五日北京電報 曰く駐清露公使レッサー公使は清國政府に對しレシテリヌイは貴國の保護を求めんとするの意ありしが**日本驅逐艦が恣に之を捕獲せしは貴國の中立權利を侵害**せしなりと詰問的攻擊をなせり

◎旅順攻擊 十五日芝罘發電に曰く**我軍は○○○○○より絶えず旅順を攻擊し居れりと**

◎任陸軍少將 陸軍歩兵大佐島村干雄（第三師團參謀長）

◎露國の抗議 十五日倫敦電報に曰く露國はレシーテルヌイ捕獲に關し在東京佛國公使を通じ**強硬なる抗議を日本政府へ**申込ん事を請求し又北京駐紮公使をして**中立破棄認容の遂に胚胎すべき重大なる結果**に就き清國政府に對し抗議警告せん事を訓令せり

發行人兼印刷人 原 豐次郎 編輯人 吉田 美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

180

明治卅七年八月十六日

松陽新報第貳號外

東京電報（十五日發）

◎浦塩艦隊擊破詳報

上村第二艦隊司令長官報告

十四日天明出雲（艦長海軍大佐伊知地秀珍）吾妻（艦長海軍大佐藤井較一）常磐（艦長海軍大佐吉松茂太郎）磐手（艦長大佐武敏邦鼎）は韓國蔚山沖にて索敵行動中浦汐艦隊三隻の南航するを發見せり敵は我隊を見るや北に向ひ遁走せんとするを以て直ゝ其の前途を扼し午前五時二十三分に至り戰鬪開始せり敵の殿艦リューリックは常に後れ勝にて絶ゑず激烈なる砲火を被れり前續二艦は屢勇敢に之れを掩護し遠ざかれば展廻して之れに近づき近けば又前進せり依つて我隊は屢丁字形を描きて敵に集彈するの利を得たり其の結果敵艦をして何れも數次大火災を起し多大の損害を負はしめたり殊にリューリックの如きは終ゝ進退の自由を失ひ砲力も亦全滅ゝ近づき時々緩慢なる發射をなすのみにして其の艦尾は著しく沈み且つ少しく左舷ゝ傾斜するを見たりしが敵は終に之れを棄てゝ遁走せり恰も好し第四戰隊戰場に近づき浪速（艦長大佐和田賢助）高千穗（艦長大佐毛利一兵衛）のリューリック攻擊に進むを見たるを以て本隊はロシヤ、グロンボーイを追擊せり此間激戰約五時間に及び敵の二艦は全速力を以て逸走せり午前十時十九分我戰隊ゝ右舷ゝ回頭しリューリック搜索の爲めに南航せるにリューリックは終に沈没せりとの報に接せるを以て直に全隊の集合を命じ其の沈没位置に至り浮泳する人員約六百を救助し得たり我艦隊は多少の損害を受けたるも何れも重大ならす士氣極めて旺盛なり

今回の戰鬪にて重大ならざる損害を以て多少の効果を收め得たるは偏に　大元帥陛下の御威稜に依るものにして一同ハ感激ゝ堪ゆざる所なり

◎優詔上村艦隊に下る

今十五日上村司令長官へ左の優渥なる勅語を賜はる

第二艦隊は萬難を排し朝鮮海峽遮斷の任に衝り終に大に浦汐方面の敵艦隊を擊破し其の一艦を沈め偉効を奏せり　朕深く將校下士卒の勤勞武勇を嘉尚す爾等倍々奮勵して前途の大成を期せよ

◎軍艦旗を撤す

十五日芝罘發電報に曰くツエザレウヰッチ及び驅逐艦三隻の軍艦旗は十五日獨逸總官の面前にて引き下されたり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
松陽新報社

二、六、0
181

敵艦隊の芝罘出港

東京電報（十五日發）

◎露艦捕獲後報

東郷聯合艦隊司令長官報告

芝罘に遁げたる敵の駆逐艦レシーテリヌイの捕獲に關し藤本第一駆逐隊司令の報告左の如し

同官は朝汐、霞の二艦を率ゐ敵艦隊を捜索巡航中十日夜敵艦の西航するを認め之れを追撃したるも終に其の踪跡を失へり翌十日捜索結果敵艦の芝罘逃走せるを知り附近領海外にありて其れ出港を監守し居りたるも終に武装を解きたるレシーテリヌイ山表らざるを認め同夜同港に入り偵察を遂げたるに敵艦はレシーテリヌイ一隻のみならず同港に於て石炭を搭載せし事を確めの事實なく且つ乘員は皆な乘組み居るのみ

翌十二日午前三時朝汐、霞は寺島中尉に下士卒十名を附して敵艦に赴かしめ敵艦長我は彼れを追躡し来り監守し居たるも出港せざるを以し今より一時間以内に出港するか又は降服せざれば我意の如く處分すべしと告げしめたる彼れは種々の口實を設け從にざるのみならず我將士に對し暴行を加へ皆海中に飛び入り其の際艦全部を自ら爆發し去れり依て直ちに之れを捕獲し午前五時十五分之れを率ゐ出港せり捕獲艦と共に捕虜一名を連れ還る

◎佛艦の怪行動

十五日上海發電報に曰くアスコリット乘組士官は昨十四日佛國旗艦モンカーム號を訪ひ他の露艦は上海近海にある筈なれば同旗艦の無線電信を借りて通信せん事を求めたるに佛國軍艦は之を許可せりと

◎ノーウ井ツクか

仝電に曰くゲーツック號の齎らせる報告に依れば十四日長崎上海間にて一本檣二本煙突の露艦東南に航行するを見たり多分ノーウ井ヲクならんと

◎道臺の出港請求

仝電に曰く上海道臺よりアスコリットに對し十日間以内に出港を命じたり併し造船技師は同艦の修繕は一ケ月半を要すべしと云ひ居れりと

◎遁走露艦と露清交渉

十五日北京電報に曰く芝罘に於ける日露駆逐艦問題、上海露艦處分に付しては目下露清兩國間にて交渉中なり

◎獨逸政府の命令

十五日伯林電報に曰く伯林政府より青島知事に對し左の命令を傳へたり

遁走せる露艦甲航海に堪ふるものは即時港内を退却せしめよ損傷を受けたるものは成るべく速に修理を加へしめよ併し戰鬪力を恢復するに至らしめざる樣監督すべし

發行人兼印刷人 原豊次郎　編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

東京電報（十三日午前九時以後發）

◎露艇二隻坐礁 芝 發海軍省着電ゟ曰く威海衛を經て十三日午前四時芝罘へ入港せる英國汽船アレキ號船長の齎らせる情報に依れば**露國水雷艇二隻は**威**海衛山東角の間に於て坐礁し乘組員の内六十名は英國水雷艇に救助**せられ英國官憲は便船次第彼等を本國へ送る筈なり尤も坐礁せし艇體の成行に就ては未だ確報を得すと云ふ

◎上海遁入の露艦 十二日發上海發電報に曰く上海に遁れ入りたる露艦は**グコドボイ**ゟして吳淞にあるは**アスコリッ**ドなり尚外に戰艦四隻沖合に見ゆつゝあるも露艦なりや不明なり グロドガイは三百十二噸の驅逐艦

◎アスコリットの損傷 仝電に曰くアスコリットは右舷八呎振ち切られ彈丸艦側を貫通し尚右舷に大なる彈痕ありマスト五本皆甲板に倒れ中尉一名卒十二名戰死し五十名負傷せり

◎グロトボイ 仝電ゟ曰くグロトボイは水線上の塗り概ね剝け水兵亦甚しく疲勞し居れり

◎巡洋艦ヂアナ 仝電ゟ曰くドアナは青島に入らんとし日本定朝船は其附近の航行を禁せらるセイトウの地點詳ならざれども多分朝鮮黃海道西岸の青嶋なるべし

◎遼陽の新防禦 十三日倫敦電報ゟ曰くルーター通信員の十一日附電報ゟ依れば**露軍は遼陽の正面にて會戰を挑むの準備ある摸樣ありて目下新防禦工事を起し居れり**

◎皇子降誕 仝電に曰く露國皇后は皇子降誕ありたり

◎ラッコ獵協約 十三日伯林電報に曰く露英米三國は日露戰爭中ベーリング海峽のラッコ獵に關する協約に調印せり

發行人兼印刷人 原 豐次郎 編輯人 吉田 美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
所 松陽新報社

明治三十七年八月十二日

松陽新報第四號外

東京電報（十二日發）

◎海戰公報

海軍省着電

今朝までに到達せる諸報告を綜合するに旅順口を脱出せる敵艦隊は圓島の南方に於て我艦隊の攻撃を受け終に潰走し夜に入りて巡洋艦アスコルド、ノーウキック外一隻及び驅逐艦一隻は十一日夕刻膠州灣に逃込み他の驅逐艦一隻は芝罘に逃れたり敵の戰闘艦五隻巡洋艦一隻（デアナならん）病院船一隻驅逐艦數隻は十一日未明より正午過に至る間に於て個々に港内に逃れ歸れるものゝ如し旅順我艦隊には損害無きもの、如し

◎河村伯逝去

海軍中將河村純義伯は今曉逝去せり

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美尋
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

184

明治三十七年八月十三日

松陽新報第壹號外

東京電報（十二日發）

◎十日海戰公報（午後五時三十分發急至報）

十二日東郷艦隊司令長官報告

聯合艦隊は十日敵艦隊旅順口を脱出して南下せんとするを禹岩附近に邀撃し續いて之を東方追撃し午後一時より日沒過ぎ迄激戰して敵に多大の損害を與へたり此戰鬪の後期に於て敵の砲火大に衰へ陣形は全く潰亂して各艦茲に分裂しアスコリット、ノーウ并ック驅逐艦數隻は南方に逃航し其他の諸艦は各自旅順口に向ひ我驅逐隊水雷艇隊に追尾襲撃せられ更に少からざる損害を受けたるもの〻如くツエザレウイッチは其の救命浮標及び屬具等の戰場に浮流せるに徵すれば或は轟沈せられたるならん驅逐隊水雷艇隊襲撃の結果に就ては未だ詳細の報告に接せず右アスコッド、ノーウキック、ツエザレウキッチ、バルラタの外は昨朝旅順口に遁入したるが如し我戰隊の諸艦には大なる損害なく死傷は全隊を通じて將校以下約百七十名なり

◎優詔東郷艦隊に下る

本日聯合艦隊司令長官に對し左の通り優渥なる勅語を賜はる

聯合艦隊は敵艦隊の主力を旅順口沖に挾撃し大に之れを破り多大の損害を與へたり朕深く其武勇を嘉賞す

◎露艦捕獲の模樣

十二日芝罘發電報に曰く本日午前日本水雷艇は當港に出で來り燈臺下に碇泊し居たるレシテレヌイに近接し日本艇長は通辨一名と露艦に抵り同艦長と一時間餘交渉の末激論となり露艦長は亂暴にも水兵と協力し艇長及び通辨を海中に投げ込み露艦は自ら爆發したるを以て日本水雷艇之れを捕獲し港外に曳き出でたり

◎敵艦又遁來る

同電に曰く十二日午前八時三十分敵驅逐艦らしきもの二隻入港し我朝汐、霞の二艦之れを追撃し來る

◎二敵艦の損害

同電に曰く十日の海戰に於て敵の旗艦ペレスウ并ットは檣を盡く失ひセバストポリは進退の自由を失へたり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

185

明治三十七年八月十二日 松陽新報第貳號外

東京電報（十二日發）

十一日發芝罘電報に曰く敵の驅逐艦レシテヌルイは我艦隊の砲擊を受け遂に一方の血路を開き遁逃し全速力を以芝罘に航走し來たるが我驅逐艦五隻追擊し來たりしも及ばずして港内に入りたるを以て如何ともする能はず遺憾千万なりき

◎獨船の怪擧動　全電に曰く獨逸軍艦ビスマルク號の小蒸氣船二隻遁來せる露國驅逐艦レシテルヌイとの間を頻りに往來し居れりと

◎中立勵行の請求　全電に曰く水野當港領事は清國道臺を對し敵艦遁入に付て中立勵行の請求をなせりと

◎遁走露艦の解武　全電に曰く敵の驅逐艦レシテルヌイは遂に芝罘にて武裝を解く事に決したり

◎逸出の目的　全電に曰く旅順を逸出したる敵艦隊の目的は浦鹽艦隊に合するにありしならんと傳ふ

◎旅順艦隊の潰裂に就て　全電に曰く昨朝（十日）我軍は旅順背面より港内の敵艦に對し砲擊を加へたるが爲め敵艦隊は遂に逸出を計り港外に出たれば我艦隊直に總攻擊を加へたる結果敵艦隊は遂に敵する能はすして四分五裂するに至りたるおもんと

◎敵艦逃込み　全電に曰く露國驅逐艦二隻は登州灣に逃げ込みたりと

◎旅順の皇族遁る　全電に曰く當港へ逃げ來れりレシテルヌイ艦中には將校の妻女らしき婦人三名の外二三名の皇族乘り居れるが如し

◎バヤーン損傷　十一日上海發電報に曰く旅順を逸出せし敵艦隊は戰鬪艦六隻裝甲巡洋艦四隻及び驅逐隊より成りしが巡洋艦バヤーンは沈置水雷に觸れて旅順に逃げ歸りドックに入れりと

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治三十七年八月十二日

松陽新報第壹號外

東京電報（十一日午后八時以後發）

◎敵艦四散す　確聞する所によれば昨日（十日）逸出せし敵艦は旅順と威海衛との中間に於て我艦隊と衝突し激戰多時の後敵艦は四方に逸散し我艦隊は又各方面に向け之を追擊しつゝあり尚今朝（十二）未明敵の戰鬪艦二隻水雷艇四隻は戰鬪力を失ひて旅順に逃入りたるものゝ如し其他の狀況は尚不明なり

◎巴艦隊の發航　十一日發伯林電報に曰くはバルチック艦隊は八月十六日を以て出發の事に決しロジエストウエンスキー中將司令長官に補せらる

◎獨帝の弔電　全電に曰く山口大將薨去し就て獨逸皇帝より弔電を贈らせらる

◎ラツサ占領と露國　〃電　曰く歐洲各國は英國、西藏首府ラツサ占領をもつて露國に取つて大打擊と見做せり

◎露探捕はる　露軍のため使用せらるゝ支那人我戰線内に入り來りて我軍の行動を探り之を露軍に密報せんとするものあり此程我軍より其内十餘名を捕らへたり

◎土政府の承諾　十一日倫電報に曰く土耳古政府は露國義勇艦隊濠船のダーダネルス海峽通過を許容せりと

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

187

松陽新報號外

東京電報（十一日發）

◉海戰公報

大連灣方面より來れる諸報告を綜合するに旅順口の敵艦隊は昨十日早朝脱出を試み我聯合艦隊と衝突して日沒迄彼我艦隊間に激戰あり夜に入り驅逐艦は敵艦隊を襲撃せるもの〻如く又今朝接手せる某望樓よりの電報によればレトウイザンとポベーダ型一隻は今十一日未明旅順に逃飯りつ〻ありしものの〻如し

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

二二八

188

東京電報（十一日發）

芝罘電報に曰く十日旅順港外に於て**彼我大衝突**ありたりとの說あり

十日海戰說

倫敦電報に曰く英國ホールスセンの滊船は日本行貨物の積出を中止せり

貨物積出中止

倫敦電報に曰く旅順軍司令官ステッセル中將は斷然空發を節約し日本軍の突擊を利用し着彈距離に接近せしめ**機關砲彈を浴ぜて損害を大ならしめん**との訓示を發したり

ス中將の訓示

十日函館發電に曰く露艦に擊沈されたる**ジサイ丸フクジウ丸ホクセイ丸クボ丸**獨逸滊船**テア號**の乘組員六十餘名獨逸滊船ジーマニカス號にて浦汐斯德より昨九日夜室蘭に入港せり

遭難者歸來

奉天將軍の部下ジョタイヘイダンレン等は遼東の子弟を率ゐ馬賊で團結して**義軍を起し機を見て露兵に敵對せん**と企て居れり

遼東の義軍

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

東京電報（十日午後九時以後發）

◎未曾有の砲聲

十日發上海電報に曰く威海衛及芝罘よりの電報によれば八日旅順に於て海陸大激戰あり開戰以來未曾有の激烈なる砲聲聞え且つ濃厚なる煙引續き騰れり

◎旅順背面戰敵報

九日發上海電報に曰く旅順陸戰に關しステッセル中將の報告左の如し

七月二十三日二十四日に於て敵（日本軍）は續て二回の砲擊をなせしが一一回共撃退されたり敵の砲火は猛烈なりしも我損害は微弱なり

二十六日敵は終日砲擊せり敵は我前衛の戰線より亘りて數回の突擊を試みしも皆多大の損害を破りて撃退され我損害は負傷將校八名下士卒五百名なり

二十七日敵の猛烈なる突擊をなせしも大損害を被りて撃退されたり我損害は將校戰死七名負傷十名下士卒の死傷七百名なり

二十八日我軍はダセンホウ陣地を棄てコザンに退却せり二十六日より二十八日に亘る我全損害は將校四十名下士卒千五百名なり補虜の言に依れば敵の損害は一萬に達せりと敵は勢力竭きて我の大砲及び彈藥縱列を以て退却するに際し何等の防害を試みざりき日本軍は戰場に屍體を遺棄せり我醫官は敵の負傷者の治療に從事せり

三十一日敵の非常なる大部隊は我コザの陣地攻擊の準備し居る事明瞭となりたるを以て第四師團は一部は砲壘掩護他の一部は砲壘線の外三ウエルスト（我約三十丁）の距離まで退却すべき命令を受けたり我軍の退却は砲兵掩護の下に秩序整然として行はれたり我砲兵は正確なる砲擊を以て敵の前進を阻めたり我損害は非常にして敵の損害は多大なり我軍は士氣旺盛且つ極めて壯健なり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治廿七年八月十日

松陽新報第參號外

東京電報（十日發）

◎亞總督の海戰公報

ロイテル發電報によれば七日附亞總督の電奏左の如し

七日旅順より接したる電報に依ればバヤーン、アスコリッド、パルラタ、ノーヴイツク及び砲艦二、三隻は七月二十六日敵陣地を砲擊する爲め旅順口より出港したり我艦隊は敵艦鎭遠、千代田、嚴島、松島外二巡洋艦及び水雷艇三十隻の攻擊を受けたりバヤーンより發したる八吋彈

嚴島の艦尾に命中し同艦をして行動を爲す能はざらしめたり是に於て日本艦隊は總て外海に出航したり同時に**千代田**は沈設水雷にて損せられ艦首を低うして大連灣方面に出走せり又日本砲艦一隻も我二十二號砲臺より發したる砲彈にて被害せり

又日本軍は陸上總攻擊を爲したるを以てバヤーン、レトヴイザン、パルラタ、アスコリッド、ノーヴイク、グレミヤシチー、ヲトワジヌイ、ギリヤーク及び水雷艇十二隻はコッシンスキー少將指揮の許にステッセル將軍の請求に應じ二十七日出でゝ露軍の右翼を援助したり右諸艦は掃海船を先頭と爲し龍王洞方向に進み午後三時迄に日本陣地を砲擊せり歸路掃海船一隻の下に敷設水雷爆發したり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二二七
191

東京電報 （十日發）

◎露軍退却準備

芝罘發電報に曰く遼陽の人心大に沮喪し食糧の一部を鐵嶺に後送中なり多分退却の準備ならん

◎旅順火災

仝電 曰く旅順市街に數日前盛なる火焰を見る曰く軍の砲火に依り火災を起せしものならん

◎韓皇其他の寄附

京城電報に曰く我出征軍人遺族の爲め朝鮮皇帝より五千圓皇太子より三千圓其他皇族より七千圓を我恤兵部に寄贈せられたり

◎露兵擊退後報

仝電に曰く元山よりの報に依れば八日午後一時敵候の文坪里より海岸に沿ひ元山の北約十五町の處に現はれしも我兵に擊退され軍馬一頭を棄て退却せり又本街道よりも午後三時頃十余騎元山の北二十五町に來りしも是亦擊退され之に續ける二百余騎も共に退却せり又九日午前八時我兵進んで揚日洞に據れる敵約百德原附近に據れる敵約百の機關砲二門を有するものと砲火を交へ之れを擊退せり我軍損傷なし尙ほ進んで偵察中あり

發行人兼印刷人 原豐次郎 編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

二三七

192

明治卅七年八月十日

松陽新報第壹號外

東京電報

（九日午後十時以後發）

◎旅順沖の砲聲　芝罘發電報に曰く七日夜旅順沖にて非常の砲聲を聞けりとダルニーより歸れる者語る

◎旅順陥落期　仝電に曰く旅順より來れる露人の曰く來る十八日頃には旅順陥落すべし

◎砲聲絶えず　仝電に曰く去る廿五日以來旅順にて日々砲聲絶ゆる時なし

◎旅順の職工遁去　同電に曰く旅順船渠の歐人職工の多數は同地を引揚げ來れり露の露艦修繕の見込なし

◎〇〇〇占領　仝電に曰く八月一日日本軍の一部は旅順市街の東北八清里なる〇〇〇を占領せり

◎我軍大損害說　ロイテル電報に曰く五日旅順陸上にて激戰ありロ軍は大損害を受け戰死のみにても一萬人露軍は死傷約一千を出せり又スラッセル司令官の報告に依れば二十六日より三日間日本の攻擊軍は多大の損害を受けて輕退せり露軍は將校四十名下士卒一千五百名の死傷ありと露都より報あり（此報敵軍の報告なれば固より信じ難し）

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美穂
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

三三七
193

明治三十七年八月十九日

松陽新報第參號外

東京電報（九日發）

◎露兵元山を襲ふ　八日午後九時元山發電報に曰く露兵二中隊元山の北方約一里の處に進撃し來り目下我哨兵と對戰中なり委細後電（至急電報）

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報

194
二二二

東京電報

八日上海發電報に曰く○○の○○○は

●○○○北進 蓋平に着し遼陽攻擊の爲め北方に向ふと

全電ゝ曰く我軍の右翼は鳩灣の西

●○○○占領 北○○○○に近附き○○○を占領せり

八日芝罘發電報に曰く今朝來旅順より遁れ來りし露國人百人支那人百人あり彼等の談に依るに昨今我軍は餘程敵と接近し（以下五十四字抹削）

●旅順背面の兩軍

●韓國新內閣

八日京城發電報に曰く陳成完は今明日中ゝ入城し新內閣の組織成るべし

●露兵益南下 大に南下の策を講じつゝあり

全電に曰はく露軍は船舶ゝて陸兵を新浦附近に集中し

●南下露兵

全電に曰く永興に着せし敵騎四百の內昨七日八十餘騎は洪原地方を斥候しつゝ南下せしが爲沿道の韓人は非常に周到なる注意と警戒とをなせり

●公使召還說

同電ゝ曰く各國駐紮の韓國公使を至急召還せらるべしとの說あり

●英船捕獲確定

八日倫敦發電報ゝ曰く浦汐斯德捕獲審檢所は英船ナイトコンマンダー號及び戒貨の捕獲を正當とし其擊沈を是認せり

●協生號の抗議

八日門司發電報に曰く協生號船長は露艦の不法に對し抗議の手續をなす爲め芝罘より上海ゝ赴けりと

●小泉少將

全電に曰く蓋平にて負傷せし第○○○旅團長小泉少將は傷部全癒して軍務に就けりと

●蠻行艦隊又來らん

浦塩艦隊は歸港後總ての準備をなし二週間目に出航するを常とするを以て今や出航準備中なれば又もや我近海に遊弋せんとの說あり

●遼河口の水雷

八日北京發電報に曰く遼河口にて取除きたる水雷二十餘ゝ上れり

●露兵困らん

全電に曰く露軍は遼西中立地域ゝ竄入し馬賊の爲め非常の困苦に遭遇する事は豫言し得べしと

●ハルビン集中

全電に曰く目下ハルビンゝは多數の露兵集中し居る模樣なりと

●營口近情

全電に曰く營口は我軍の占領と同時に活氣を帶ひ來り日本軍は驚くべき同化力を以て支那人を支配しつゝあり

發行人兼印刷人 原豐次郎 編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

明治卅七年八月九日

（明治三十四年十一月五日第三郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（八日午後十時以後發電）

◎遼陽方面の敵數　遼陽並に鞍山店附近に亘りて駐屯する敵の兵力は俘虜下士の言に依れば十六個師團を下らず尤も右各師團は全部充實せるものにあらず或は騎兵の一部砲兵の一部等を混ぜるものなりと

◎退却露軍　海城にありし敵の主力は鞍山店を經て遼陽街道を北進したるが尚騎兵若干を鞍山店に駐めて我北進軍を監視するものゝ如しと

◎旅順の罪人解放　八日上海發電報に曰く旅順警察部にては五日罪人二百名を釋放せりと

◎黑鳩退却せんか　仝電報に曰くクロパトキンは遼陽に三個師團の兵を止めてハルビンに退却せんとするものゝ如しと

◎露軍の危急　七日伯林發電報に曰く當地軍人社會にては一般に東亞に於ける露軍の位置は最大危機に瀕せりとなせり

◎占領地の鐵道　八日長崎發電報に曰く占領地の鐵道は最早整理其緒に就きダルニー驛長には飯田義一任命せられたり

◎益田電報（八日發）

◎笹川法學士講話　本日午後八時より當町小學校に於て笹川松陽主筆の戰時講話會を開く聽衆百七十餘名

發行人兼印刷人　原豐永郎　編輯人　吉田美朝

島根縣松江市殿町四十三番地

發行所　松陽新報社

196 二二六

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年八月八日
松陽新報第貳號外

東京電報（八日發）

七日芝罘發電に曰く支那人の談に依れば日

◎我軍の新占領線

本軍は二十九日陳家屯三十一日ケウハンシ曲家屯胡家屯水師營に亘る線を占領し敵は三里橋に退却せり

◎敵將自殺　前項支那人の談より依れば或る將官は三十一日毒を仰いで自殺せりとの噂ありと

◎旅順の敵情　芝罘發電に曰く前項支那人の談に依れば旅順の砲彈は追々缺乏を告げ砲彈新造の試驗は失敗に終りたり▲旅順方面にて敵は晝夜の別なく滿車及び車にて負傷者を運搬し居れり

◎旅順の殘兵　芝罘發電に曰く露兵の談に依れば露軍は近頃約一万人を失ひ今は唯一万人を殘せるのみと

◎北韓の露兵　七日元山發電に曰く敵約四百五日永興に着す敵は稍永久的駐屯を爲すものゝ如く尙若干の後續部隊あるものゝ如しと

◎特許權取消照會　七日京城發電より曰く林公使は昨日韓廷より向け速かに農鑛會社より與しへ特許權を取消さん事を照會せり

◎ステツセル自殺說と降伏の覺悟　七日芝罘發電に曰くジャンク乘組員の談より依れば旅順司令官ステツセル中將は三日朝自殺せり露軍は降伏の覺悟にて日本軍より攻擊さるゝ迄應戰せずと云ふ

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二三四
197

東京電報（七日發）

◎遼陽集中と激戰　七日發北京電報に曰く營口よりの報に依ばれ露軍の大部は遼陽に集中し鞍山站には約五万の兵を配置して防禦ぜるが昨六日來同方面にて激戰中なり

◎海城戰敵の死傷　七日倫敦電報に曰く露都よりの報に依れば海城附近の戰鬪にて露軍の死傷少くも四万を下らざるべしと

◎義勇艦東航　七日倫敦電報に曰く露國義勇艦隊汽船ヒツーターースバーク號は亞丁沖（紅海口）を東航せり

◎林公使の注告　六日京城發電に曰く林公使は公文を以て京城及平城に少數の兵を置くの外總て韓兵を撤退して軍備を縮少すべき事及び本邦より貸附金をなし韓國の財政整理をなすべき事を注告的に申込めりと

發行人兼印刷人　原　豊次郎　編輯人　吉田　美藏
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　新陽報社

199

二三四

東京電報（七日發）

◎敵艦擊退公報

東郷司令長官報告

五日午後四時頃**驅逐艦曙**（艦長少佐九積正雄）**朧**（艦長少佐武村繁造）の二隻は敵情偵察の爲め旅順港外に至りしに敵の**驅逐艦十四隻**急に我れに向つて**突進**し來り彈着距離に入る頃其の**四隻**は南西に**七隻**は西南に他の**三隻**は鮮生角の方向に進路を取り**我れを包圍**せんとするもの〻如く**我二艦**は四時四十分約五千メートルの距離より敵と**猛烈なる砲火を交換**しつ〻進路を北東に取り鮮生角の方向に進みたる敵驅逐艦三隻の前面に出で之れを**壓迫猛擊**したるに敵は直に艦首を轉じて**港口に遁走**す依つて之れを**追擊**し午後五時過ぎに至れり此時我驅逐艦**電**（艦長篠原利七）も又來り合して三艦の一隊をなし更に南方に分離せる敵の**驅逐艦十一隻**に近附き追りしが是又港口に向ひたるを以て戰鬪を止めたり

傷なし敵の驅逐艦

損害に至りては明からずと雖も**我三艦**は午後六時頃悉く**港内に入れり**敵の**攻擊して其活動の目的を達せしめざりし勇猛の動作は全軍の嘆美して措かざる處なり**

訂正　本日發行露人の敗戰觀以下四項の東電を記せし號外を第一とせしは第二の誤植に付訂正す

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治卅七年八月七日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（七日發）

◎露人の敗戰觀　ロイテル電報に曰く露都にてはクロパトキンの諸報告を以て尙ほ兵力の不足を意味するものとなせり

◎アラビヤ號釋放　ロイテル電報に曰く去月廿二日横濱を去る百海里の處にて浦汐艦隊の爲めに捕獲せられ浦鹽へ回附せられたる獨逸滊船アラビヤ號は麥粉鐵道材料共に沒收され浦鹽にて釋放されたり

◎滊船會社の警戒　ロイテル電報に曰くピーオー會社は戰時禁制品解釋の不明確なる爲め上海以東の乘客及び載貨を受理せざるべき旨廣告せり

◎ダ海峽通過の挨拶　ロイテル發電報に曰く露國は土耳其に通告して一隻の義勇艦隊滊船に石炭を滿載しダーダネルスを通行すべしと云へり尙ほ右滊船は其の商船たる性質を保持すべき旨附言せり

◎露兵又々南下　京城發電報に曰く元山よりの來電に依れば露兵百六十騎五日午前永興に到着せり

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二三円

200

東京電報（六日發）

◎○○山占領　五日上海發電報に曰く日本軍は二十八日○○山を占領し○○の死命を制せり我軍は本日を期し敵に降伏を勸む彼等死生の決明日にあり

◎武器返還の請求　五日發上海電報に曰く露國領事はマンジュル號の小銃返還方を上海道臺に申込めり

◎旅順口の火焔　五日長崎電發報に曰く某船の芝罘より齎らす處に依れば一日以來旅順の海陸砲聲止む時なく三日舊市街の方面に當りて一帶の火焔揚りしは只事ならずとて芝罘にある露國人の心配一方ならずと

◎遼陽驛　全報に依れば遼陽の停車場内は車輛機關車缺乏し一日二回奉天行列車の通ずるのみなりと

◎捕獲船と軍用金　五日門司發電報に曰く旅順を逸走して我艦隊に捕へられたる非戰鬪員乘組の捕獲船は都合五隻にて今尚某地にあり該船中には軍用金二億ルーブル（一億五千万圓）あるを發見し之を捕獲せり

◎旅順降伏の兆　五日門司發電報に曰はく戚地より歸來せし外國人の談に依れば旅順にては二十八日より高壯なる建築物及び必要なき火藥庫兵器庫等を燒拂ひつゝありて黑煙天に漲り降伏の前兆を示し居れり

◎馬賊の襲擊　五日山海關發電報に曰く新民屯地方にて露軍の徵發せし馬匹は二十七日馬賊の一隊に襲擊され三百餘頭を分捕せられたり

◎遼陽の敵情　同電に曰く遼陽にては負傷兵續々到着の爲め露軍の士氣大に沮喪せり又寧湖に埋葬せる死者のみにても已に七千に達す

發行人兼印刷人　原豐永郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

二三之
201

明治卅七年八月七日
（第二十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（六日發）

◎海城占領戰公報

奥第二軍司令官報告

一日午前四時軍は大石橋附近の陣地線を發して前進す第二縱隊は敵の抗抵を受くるなく九時頃ナンセン山附近の陣地を占領せり第一縱隊は午後一時當面の敵を攻擊し柳家堡子附近の高地を占領せり第三縱隊は五時キンサン嶺附近高地を占領し前日來敵の占領せる土台子東方高地に向ひ砲兵を以て偵察戰を試みしも敵は退却せるものゝ如し依て直ち前進し九時半頃タサンホ西北高地附近を占領せり此時敵の砲兵約二中隊コロコフ東方高地に現はれ第二縱隊及び第三縱隊の步兵に向ひ盛に射擊す暫くにして第二縱隊の砲兵は鄧家溝東北高地に第三縱隊の砲兵は温家溝附近に放列を布き之れに應戰す十一時半別に敵の砲兵一中隊カケウカ南端に現はれ我第三縱隊の步兵に向ひ射擊せしが何れも正午過ぎ陣地を撤し海城方面に退却せり四縱隊は途中少數の步騎兵を驅逐して十時頃三縱隊の左翼より張家屯ゟ亘る線に達せるも其の前面ゟは騎砲兵約一中隊を有する敵の騎兵五六中隊缸瓦塞附近にありて我步兵に向ひ若干の射擊をなせしが正午頃海城方向に退却せり五縱隊は柳家堡子レン三トウゟある敵の步騎兵を擊退して該地を占領せり我れに對せし敵の兵力は總計約一師團にて主力は午前十時前後に於てトウヨウ山西麓を經て海城方向に退却せり軍は斯の如く大なる敵の抵抗を受くるなく二日ハリカの線に前進し翌三日正午頃海城より牛莊に亘る線を占領せり此日海城より東北に退却の敵は約二師團ありき

◎旅順の窮狀

五日芝罘發電報に曰く旅順より歸着せし支那人の談ゟれば露國士官は戰鬪に忙はしき爲め食事の暇なくして黑パンを喫し居り兵卒中には戰爭を恐れ自ら傷きて入院するものあり農作物は日本兵の身を隱して侵入するを防ぐ爲め悉く苅取られたり

◎占領後の營口

五日天津發電報ゟ曰く營口の秩序は着々整理せられたるも居留地の商業は未だ復舊せず佛國領事は元露國民政廳にあり其門には日本兵立番せり

◎析木城戰露國公報

六日倫敦發電報に曰く析木城戰鬪に關する露國の公報ゟ依れば此戰に於て最初露軍優勢なりしも結局ゟ日本軍はしつゝある露軍の側背に迫り其砲兵を全然擊攘するを得たるなりと

發行人兼印刷人 原豊次郎 編輯人 吉田
島根縣松江市殿町國十三番地
所 石 松陽新報社

一三二
202

東京電報（五日發）

◎○山占領　四日上海發電報に曰く一二十六日我軍は○山を占領し露軍の死傷五千に及べりと

◎某方面の戰報　四日上海發電に曰く日本軍は○○の東北五露里の地點を占領し砲彈は新市街に達ぜり又○○○近くの諸砲臺を略し新市街より五清里の處にて輕氣球にて偵察を試むと

◎露軍引揚の報告　五日倫敦發電に曰く露都よりの報に依れば クロパトキンは露軍は大損害を受けて既に主陣地に引揚けたれば兵力優勢の引受け能く之を維持し得べき見込ある旨を報告せり

◎敵軍引揚と日射病　仝電に曰くクロパトキンは露軍の大部は鞍山店街道を經て海城を引揚げたり又暑氣甚しく軍中日射病に苦む者頗る多き旨を電報せり

◎亞總督に赴きたり　仝電に曰くアレキセーフはハルビン同地より更に浦沙に赴かんとす

◎獨逸の輿論　五日伯林發電報に曰く獨逸新聞界は浦潮艦隊が獨逸汽船アラ號を撃沈せしを憤り尤も嚴重なる抗議を露國に申込まん事を要請せり

◎露國の虎疫　五日發伯林電報に曰く露西亞南部にては目下コレラ病流行し日々惨毒を極め居ると云ふ

◎旅順の砲聲　五日門司發電報に曰く本日歸着せる船員の談に依れば旅順方面は一日以來毎日砲聲絶えずと云ふ

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治廿七年八月五日

松陽新報第貳號外

東京電報（四日發）

●退却の敵　大石橋の敗兵の一部は牛莊紅瓦寨方面に退却し我を牽制しつゝ遼陽に退却したり

●旅順の避難者　芝罘電報に曰く三日以來旅順船渠の勞働者の芝罘に遁れ來るもの多し

●露艦又々武裝す　遼河上流にありたる露國砲艦は又々武裝してジヤンクを押へ居れり我砲艦水雷艇は潮流の爲め引返せり

●南下露兵　元山發電に曰く北靑に來りし敵は二日夜咸興に着し其數三百騎兵及び乘馬步兵にして多數の後續部隊ありと

發行人兼印刷人　原豐次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

一二二
204

明治卅七年八月五日
（明治三十四年十一月五日第三郵便物認可）

松陽新報第四號外

東京電報（五日發）

◎波艦隊急武裝 四日倫敦發電報に曰く極東に於ける露國の地位既に切迫の秋なれば拘らず露國政府は突然命を傳へバルチック艦隊の艤裝を急がしめたり

◎旅順陷落と媾和 同電に曰く露都にては一般に旅順陷落は直ちに露國政府を媾和談判の開始に至らしむること無しとなせり

◎船積困難 同電に曰く歐洲にては日本行貨物の船積困難なりと傳たり

◎黑鳩の希望 同電に曰くクロパトキンは其隊列を亂さず退却せん事を希望せるものゝ如しと信ぜらる

◎南下露兵と露艦 京城發電報に曰く三日露兵三百は砲一門を率ゐ成興に來り二十日定平に來れり又城津には軍艦（水雷艇か）八隻あり急に元山に向はんとするが如し

◎非戰員立退 四日芝罘發電報に曰く露艦に撃沈されたるヒプサン號乘組員來着せりその言によれば四五日前日本司令官は旅順の長官に宛て五日以内に非戰鬪員總てを立退かしむべしとの通知ありしが爲此遭難者も立退く事となりたるなり

◎楡樹林子樣子嶺戰鬪詳報

黑木第一軍司令官報告

軍の前面の敵は七月中旬以降漸次增加して**四個師團**に達し七月二十八日日以來右縱隊前面の敵は**活氣を帶び將に攻勢**を取らんとせり軍は斷然敵の準備定らざるに先立ち之を撃攘し其企圖を挫折するに決し急に三十日夜より運動を起し翌三十一日拂曉を期し敵を攻撃す

楡樹林方面は步兵約三大隊を老母嶺附近に配置し其他は二縱隊とあり前進し**右翼隊**は三十一日拂曉より敵の本陣地の前方二千メートルの高地にある敵の前進部隊を前面及び側面より攻撃し**激烈なる砲火**を交へたる後八時五十分之を**占領**しそれより敵の本陣地に對し戰鬪を繼續し左翼の進むを待てり此間敵**數回逆襲**せしも悉く之を撃退したり

左翼隊は邊嶺にて敵の**步兵約一聯隊**に出會し午前六時三十五分砲火を開始し激戰後之を**撃退**せり**左縱隊**より增援せし一枝隊は午前一時下馬塔を發し邊嶺に向ひ午前八時過チヨバイ嶺を占領せる**敵步兵約一大隊**を**撃退**追撃してヘンレイより退却中の**敵の縱隊**の側面に進出し先頭よく後尾に至る迄其の通過間二百乃至一千メートルの距離より**猛烈なる射撃**を爲し**大損害**を與へ**全く之を潰走**せしめたり爾後該枝隊は楡樹林附近に敵の右翼に前進せんとせしも**地形險惡**の爲め目的を達せずして夜を徹したり一日拂曉より楡樹林の敵は退却を始め**右翼隊**は直ちに前進を始し之を追撃し九時四十分**ラゴーリンを占領**せり次で**左翼隊**も其間方を占領し**增援枝隊**は其西方高地を**占領**せり

樣子嶺方面に向ひし**左縱隊**は三十一日早朝塔灣東北を**占領**し**砲兵團**は進入路の高地區豫定の如く進捗せず午前十一時に至り辛うじて陣地に着くを得たり但し其二中隊は未明金家堡子を**占領**せり**左縱隊**の左翼は其主力を以て卅一日拂曉マクウメンザ方向を攻撃を開始し其分遣隊は遠く敵の右側背に迂廻するため險難の山地を敵縱隊となりて前進せり敵は樣子嶺の鞍部及びその附近の高地に**砲兵四中隊**を現はし巧みに我砲兵を射撃したるが其一砲隊（砲四門）午前八時頃我砲兵の射撃により沈默せしめたるも塔灣北方高地の突角にあるものは能く塔灣方面を搜射せり**左翼の砲兵隊**は僅に二十門を使用し得るに過ぎざるのみならず且つ遠距離にて十分其威力を發揮する能はず是れが爲め**我正面攻撃は正午迄更に進捗せず迂廻隊は非常の困苦を冒して山谷を跋涉**し十一時頃チウジヤフーサ西方約三千メートルの高地線に達するを得たり

午後二時過より**右翼隊に屬する砲兵隊**は塔灣北方に對し搖射を行ひ步兵の一部は偵察の爲め前進せり此の結果塔灣西北二千メートル高地に潛みたる**敵砲忽ち猛射**を始め爾後兩翼隊の方面と共に激烈なる砲戰を開始し四時過右翼の步兵マクメンザ附近より**敵の砲火を冒して攻撃前進**に移り漸次樣子嶺に向へり彼我**小銃火戰は各方面に起り我砲兵は全力を盡し之を掩助せしも急峻なる斜面は著しく步兵の運動を困難**ならしめ且つ敵は頑強に交戰し遂に日沒に至るも未だ敵線を奪取するを得ず是れが爲め各隊は戰鬪隊形を以て夜を徹するの已むを得ざるに至れり

一日拂曉より左右兩翼方は再び攻撃を開始し午前七時より八時の間に於て**樣子嶺附近一帶の高地漸く我有に歸せり**敵死傷は未詳なるは各方面にて**一千以上**なるべし**我死傷約九百**敵兵力は楡樹林方面に在りしは第十軍團長**スルチエウスキー**の指揮する列砲兵第九師團の一旅團及第三十一、第三十五兩師團の主力・砲兵約四中隊樣子嶺方面は西伯利亞二軍團長ケルレルの指揮せる狙撃第三第六師團の兩部第九師團の一旅團及砲兵約四中隊あるか如し捕虜將校八名下士以下百四十九名鹵獲品砲二門小銃五六百挺天幕三四百携帶器六七百砲銃彈多數

三十一日午後敵の患者輸送者は赤十字旗を飜へし右縱隊に增援せら枝隊の正面に來り其遺棄したる傷者收容に着手せり依て我は射撃を止め特に之れを許せり戰鬪の兩日とも百度以上の炎熱加ふるに地形險峻なりしを以て各軍隊の運動殊に困難を極めたり

◎韓廷我要求を容る 確報に依れば韓廷は愈よ實行延期の條件にて我荒蕪地開墾の要求を容るゝ事となり其旨我林公使に回答し來り該問題は一先つ落着したり

發行人兼印刷人 原豐次郎 編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

明治卅七年八月五日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（四日發）

◎浦鹽艦隊蠻行の報告

ルーター電報に曰く在露都ルーター通信員發電に依れば露國皇帝はスクリドロッフ海軍中將より左の報告を接受せり

ゼツセン少將は露艦三隻を率ゐて日本東海岸に向け七月二十日サンガン海峽（此間ルーターの電文不明）艦隊は**岡島丸外二隻の帆船を擊沈**し室蘭沖にて會遇せし英船**カマフ號**停船を命じたり同船は戰時禁制品輸送ゝ從事せる嫌疑ありしも輸送中ゝあらざりし故釋放せざるを得ざりき又沿海買易船キルトユニオン丸に會したるも釋放せり艦隊は二十二日横濱を距る百海里の處にて獨逸滊船**アラビヤ號**を停船せり同船ゝは日本へ送付の爲め鐵道材料及び小麥多量を積載し居たるを以て浦潮ゝ送致せり二十三日英船**ナイト、コンマンダー號**會し發砲四回に及び停船せり船長所持せる不正式且つ不完全なる証書類並陳述ゝ依ゝ同船は機道材料三千五百乃至四千噸を日本へ輸送中なりしが同船は載炭料不足なり故引致すゝ能ゝず証書類を引取りたゝ上擊沈したり同日鹽ゲ滿載せる**日本帆船二隻も亦破壞せ**演船**チナン號**停船せしも禁制品なき故釋放せ二十四獨逸滊船**テア號を捕獲擊沈**せり艦隊は三十日正午頃津輕方面ゝ進みたゝ午後三時**高雄艦型巡洋艦と水雷艇三隻金剛型帆船水雷艇四隻並に濟遠型海防艦一隻**を見たり之等諸艦隊は我艦隊の遙か後方位置せしも五時退却せり我艦隊は何等の損害もなく亦擊沈拿捕の船舶にも人命の損害なし

◎英艦追はる

英艦オーシアン號（一万二千九百五十噸戰鬪艦）は威海衛附近にて國旗なき**大巡洋艦に追尾せられ**たるを以て英艦は之れを詰問したるゝ右の巡洋艦は**獨逸國旗を掲げ**たりと

◎北韓電信不通

京城發電報に曰く**元山咸興間電信不通**となれり**多分露兵來襲の期迫れるならん**

◎排日派捕はる

京城發電に曰く**露兵南下の嚮道者**は金純主ゝして之と應するキツエイシエ、リザイクワは我軍事警察に捕はれたり

◎露艦出現說

函館發電報に曰く**一本煙突の露船國旗を揚げ昨三日午前八時國後海峽を西北に航行せりとの報あり或は假裝軍艦の類**ならん

國後海峽は千島群島中國後島擇捉島の間なり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美穀

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

一三一

206

◎海城砲擊を砲擊中なりと

北京發電報ゝ曰く三日我軍は海城の敵

◎海城退却說

北京電報に曰く營口發電ゝ依れば一日我軍は海城街道の敵を追擊し敵は其夜海城を棄てゝ退却せりと

◎露艦出航

倫敦發電報ゝ曰く露國巡洋艦ドン號、ウラル號の二隻は紅海に向けポルチツクを出發せんとす

◎ケ中將陣歿の影響露都に大動搖を與へたり

倫敦發電報に曰くケルレル將軍の戰死は

◎露國の曖昧

倫敦電報ゝ曰く露國政府はマラツカ號搭載の戰時禁制品は英國政府所有品たる事を宣言したるが爲め釋放せし事並ゝ露國は敵國の戰時禁制品輸送防止の爲め軍艦派遣の意志を棄てざる事を証明したるも

義勇艦隊の資格と海峽問題とに就ては未た何等の言明する處なし

◎北韓露兵の南下

京城發電報ゝ曰く利原に現はれたる露兵二百は一日洪原（北胥成興の中央）に到着し尙南下の模樣なり

後續部隊も多數なるが如し

◎排日熱益熾

京城發電報に曰く韓國政府は勅令を擧じ貴族子弟に日本留學勸誘の通牒を發せしも

排日熱盛なる爲め應募者一人もなし

發行人兼印刷人　原豊次郎　編輯人　吉田美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

一二九

208

東京電報（二日發時間外電報）

◎ナ號擊沈事件

二日發ロイテル電報ニ曰ク ナイトコンマンダー號擊沈に關する英國の照會に對し在露英國大使は未だ露國政府より廻答を接受せざるも露國は右擊沈の結果に付き必ずスクリドロッフ提督に新訓令を與ふるならんと云ふ

◎ケルレルの死狀

二日發伯林電報に曰ク ケルレル中將は破裂彈に打たれて戰死せしなりと

◎獨逸の拒絶

二日發伯林電報に曰ク 露國政府はバルチック艦隊の爲めバルチック運河の通過の儀を密に請求せしも獨逸政府は之を拒絶せり

◎滿洲雨期と運搬力

二日佐世保發電報に曰ク 戰地よりの報に依れば滿洲地方は毎年八月中頃より雨期に入るを例とせしも本年は六月二十六日より七月九日迄降り續け最早雨期を經過せし故一時四散せ 牛馬車坐合し來り今や其運搬力は前に倍加せりと

◎旅順逸出の露人

二日發佐世保發電報ニ曰ク 旅順より逸出を企てし我艦隊の爲め捕はれたる露國人四名は昨一日長崎に來り佛國領事に引渡されたり

發行人兼印刷人 原 豐次郎 編輯人 吉田 美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發 所 松江 湯新報社

明治卅七年八月三日

松陽新報第貳號外

東京電報（三日發）

●ケ中將戰死報告 二日發ロイテル電報に曰くクロパトキンはケルレル中將の**樣子嶺に於て指揮中**破裂彈に打たれ戰死せし旨報告せり

●禁制品の抗議 二日ロイテル電報に曰く英國外務次官バーシー氏は下院に於て報告して曰く英國は露國が**食糧品を戰時禁制品**中に加へたるに對し抗議を申込みたりと

●露兵又々南下 二日元山發電報に曰く咸興よりの報によれば三十一日**敵騎百利原郡に現はれたり**

●營口出入許可 二日營口發電に曰く日本領事は本日內外人の營口出入を許可せり但し市外に往來する者は軍司令官の特許を要する旨告示せり（以上四項時間外電報）

●遼河の艦艇○隻は遼河上流に遡航せり 二日營口發電に曰く**水雷艇及び砲艦**

●海城の前途 仝電に曰く海城は今や第二軍大孤山上陸軍の壓迫を受け居れば結局戰爭を要せずして占領せらるべしとの說高し

●銀行開始 仝電に曰く正金銀行支店は今朝より開店せり稅關收入を取扱ふ筈なり

●第○○○聯隊死傷數 情報に據れば大石橋占領激戰に際し我第○○○聯隊附下士卒死傷總數は**四百十五名にして內戰死百五十餘名**ありと（一日發○○通信）

發行人兼印刷人 原豐次郎　編輯人 吉田美朝
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

209
一二九

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

松陽新報號外

東京電報（三日發）

●桙木城占領詳報

二日大本營着桙木城攻擊軍報告

軍の前面にある敵は紅窰領北方高地よりセウ三谷を經て三角山東方高地に亘たり**堅固なる防禦工事**をなし紅窰南方高地には砲兵肩墻を見る又老糎子附近には**約三大隊の敵兵**あり軍は此敵に對し去る七月三十日**主力**を以て大房身西方高地よりカ八フンコウ北方高地に亘る線を**左翼隊**を以て孤家堡子南方高地より永樂山西南方高地に亘る線を**占領**せり

三十一日拂曉軍は主力を以て三角山東方高地の敵に向ひ左翼隊を以てトウサイヨウジヨ溝北方高地の敵に向ひ攻擊を開始し**左翼隊**は午前八時頃東ヨウジユ溝東北方標高三百四十五米突以西一帶の敵陣地を**攻略**せり然るに二道溝方面にありては**敵益其兵力を增加し其砲兵は約二十一門**に增加せしも我左翼隊には新に來着せる一枝隊と協力し**猛烈なる砲戰**の後之を攻擊して午後三時頃終に之を北方に**擊退**せり

軍の**主力**は午前十時三十分頃太平嶺西方高地の敵陣地を**攻略**するを得たるもセウ三コク及び小房身東方高地にある敵砲兵より**猛烈なる射擊を受け前進を繼續する能はず其の後敵は漸次新鋭の兵力を增加**し午後五時半頃に至り**全線攻勢**に轉じ來れり我歩砲兵は直に之れを擊退し**敵に多大の損害を與へしも敵砲の猛射の爲め追擊する能はず**終に近く相接して夜を徹せり之れより先き我左翼隊は敵を擊退し其の退路に逼りしを以て敵は夜暗を利用し逐次其の陣地を撤して**海城方面に退却**せり

敵は數ヶ月を費して築造せる堅固なる防禦陣地に據り**特に速射砲を猛射し我砲兵を苦しめ大に攻擊に困難を感ぜしめたり**

我軍の**死傷約四百**にして敵は**死屍約百五十**を戰場に遺棄して退却せり我に對せし敵は**歩兵約二個師團砲兵約七中隊**なるが如く中將アレキセーフ（歩兵五師團長）之を統率せり**鹵獲品は野砲六門捕虜若干也此日炎熱酷しく正午屋外百二十度に昇る**

◎摩天嶺西麓方面占領詳報

黒木第一軍司令官報告

軍は楡樹林子及ひ樣子嶺附近を堅固に占領せる敵に對し三十一日曉拂より此兩方面を向ひ攻擊運動を開始せり

楡樹林子方面の攻擊運動は同日黃昏前まで豫定の如く前進し敵の兩翼を攻擊せしが**敵の兵力强大にして其の陣地堅固**なりしが爲め夜に至るも之を**擊攘するを得ず**依て翌一日未明再び攻擊を開始し正午漸く之を**擊退**して老寒嶺(楡樹林子の西一里半)に至るまで之を**追擊**せり

樣子嶺方面の攻擊も漸次成功し三十一日午後一時過ぎより塔灣及びマクーメンザ方面より共に歩兵の攻擊前進に移り黃昏前に於て**其の陣地の大部を奪取せしも敵の一部は最も頑强に抵抗し夜に入るも退却せず**斯くて攻擊團隊は戰鬪隊形を以て夜を徹し一日未明再び攻擊を開始し午前八時樣子嶺附近一帶の高地**全く我有に歸せり**

戰鬪の長く終結せざりしは左の諸件に歸因せり

一、地形嶮峻にして攻擊動作に不便なりし事

一、良好の砲兵陣地なく爲めに我砲兵の威力を發揚し得ざりし事

一、**百度以上の炎天**にして軍隊の勞苦著しかりし事

我に對せし敵の樣子嶺附近に在りしものは**狙擊歩兵二師團半、砲兵約四中隊**にして濠河沿方向に退却せり又楡樹林子附近にありしものは少なくも**一個師團**及ひ之に屬する砲兵にして其大部は安平方向に退却せり彼我の死傷取調中なり**鹵獲の野砲若干**あるも未だ確報なし

(右は本日の第三號外松樹帶占領の詳報にして細河沿占領軍の前進せしものなり)

◎敵將死す

倫敦電報に曰く露都よりの報に依れば**敵將ケルレル伯**(摩天嶺逆襲の敵將)**三十一日夜戰死せり**

發行人兼印刷人 原 豐次郎　編輯人 吉田 美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
松陽新報社

東京電報（發二日）

◎豆滿江架橋　一日京城發電に曰く露兵の豆滿江の架橋工事は最早六分通り竣工せり

◎電信架設　同電に曰く露兵は慶興より城津まで電信を架設せり

◎京義鐵道　仝電に曰く京義鐵道平壤以北の測量完了し既に工事受負人に引渡し濟みたり

◎北韓の露兵　一日京城發電に曰く目下露兵は慶興に二百鏡城に百三十あり道路改修に從事し使役は多數韓人を使役して日々長さ三里幅三間の道路を改修し已に慶興より吉州まで竣工せり

◎米國の宣言　一日ロイテル發電によれば米國政府半官的宣言を發して曰はく露國が中立國船舶擊沈につき如何なる法理を擔ぎ出すも米國は之を以て一切現時の國際公法に反するものとなすと

◎模範的攻擊　一日佐世保發電に曰く佛人が四十万噸の軍艦を以て三年を費さずんば難攻不落と唱ふる處に對する我軍の攻擊設備は既に間然する處なく歐洲の軍事通と雖も尚ほ夢想する能はざるものある由にて世界に對し戰術の好模範を示すに至るべしと

◎我三軍の活動　三十日より一日に亘り我第一軍第二軍大孤山上陸軍を通じて激烈なる戰鬪ありたり確報續々至るべし

◎病院船の照會　旅順の敵軍は其三隻の船舶を病院船とさんとて之れが承諾を我政府に求め來れり　我軍ダルニー占領の結果意外にも多數の小

◎意外の鹵獲多

蒸氣船を鹵獲　したれば爾後の便宜一方ならず云ふ

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

明治卅七年八月二日

松陽新報第參號外

東京電報（二日發）

◎松樹溝占領

我軍は三十日橋頭の西約四里松樹溝附近にて敵約二個師團を攻擊し三十一日全く此敵を擊攘して同地を占領せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　[illegible]
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

213

明治卅七年八月二日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報

（一日發時間外電報）

◎露都の陰謀の陰謀露見

三十日伯林發電報ニ曰ク露都に於て大仕掛けせり故内相プレーウエの暗殺ニ就ては露國宮廷ニては甚しく憂に沈み居れりと

◎獨露通商條約に就て

三十日伯林發電に曰ク獨露通商條約調印終れり之に對し獨逸新聞界は甚しく疑を挾めり

◎浦汐附近の日艦

日本軍艦らしきもの○隻浦汐斯德附近に現はれたりとの噂あり

◎仁川露艦船引揚の消息

一日門司發電ニ曰ク露ワリヤーク艦の引揚は八月中に成効の豫定なり又仁川沖に沈没せるスンガリー號は二十九日一旦浮上りしも誤て沈没軍艦コレーツに觸れ再ひ沈没せりと

◎滿洲警衛の照會

一日發上海發電に曰く北京政府は會辨大臣として趙治遷を派遣し東三省の警衛をなさしむる旨を照會せしも日本政府は未だ之を許さずと云ふ

◎廣西匪徒猖獗

一日發上海發電ニ曰ク廣西省凌州の匪徒は慶遠府を陷れ益猖獗なり

◎御供院廢止

一日京城發電ニ曰ク意御供院廢止の詔勅出づ之にて慶讃會社に與へし荒蕪地開墾特許も自然消滅となる

◎借欵反對

支那逐の噂旋にて高木文平の間に講結國印せる韓廷一千万圓の借欵に就ては排日派中反對上奏及び建白等出て此件は彼い荒蕪地問題よりは其餘更に甚しとて喧騒しつゝあり

◎要求撤回せず

荒蕪地開墾の件は韓國の内政改善を待て我に許すべしとなりたれば繼續問題として我要求は撤回せずと

發行人兼印刷人　原　喜次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

一三七号

214

明治卅七年八月一日

（明治三十四年十一月五日第三郵便物認可）

松陽新報第貳號外

東京電報（一日發）

◎廿四日夜襲の結果

三十一日大本營着東郷司令長官報告

其後の偵察に依れば二十四日夜鮮生角東灣に於て第十四艇隊砲艦及び艦載水雷艇等の協力襲撃したる敵の驅逐隊四隻の内一隻は煙突の上部を現はして沈没し居れり尚ほ一隻沈没せるものゝ如し

◎廿六日掃海隊の苦戰

三十一日大本營着東郷司令長官報告

海軍中佐廣瀨順太郎の指揮せる掃海隊は去る二十六日午前十一時過龍王塘附近にて掃海中一砲艦は敵の水雷を拘束して之を除去せんとする時掃海索推進器に搦みて進退の自由を失ひ浮流の爲め鮮生角の方向に流され敵の要塞及砲艦等より猛烈なる射撃を受けたるを以て廣瀨中佐は自ら他の砲艦を指揮して敵の砲火の下に兩艦を救助曳行する際敵の驅逐艦急行し來りて水雷を發射せしも幸に命中せず苦戰約一時間後漸く小平島方向に退避するを得たり此戰鬪中救助砲艦は敵彈二個を受け卒三名戰死し廣瀨中佐加村少尉外下士卒九名負傷せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝

發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

◎長江集中　香港來電に曰く英國は或る二國が長江に海軍根據地を獲んとするを以て其艦隊を長江に集中すべしと

◎捕獲船着烏　巴里電報に曰く浦潮艦隊が太平洋に於て捕獲せるアラビヤ號は浦潮斯德に到着せり

◎紅瓦塞の激戰　廿一日天津發電報に曰く山海關よりの報に依れば二十九日紅瓦寨虎樟屯に於て日露兩軍の間に激烈なる戰鬪あり日本軍は日暮敵の砲を沈默せしめ敵は大敗して北方に退却せり敵の死傷約五千ならん

◎桥木城占領　昨夜某所着電によれば我軍は三十三十一の兩日を以て桥木城を攻撃し終に之を占領せりと

◎安平防守　三十一日北京發電報に曰く三万の露兵は我第一軍に對し安平を守り居れり

◎負傷の敵將　卅一日北京發電報に曰く大石橋にて負傷せる露國將官の内一名は二十八日死去せり　別報に依れば　コンドラウイッチ少將は負傷の爲め右手を切斷せりと

◎旅順陷落切迫　昨三十一日芝罘發電報に曰く威海衛歸客談に依れば英國水雷艇長は黄金山上に日章旗を見るは明朝頃ならんと云ひ又金州より歸來せる支那人も二三日中に旅順陷落の事あるべしと語り居たり

◎桥木城占領　確報に依れば昨三十一日午前我軍は桥木城の敵を攻撃し激戰の後遂に之を占領せり

發行人兼印刷人　原　豐次郎　編輯人　吉田　美朝
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

一二七
215

東京電報（廿六日發）

◎旅順砲臺破壞 二十五日芝罘電報に曰く二十四日夕方旅順を發して來着せし支那人の談に依れば **旅順背面の諸砲臺は概ね破壞され唯椅子山の中央砲臺より微力なる發砲をなしつゝあるを見たりと**

◎露艦解武着手 二十五日上海發電に曰く露艦は **二十六日朝を以て武装を解除すべく** アスコリドは二十八日出渠すべしと

◎旅順の彈藥缺乏 二十五日門司發電に依れば同地へ歸來せる某將校の談に **旅順の敵は彈藥缺乏の爲め稍沈默の姿勢を執るものゝ如し**

◎捕獲事件を是認す 二十五日北京發電に曰く芝罘露艦捕獲事件に付我行爲が非難せし諸外國人等は我政府發表の說明書を見るに及び **日本の態度としては此臨機手段を取るの止むなかりしを是認せり**

◎浦汐敗艦 二十五日佐世保發電に曰くロシヤ、グロンボイ二隻は十七日浦鹽の船渠に入り爾來盡夜兼行にて修繕に着手し居れりと

◎捕獲事件と清廷 二十五日北京電報に曰く清國政府は芝罘の露艦捕獲事件に付き如何なる場合にも **日本の後援を得べきを確信し露國の威嚇手段に對し何等恐怖心を懷き居らずと**

◎逃走狙擊 二十五日芝罘發電に曰くジャンクの談に依れば昨二十四日夕方旅順沖通過の際微かに砲聲を聞きしも其音響は接戰せしものゝあらず **敵の逃走を狙擊**するものゝ如く聞きなされしと

◎大海戰敵の死傷 二十五日佐世保發電に曰く十日の海戰に旅順へ逃げ歸り敵の戰艦四隻の **死傷は戰死將校五名下士卒百名** 負傷將校二名下士卒百五十名なりと

發行人兼編輯人 吉田 泰次郎　印刷人 原 豊次郎
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 公益新報社

（明治二十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年八月廿七日

松陽新報第壹號外

（廿六日午後十時以後着）

東京電報

◎露政府の豫望 二十六日倫敦發電報に曰く露都よりの報告に依れば露國政府は上海露艦の武裝解除するの前日本がレシーテリヌイ事件を再演せずとの條件を豫望し居れり

◎給炭禁止と露都 同電に曰く英領モールタ嶋知事の特殊の場合の外露艦に給炭を禁ずとの告示は露都に於て大不平なりと

◎仲裁說と伯林 二十五日伯林電報に曰く巴里新聞パリシアンは英米獨佛四國は兩交戰國の爲めに媾和に盡力せん事を申出づべしとの論說を揭げたるも伯林にては之を顧るものなし

◎露探銃殺 二十六日門司電報に曰く十七日ダルニーにて露探の嫌疑に依り馬賊二名銃殺せらる

◎地雷破裂 同電に曰く旅順背面にて十九日激烈なる音響の聞ありたるは地雷破裂の爲めならん

◎旅順の空砲 同電に曰く旅順の敵は意外に頑强なる抵抗をなすも糧秣に缺乏せるは勿論彈丸製造場の我砲彈の爲め破壞せられたる爲め補給する能はずして空砲を續け居れりと

◎捕獲決定 横須賀補獲審檢所にては前デジタ、フブリック、タリヤ三隻を捕獲と決定せり

發行人兼編輯人 吉田 美朝 印刷人 原 豐次郎
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

217

明治卅七年八月廿七日

松陽新報第貳號外

東京電報（廿七日發）

◎露艦解武せず 二十六 上海電報ニ曰 **露艦は尚武裝解除の模樣なく依然として修繕を繼續し居りアスコリツトは九月一日迄船渠に存留する筈なり**

◎ス提督被免 二十五日倫敦電報に曰く露都よりの報ニ依れば露國太平洋艦隊司令長官**スクリドロツフ中將は免官されたりと云ふ**

◎玄英運被免 二十四日京城電報ニ曰く玄英運は外國倚頼して國事を誤りし廉を以て本日免官となりたり

◎隨時出入許可 仝電に曰く既電の如く林公使の隨時謁見許可せらたると同時に萩原國府兩書記官齋藤駐屯參謀長等ニ隨時城中に出入を許されたり

◎馬賊横行 二十六日山海關電報ニ曰く康寧縣及び宣州地方ニハ馬賊一隊民家を脅かし十四万テールの財物を掠め又新民屯附近にても馬賊横行し**此地方は無政府の有樣なり**

◎佛船捕獲 二十六日佐世保發電ニ曰 **佛國商船ジヨルチ號**は二三日前戰時禁制品を積載し旅順の封鎖線を破りて航行中黄海にて監視中の我驅逐艦の爲め**捕獲**せらる

◎非戰員に關する廻答 仝電ニ曰く非戰鬪員避難に關する敵の廻答 **辭令頗る鄭重にて大元帥陛下の聖旨は深く感銘するも何分戰鬪中多數の非戰員を避難せしむるの餘裕なく遺憾此上なきも事情止むを得ず謝絶する旨**を記し旅順軍司令官要塞司令官海軍司令官三名連署せりと

◎韓廷の契約に就て 二十五日京城發電ニ曰く今後韓廷と外國との間に於ける**總ての權利契約は必ず本邦公使を經由せざるへからすとの覺書を調印濟**なり

發行人兼編輯人 吉田美朝 印刷人 原豐次郎
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

219

東京電報

（二十七日發午後九時發）

廿七日上海電報ニ曰ク

●露艦解武延期

二十九日迄延期ぜり

●第一軍の活動　我軍の一部は今二十七日未明より安平の敵に對し攻撃開始ぜり

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豊次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
合名會社　新聞報社

明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可

東京電報　（二十八日發）

露船通過　二十七日倫敦發電ゟ曰く、バルチック艦隊に供給すべき炭水を載せたる一隻の露船ボスフヲラス海峽を通過せり

北洋提督の處罰　二十七日伯林發電に曰く、清國政府は北洋水師提督が日本軍艦のレシテリーヌイ捕獲に關し何等措置を取らざりし爲め處罰する旨露公使ゟ通牒せりと

我政府の通牒　露艦ヂアナは柴棍に於て石炭五百噸を積載したり我政府は佛國政府に對し必ず中立を嚴守せらる可きを信ずる旨を通牒せるやに聞く

砲臺攻撃　二十七日佐世保發電報に曰く、老鐵山黄金山の兩砲臺は目下我軍と猛烈なる砲火を交換し居れり

敵艦隊の逸出計畫　又同電に曰く、敵艦隊は尚逸出せんとするもの、如く絶えず港口を捜海し寧日無しと

苦將軍所在地　廿七日門司發電報によればクロパトキンは目下鞍山站遼陽の間に在りと

獨新聞の摘發　英國が絶わず獨逸の態度を非難せるに對し伯林ポストは英國が日露兩國に對し濫船三十八隻を賣却をし事を摘發せり

獨逸皇太子の漫遊　獨逸皇太子殿下には海軍仕官の御勤務ゟて今週世界漫遊の途に上らせらるべしと

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

220

極陽敵軍失策敗北

東京電報（二十八日午後十時以後着）

◎我軍の壓迫と開戰

露兵三四千は又々背進せしも我某軍は既に同地の東方四、六十清里の近くに現はれ之を壓迫せり又他の某軍は二十六日未明より鞍山站方面にて激戰を開始せりと

◎敵の主力

（全電に曰く遼陽敵軍の主力は鞍山站にあり）

◎前哨衝突と敵數

（二十八日門司發電に曰く遼陽歸客の談に依れば我軍は此程より前進を開始し遼陽を距る數里の處に達して攻勢を執り哨は千五百メートルに接近して毎日衝突あり此方面の敵兵は約十四万と註せらる）

◎敵將の苦策

（全電に曰く旅順方面より歸來せる人の談に依れば旅順の敵は士氣甚しく沮喪し兵士の降伏を望むもの多きに依り敵の司令官は旅順の襲攻不落を說くと共に万一防禦効を奏して敵を撃退するに至らば汝等の土地を與へ家族をして安樂の日を送らすべしと甘言以て繰り居れりと云ふ）

◎露人の空想

（羅馬駐紮露國大使曰く露國政府は三年間戰爭を繼續するに足るべき準備を講しつゝあり其一年は旅順港の恢復なり露國當局者は旅順は一度必ず日本軍の手に落つるを期するものなり其二年は滿洲の占領を確實にするものなり其三年は日本を侵襲するものなりと）

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　憲次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
所　在　編　新　聚　社

東京電報（廿九日發）

◎露國の購艦　伯林發電報に曰く倫敦クロニクルが巴里來電として記する所に依れば露國は南米智利、亞爾然丁兩國より軍艦を買入れ佛國々旗の下に亞細亞海面に至り露國々旗を掲揚せん筈なりと

◎バ艦出發延期　同電に曰くバルチック艦隊は十二月迄出發延期との事なり

◎露國新軍編成　露國は滿洲に第二軍を編成し奉天に集中せしめん筈なりと

◎露艦問題の交渉　上海發電報に曰く露艦問題に付き日本政府は露國の國際信義を認めず隨つて兵士の歸國を許さゝるより此の件に付き目下交渉中なり

◎獨新聞の論調　獨逸新聞ツアイツングは露國皇帝のステッセル將軍に與へたる嘉賞の勅語は恰も最後決別の辭たるが如き感ありとし尙ほクロパトキンの地位の困難及び其著ゆる不利益の点を述べ且つ遼陽附近の激戰に關する最近報道は露軍主力の一般退却に對する世人の信念を動かす能はざるものありと結論せり

◎敵艦殲滅　旅順の敵艦は戰鬪力あるものなく港外に出て來るは我一等水雷艇位の驅逐艦のみなりと

◎浪子山占領　黑木第一軍の一枝隊は二十七日浪子山を占領せり

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　公報社

明治卅七年八月卅一日
（第三十四号十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第壹號外

東京電報（三十日發）

◎遼陽附近第一軍戰況

三十日大本營着黑木第一軍司令官報告

軍に對せし敵はコウサチシより寒坡嶺及び大句子北方高地線を經て大西溝北方高地線に亘り數月前より準備したる堅山上の鞏固なる陣地に據り極めて堅固ゝ之を占領せり之に反し我は良好の新築陣地を有せず殊に野砲の如きは本道附近の外之を用ゆられ陣地を缺げり戰況左の如し

左縱隊は二十三日より運動を起さ少敵の敵を驅逐しつゝ二十五日二道河北方高地よりペイリンズイ南方高地に亘る線を占め以て翌日の攻擊を準備し**中央及右縱隊**は二十五日午後より準備運動に就けり二十五日夜半より**中央縱隊**は全歩兵を擧げて敵陣の中央たるキウテウ嶺及び其附近の嶮山に向ひ銃鎗突擊を行ひ其攻擊は大に効を奏し附近の敵の砲兵陣地は全く我が有に歸せりされども敵は近く第二三線の高地ゝ約二兵力を增登して勇敢に砲戰し**激烈なる小銃戰**となり二十六日正午に至るも毫も我の度を減せず加之大安平附近の敵砲は**熾に我を射擊**し歩兵は屢次**恢復攻擊**に出でんとするの形勢を示めせり然るゝ我は地形上有利の砲兵陣地を有せず爲に一時危險ゝ陷らんとせしも遂に能く之を支持し敵を湯河沿の谷地に**壓迫**するを得たり**右縱隊**は拂曉戰よりコウサ嶺七盤嶺及び其中間の地點ゝ向て**夜襲**を行ひ左翼は敵陣を奪取するを得たるもコウサ嶺は遂に全く之を占領するを得ず拂曉と共に**激烈なる銃砲戰**となり連續早晩に及ぶ**左縱隊**も亦拂曉より歩兵の主力を以て大西溝北方高地に向ひ攻擊前進に移り砲兵は大句子北方コウホウジ西北高地ゝ於ける**牛永久的の工事中にある優勢なる敵砲**ゝ對し決戰を求め午後二時より四時に亘る砲戰最も**熾んにして敵砲は時々沈默することあるも遂ゝ之を撲滅するを得ず亦敵の歩兵は兵力を增加し我左翼に壓迫し來り漸次危險を感**するに至れり是を以て同縱隊の攻擊前進は大ゝ**滯**之を要するゝ**軍は敵陣地の中央を突破し敵を兩斷し得たりと雖ども兩翼は夜に入るも尙之を攻略するを得ず**加之二十六日午後四時より起りたる**迅雷大雨**の爲に各山頂は俄に烟霧を以て蔽はれ遂に攻擊の目的を達するに到らずして夜を徹するゝ至り此夜コウサ嶺、太西溝方面に於て敵の企圖せし**數回の逆襲は常に無効に歸し我は此期に乘じコウサ嶺を占領し敵砲八門を奪取せり**

廿七日雲霧を冒して各縱隊は再び攻擊前進に移りたるも敵の一部は依然頑强に抵抗し黃昏に至り漸くコウサンイより孫家寨南方高地を經て大相溝北方高地に亘る線を**占領**するを得たり此戰鬪に於て**最も壯烈を極はめしは**コウサ嶺附近キウテウ嶺附近の夜襲ゝして敵は月明によりて我兵の前進を察知し**激烈に射擊するのみならず岩石を山巔より墜落し**我兵之に觸れ死傷せしもの尠からずされども我兵は頑として射擊を開始せり堅忍不拔以て急峻なる山岳を攀登し敵陣地を突擊せり隨て損害の光景は最も悲慘を極めたり但し夜襲の際に於ける損害は比較的多大ならず又左縱隊方面の敵は頗る優勢なりしを以て同縱隊は苦戰最も力めたり

敵の兵力は歩兵六十五大隊一狙擊隊三軍團及び戰列十軍團の全部並に十七軍團半部砲百二十門にして其大部は遼方向ゝ退却し一部は近く尙ほ軍の前方ゝ停止しあり軍は尙追擊前進を繼續中なり

二十六、二十七兩日の戰鬪ゝて我死傷は將校以下約二千にして鹵獲砲八門彈藥其他多數敵の死傷未詳なるも多大なるべし

海城街道ゝ沿ひ前進したる諸軍は途中若干の敵を驅逐し二十七日朝上石橋子より高家屯を經て咀馬溝以西に亘る線に達し鞍山店より騰鰲堡に亘り堅固ゝ構成せられたる陣地ゝある敵の攻擊に着手せしが敵は抵抗をあすことあく北方ゝ退却の兆候を認めたるを以て軍は直に是に追躡して前進せり

二十八日朝遼陽海城街道以東の地區を追擊せし軍の數縱隊は午前十時鐵群臺大石塘八卦溝に達して敵ゝ追及し退却中なる敵の退路ゝ迫り拉山屯、ハンカロ附近にて大に混雜しある**敵の大部隊に對し猛烈なる追擊射擊を加へたり之が爲め敵は一層混亂して沙河以北に退却**せり同時に街道北西の地區を前進せし軍の一縱隊及砲兵團も八卦溝、頭官屯附近ゝ來着し退却中の敵の大縱隊ゝ追及し**猛烈なる追擊を以て敵を沙河以北に擊攘せり**

右の如くにして海城街道方面に於ける諸軍は**敵を近く遼陽方向に壓迫せり此方面に於ける鹵獲は砲八門彈藥車四輜重車數十**以て敵の退却が如何に混亂せしかを知るゝ足るべし

◎鞍山站集中の所以　二十九日營口電報に曰く露軍の**鞍山站附近に七八万の大兵を集中せしは遼陽の運命一に同地の成敗如何に依りて決せらるゝを以てなりしなりと**

◎朝汐水兵の屍體　二十九日佐世保電報に曰く朝汐乘組水兵石塚源平の屍体二十一日芝ゝ燈臺船の側に漂着したるを發見せり右は旅順レシーテリヌイが芝罘ゝ遁入せし際寺島中尉ゝ從ひ同艦に赴き同艦爆發の爲め海中ゝ吹き飛ばされ戰死せしものなりと

◎遁入露艦の消息　同電に曰く膠州灣青島にて解武したる露艦ツエザレウ井ツチは水線上ゝ蜂巢の如き數多の彈痕あり其の出港する能はざるは尤も大なる彈丸が水平線下の鐵板を破りたるに依る併し大砲機關部ゝは損傷なし**驅逐艦は一隻のみ損傷し二隻は無事也**

▲注意　此號外は本紙に再錄せず

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地　新報社

東京電報

（十三日發）

十二日伯林電報ニ曰〜

◎波艦隊出發と獨逸　バルチック艦隊は愈チウヤウに向けクロムスタットを出發せり然れども獨逸政府は同艦隊のバルチック運河の通過を許さずと

◎英人の戰爭觀　十二日倫敦電報に曰〜日露兩軍の比較的能力に對する英國人の意見漸く一變せんとするの觀あり從來露軍の戰略を輕侮せし軍事批評家は孰れも前說を改めざるべからざるを宣言し開戰以來初めて戰爭の結果を疑ふに至れるが如し

◎戰略の失敗　同電に曰〜テレグラフは大山大將は黑鳩の操縱自由なるに對し戰略に於て全敗せしものなりと論せり

◎南韓の匪徒　十三日釜山電報に曰〜馬山浦に活貧黨六七百出沒し日韓の警察官は其捕縛ニ向へり

發行兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

225

東京電報（十三日發）

◎奉天露人の避難

奉天在留露人は日々滿車にて鐵嶺に避難するもの多く因て露軍は鐵嶺の清人家屋を徵發せり

◎渾河堡の防備

露軍は渾河堡に砲臺十餘坐を築き一坐四門宛の砲を据付居りしが遼陽退敗後

俄に三十餘坐に增加し一坐六門を据付け大に防備を嚴にせりと

渾家堡は奉天の南二里遼陽街道にあり首山堡より遼陽に於けるが如き位置にあり

◎臺灣土蕃の襲來

臺北發電に依れば十日宜蘭縣タイコトウ土蕃搜索隊側巒鐵道作業中

生蕃二百余來襲し南警部以下二十一名戰死せり

◎迂回線開通

貝加爾副迂回鐵道は全く落成今月十三日より開通の筈

◎陸軍陞任

陸軍砲兵大佐　永田龜（野戰砲兵第五聯隊長）
同　隈元政次（近衛野戰砲兵聯隊長）

任陸軍少將

陸軍一等主計正　遠藤慎司
同　黑川秀行　同　吉田丈治

任陸軍主計監

陸軍一等軍醫正　西郷吉義　同　横井俊藏

任陸軍々醫監

發行人兼編輯人　吉田美驃　印刷人　原豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　公益新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年九月十三日

松陽新報第壹號外

東京電報（十二日發）

◎西藏條約調印 倫敦電報に曰く英國印度事務大臣は西藏との條約は九月七日ラッサ府に於て調印せられたる旨の公電に接せり

◎黑鳩の報告 ルーター發電に曰くクパトキン報告に依れば九月八日九日日本軍は何等の見るべき活動を示さず作戰地域内に於て一の戰爭をもせざりき引續き大雨ありて道路乾燥せず又眞修繕を行ふを得ず

◎戰爭永續說 露國新聞ノーウオスケの論に曰く遼陽戰爭は假令日本軍の敗北に歸せしめたらんには決勝戰の性質を有せしあらん然るに實際日本軍の敗北に至らざりしを以て仮令今後幾多の戰爭を觀るも日露戰爭は永續すべし

◎露艦武裝解除は目下武裝解除中なり 十一日伯林發電報に曰く西貢の露艦ヂアナ

◎仲裁說と日露停 仝電に曰く佛國新聞は頻りに獨逸か調停を試むべしと吹聽するも日露共に獨逸の此の擧に出づるを好まずと

◎露軍大損害 仝電に曰く露國側の報告に依るも遼陽戰に於ける露軍の損傷莫大なる事を自白せり

◎右翼軍の追擊戰 十二日門司發某所着の電報に依れば右翼軍の一部は十日フンゼウを占領し尚追擊壓迫中なりと

◎上海露艦出渠 十二日長崎電報に曰く露艦アスコルドは十日滿潮に際し上海の船渠を出渠せり乘組員は艦内に抑留し平和の時を待つべしと云ふ

發行人兼編輯人 吉田 美朝　印刷人 原 豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

226

東京電報（十一日發）

◎遼陽大戰の敵情

公報に依れば遼陽陷落當時の敵情左の如し（捕虜其他の言に依る）

▲敵兵力　遼陽附近の敵兵力は第二第四第五第七第十七軍團と他の部隊とにて遼陽西北面に一、南方面に一、其後方に一、我右翼軍に對し一、大子河右岸に一軍團なりしが如し

▲敵指揮官　首山堡方面の指揮官はスタケルベルクにてミシチエンコ將軍は西南方面よりありしも我右翼の太子河右岸に移りたる爲更ゑ東方に移り太子河右岸より上軍團も此方面に增加せり

▲敵の損害　鞍山站撤去以來敵の死傷者は總計二万五千以上なる事確實なり

▲敵將戰死　ミシチエンコ將軍三日遼陽東方にて戰死せりと

▲敵の退却準備　敵は開戰前より停車場ゑ多數の列車を準備し賊不利なるを見て連續三四日間死傷者と廢棄軍需品とを還送し殘れる軍需品は燒棄したり

▲我軍の鹵獲品　敵は盛んに軍需品を還送し燒棄したるに拘はらず我軍の鹵獲品多數にて其中ダムダム彈を發見せり

◎旅順西港砲擊　上海發電ゑ日〜日本軍は陸上砲臺を占領して旅順西港を砲擊し重要なる建築と船渠をも破壞したる故軍艦は皆東港に逃入れり

◎上海露艦の始末　露艦アスコルド本日午後一時船渠を出づ乘込み兵士は船中に抑留し支那軍艦之れを監視する事とならん

◎伊艦の椿事　京城發電報に曰〜九日仁川碇泊中の伊國軍艦マルボロ彈藥庫より發火し水兵五名即死し八名負傷せり

◎馬賊の行衛　遼陽方面よりし馬賊は忽然其影を失へり奉天に向ひしならんかと雖人は爲めに危ぶめり

◎敗氣露兵の陣地　奉天に於ける露軍の左翼は荒山、黃姑山、小姑山（共に奉天に通ずる鐵道線以南の驛）一帶ゑ右翼は林家台、青堆子（共に渾河右岸よりあり）附近にありて日本軍の追擊急なり

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　松陽新報社

東京電報（十日發）

◎波艦隊親閲 倫敦電報に曰く在クロンスタット軍港ルーター通信員の報に依れば露國皇帝はバルチック艦隊の各艦を親閲したり同艦隊は十日同港解纜の筈

◎露艦解武せず 伯林電報に曰く西貢に逗入の露艦ヂアナは尚ほ武裝解除せず石炭積込中なりと

◎露國の動員 同電に曰く露國は新にウ井ルナ外三縣に於て二個軍團の動員を行ひたり

◎豫算査定方針 來年度豫算概算は文部農商務の外各省の分總て主務省に送付濟みとなれり其査定方針は不成立となりし三十七年度豫算案編成當時に決定せる節約及び繰延に依り前年度歳出より約四千八万圓を緊縮するを標準として歳出歳入の均衡を計るならんといふ

發行兼編輯人 吉田 美朝　印刷人 原 豐次郎
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地
松陽新報社

明治卅七年九月九日

松陽新報第貳號外

（明治三十六年十一月廿三日第三種郵便物認可）

東京電報（九日）

◎敵軍奉天到着　八日倫敦電報に曰く〜クロパトキンの報告に依れば露軍本隊は奉天に着せり依て一時同地に駐屯し各防禦線へ兵員を配置せんとす西方にある日本軍は目下露軍に取り危險の恐れあるも露軍は之を沮止し居れり

◎退却露軍の危機　九月六日附在奉天ルーター通信員發電報に曰露軍の一部は五日夜に亘り丘陵上の日本軍より絶えず砲撃を受け本隊と遮斷せられんとするの危險に會したりと

◎旅順の彈藥缺乏　八日佐世保電報に曰く旅順よりは我水雷艇の夜襲を恐れて之に備ふるが爲め尚水雷を沈設しつゝあるも爆發藥缺乏の爲め砲彈の炸裂藥を抜き取り水雷に裝置し居るを以て敵艦より陸上の我軍に向け發射する彈丸は近來殆んど炸裂するものなきに至りたりと語れりと

發行兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

東京電報（八日發）

◎ノーウ井ツク偵察

我分遣艦隊幕校の談に依れば樺太コルサコフ港燈臺の南西九百メートルの處に坐礁破壊せる敵艦ノーウキツクは右舷に約三度傾き前甲板の外全部水中に沈み上甲板の水淺き處と云へども膝を没する程なり水上に現はれたる部分にては司令塔入口其他大破損をなし又右舷中央の水線部分にも大損所ある如くなるも水中にあるを以て十分調査するを得ず要するに損害程度頗る大なり此の偵察中陸上數個所より射撃を受けしも我に損害なかりしと

◎遼陽戰評

八日倫敦電報に曰く遼陽戰爭に關しデーリーテレグラフは論して曰く今回日本軍の大捷は古來各國の最大成功中の一に屬し東洋にては既往の歴史に其類例を見ず日本は此の事實に依りて一大國たる主張を完成せり

◎英艦の訓令傳達

仝電に曰く英國軍艦フオールト號は蓋國義勇艦隊汽船スモーレンスク外一隻に露國皇帝の訓令を傳達せり

◎浦塩近報

八日門司電報に曰くノールウエー汽船の齎らせる報導に依れば露國巡洋艦ボカチールは既に修繕を終りて船渠を出たりロシヤかグロムボイは不明なるも一隻の軍艦は浮船渠に入り晝夜修繕に從事し居れり其完成は本月末ならん浦塩市中は陸兵を以て滿され水雷艇六七隻は港内より港外に遊弋し居りたりと

◎旅順の敵艦

八日發佐世保電報に曰く旅順封鎖艇の報告に依れば目下旅順港内の敵艦は戰鬪艦五隻の外入渠中の巡洋艦二隻驅逐艦八隻にして水雷艇は悉皆浦鹽に廻送せられありと云ふ

發行兼編輯人　吉田　美鄕　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

九月八日

松陽新報號外

東京電報（七日發）

◎新任露國內相 七日ルーター發電に曰く露國參議院議員プラトノフは內務大臣に新任せらる

◎露艦引返し 六日伯林發電に曰く露國は地中海紅海印度洋に在る補助巡洋艦に向ひバルチック海に歸航すへきを命せり

◎露帝親閱 仝電に曰く露國皇帝は戰鬪艦七隻巡洋艦六隻より成るバルチック艦隊を檢閱せり

◎露軍の包圍 ルーター電報に依ればクロパトキンは諸部隊を烟臺北方に集中するを得たり但し昨夜（五日か）其後衞は日本軍の爲めに全滅せられたり又其主力も包圍せられつゝあり

◎英露協商の日的 伯林發電に曰く露國宰官報ノーウエ、ウヘミヤ新聞は露國が浦鹽と蘇士との間に艦隊碇泊場を得んが爲め英露協商をなすべしとの意を唱導せり

發行人兼編輯人 吉田 美朝　印刷人 原 豊次郎
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治四十年九月七日

松陽新報第貳號外

東京電報（六日發）

◎ヂ艦解武公報　柴根逝入露密ヂアナは武装解除に決

したる旨公報ありたり

◎露兵召集の模様　維也納七月二十七日發電報に曰くデイーツアイト新聞は露兵召集の有様を記して曰く軍事當局者の手段は著しく民間の憤怒を招きたり幸は召集に應じて其到達の遲速に依り遲着者を先づ軍隊編入する事と定めたれば妻子係累あるものは之れを服し獨身壯年者は却て免るゝの結果を來し又賄賂も行はれたればあり故に營内に於て將校に對し罵詈をなす者も將校亦罰する得ずと又た同通信員豫備兵が白晝泥酔して金持は召集されず我等貧民のみが戰爭に出さるゝ亂暴政府と絶叫し將校及軍事當局者邸宅の戸硝子を破壞し警官の之を制せんとせしも難多の通行人に妨げられたり又クロスク停車場にては多數の召集兵闖入し賣店の飲食物を强奪し益々亂暴を働かんとするを以て右賣店主人より二十五ルーブルを亂暴兵士に送りて漸く暴行を免れたりと云ふ

◎優詔滿洲軍に下る　本日滿洲軍に對し左の優渥なる勅語を賜ふ

遼陽は敵の兵略要地となし夙に防備を嚴にし軍士を集積し全力を竭し死守せし處全滿洲軍萬死を冒し百難を排し奮戰し激鬪數晝夜を連ね終に之を拔く朕深く其功烈の偉大なるを嘉す願に其剿策愼重にして果斷其運動整齊にして敏活而して爾將卒之を貫くに忠誠勇武を以てするに非らざれば易ぞ能く是に至るを得ん抑も策戰の前途は尚ほ遼遠あり爾將卒夫れ自愛堅忍更に全局の大成を期せよ

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

明治三十七年九月七日

松陽新報第壹號外

東京電報（六日發）

◎遼陽占領戰詳報

六日大本營着滿洲軍總司令部報告

我諸軍は八月下旬鞍山站湯河沿附近の攻擊運動を開始せり其經過左の如し

右翼軍は八月二十四日より運動を開始し二十五日夜より二十七日ニ亘り激戰の後敵を擊退して紅沙嶺孫家寨高麗寺ニ亘る線を占領して尙ほ追擊を續行し二十九日ニイシユハ石咀子向山子の線に達し三十日夜より三十一日に亘り軍は其主力を鎌刀灣に於て太子河右岸に移し其の一部を太子河左岸に殘留し中央軍と連繫して動作せしめたり軍の主力は九月一日より黑英臺西方附近にある敵に向ひ攻擊を開始せしが敵の抵抗頑强にして且つ同日よりの兵力增加せしを以て攻擊容易に進捗せず然れども四日間に亘る激戰の後四日正午過ぎ遂ニ敵の陣地を略取せり四日太子河左岸にありし同軍の一部を更ニ太子河左岸に移したり

中央及左翼軍は二十六日より運動を開始し敵を壓迫して二十七日下石橋子、高家屯、蘇馬台の線に達す然るニ此日カホウシン、鞍山店の防禦陣地に據れる强大なる敵は遼陽方面ニ退却を始めたり依て中央及左翼軍は直ニ追擊に轉じ敵の一部隊を驅逐しつゝ二十九日中央軍は潘家嶺、沙河の線に左翼軍は沙河、漁家台の線に達す敵はヤユチ北方高地より早飯屯南方高地、新立屯東西の兩高地を經て首山堡西方高地ニ亘り堅固ニ陣地を構成しあり故に中央軍は更に之が攻擊に着手せり此の狀況ニ於て左翼軍は首山堡附近の敵を攻擊して中央軍の戰況ニ應じ協力敵を攻擊せり三十日中央軍の右翼は右翼軍の左翼たる一部と共にヤユチ北方高地より早飯屯南方高地に亘り占領せる敵に對して攻擊を開始せしも敵は遼陽方面より强大なる後援を得中央軍の右翼は其略取したる位置を一時支持するの止むを得ざるニ陷りたり此戰況ニ於て本官は左翼軍に命じ一意迅速に首山堡附近に敵を擊破すべの任務を與へたり同日中央軍の左翼及左翼軍も亦新立屯及首山堡附近の敵に對して攻擊を開始せしニ敵は頑强ニ抵抗し屢々逆襲を試み攻擊甚だ困難なりし然れども南方面の敵は我軍の連日連夜の猛烈なる攻擊ニ堪へず三十一日夜半に至り終に我軍の擊退するに任せとなり遼陽方向に退却し兩軍は直に追擊に移りたりしも敵は再び遼陽城の南端及西端を圍繞せる堅固の堡壘線及木廠東北方高地ニ據り頑强ニ抵抗し我兩軍は九月一日より三日の夜に至る迄遼陽に對する攻擊を繼續し敢以終ニ敵壘線を奪取し四日朝全く遼陽を占領せり

敵は三十日に至る迄汽車にて增加兵を遼陽に輸送したるの徵候あり而して我ニ對せし敵の兵力は未だ詳ならざるも總數少くも約十二師團なるべし今や敵の大部は未だ烟臺以北に退却せざるものゝ如く其一部は迎水寺附近に停止しあり停車場附近の倉庫及鐵道橋並ニ大子河の架橋は敵之れを燒棄せり我左翼軍中央軍は太子河左岸に停止し一部隊を以て木廠北方高地及鐵道橋附近を占領する筈なり

廿五日以來の我損害ニ就ては未だ精確なる報告ニ接せずと雖も多大の數ニ達すべし敵の損害に就ては未詳なり敵が全力を擧げて牢永久的に構築せし數段の防禦線に對し十日間ニ亘る攻擊を以て終ニ目的を達し多大の犧牲あるニも拘はらず士氣頗る旺盛なり

發行人兼編輯人　吉田　美穗　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報

233

松陽新報 第[illegible]號 大正[illegible]年[illegible]月[illegible]日 第[illegible]種郵便物認可

東京電報

（五日午後十時以後着）

◎在韓領事會議

京城發電五日〜五日より領事會議を開かれ林公使より我對韓政策の方針を訓示せり

◎加藤增雄氏

仝電五日〜加藤增雄氏は新に宮內顧問の契約を爲さすして其職を見ることゝなれり

◎韓國外交顧問

韓國外交顧問は米國人スチーブンスを推薦するあとに決したり

◎廣西省の暴徒

廣西省潯州にて暴徒の爲め佛國居留民迫害せられ佛國領事は目下嚴談開始中あり

◎御慰問使

滿洲軍遼陽占領の勞苦を思召され御慰問使として侍從武官伊藤少佐及高階侍醫を差遣の御沙汰ありたり同一行は來る八日夜新橋出發の筈なり

◎遼陽敗賊の敵

上海發電に曰〜

遼陽より擊退されたる露軍は烟臺に集中しつゝあり

◎戰捷と伯林

伯林發電五日〜日本軍の遼陽戰捷の報伯林に傳はるや更に日本に對し

大なる注意を喚起し深き印象を起さしめたり

◎ワ、コ兩艦の乘組員

ワリヤーク、コレーツ兩艦の乘組員は今回露國內地の航海に使役せらるゝことゝなれり

發行兼編輯人 吉田 美朝　印刷人 原 豐次郎
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

松陽新報

中央交戰軍

六日大本營發表滿洲軍總司令官發表

遼陽占領後の戰鬪

東京電報

（六日）

◎

[illegible]

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）
明治卅七年九月六日
松陽新報第壹號外
（五日發）

東京電報

◎遼陽戰敵の公報

露都發ルーター電報ニ依れば三日附クロパトキンの報告左の如し

昨夜敵はシクワンタンの露軍陣地を攻撃し其大部を奪取せり同陣地に至る露軍はシャンスンタンとシファンザの間にて護衛 保持せゝ陣地迄引揚く西伯利亞

第一軍團は最近五日間に**多大の損害**を受け且つ側面を衝かるゝ恐あり故同夜敵キロメートル西へ**退却**せり右の形勢かるを以て本職は**遼陽の北に退却を命す**

サハロフ參謀長報告

三日シクワンタンの諸高地を攻撃 西方の山地を占領す**日本軍は此前面を占領しつゝ烟臺より太子河迄地雷を布設ぜり**オルロフ將軍の枝隊は前進（此間電文不明）若干距離 到りしゝ**優勢の敵に會し退却しオルロフ將軍負傷ぜり**

スタケルベルグの西比利第一軍團は退却中日本軍の前進を制し**オズルスキー將軍重傷を負ふ午後九時遼陽の外戰鬪休止**し遼陽守備軍より敵に對する**大攻撃は撃退さると報ぜり**

二個聯隊は敵勢測定の爲め二師團と對抗せり本日の損害死傷**約三千**

◎營口の清民旭旗を掲く

遼陽の占領の報傳はるや營口の支那人は悉く日本國旗を掲げ祝意を表せりと

◎參謀本部の祝賀會

昨元老山縣大臣陸海軍務枢密本日午後六時より參謀本部より遼陽占領の祝賀會を開けり

◎遼陽戰爭とタイムス

遼陽戰爭に關し倫敦タイムスは論じて曰く今回の遼陽の大決戰は亞細亞に於ける近世の大會戰にして日本は慥に勝利を制したり單に兵數のみを以てするも確に世界の大戰爭に數へざる可からず尤も此戰爭を以て彼等が十分に戰勝の果實を收め以て戰局の大勢を左右すべき一段落たらしむるや否やは未だ知るべからず云々

發行人兼編輯人 吉田 美朝 印刷人 原 豐次郎
發行所 島根縣松江市殿町四十三番地 松陽新報社

235

236

東京電報（四日發）

四日倫敦發電報に曰く英國にて募集せる日本陸海軍人遺族救助金は二万磅に達せり

四日京城發電に曰く本日の萬壽節終りたる後各大臣は辭表を捧呈せり

●韓内閣更迭

大臣の更迭ある筈

●李公使被免

國電に曰く駐露韓國公使李範晋の免官發表せらる

●アスコリット

四日上海發電報に曰く露艦アスコリットは滿潮を俟て出渠する筈なり

●大捷祝電

遼陽占領の報あるや山縣參謀總長桂首相山本海相寺内陸相伊東海軍々令部長其他より大山總司令官兒玉總參謀長へ宛て祝電を發したり

發行人兼編輯人　吉田美雄　印刷人　松本久
島根縣松江市殿町四十三番地
發行所　合名會社新報社

237

東京 遼陽 九月一日

松陽新報 第壹參號 號外

東京電報（一日發）

遼陽一部占領

公報に依れば我軍は遼陽の一部を占領せり（至急電報）

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎
發行所　島根縣松江市殿町四十三番地
松陽新報社

明治卅七年九月一日

（明治三十四年十一月五日第三種郵便物認可）

松陽新報第貳號外

東京電報（一日發）

倫敦電報に曰く露都よりの報に依ればバルチック艦隊演習中一軍艦内にて十六サンチ砲破裂し艦長以下三十名即死し外に二艦の進退自由を失ひしものありと

◎波艦隊の椿事

◎遼陽附近戰敵報

企電2日〜サハロフ將軍の三十日附報告に曰〜日本軍は遼陽に向け戰鬪線全部に對して進軍し居れり其攻擊の主力は露軍の中央隊及右翼方面に當りて露軍の損害頗る大なり日本軍は夜を撤して露軍の陣地の射距離内に多數の砲兵を配置せり今朝九時に至り日本軍は露軍の中央部隊方面には甚しく接近せりと

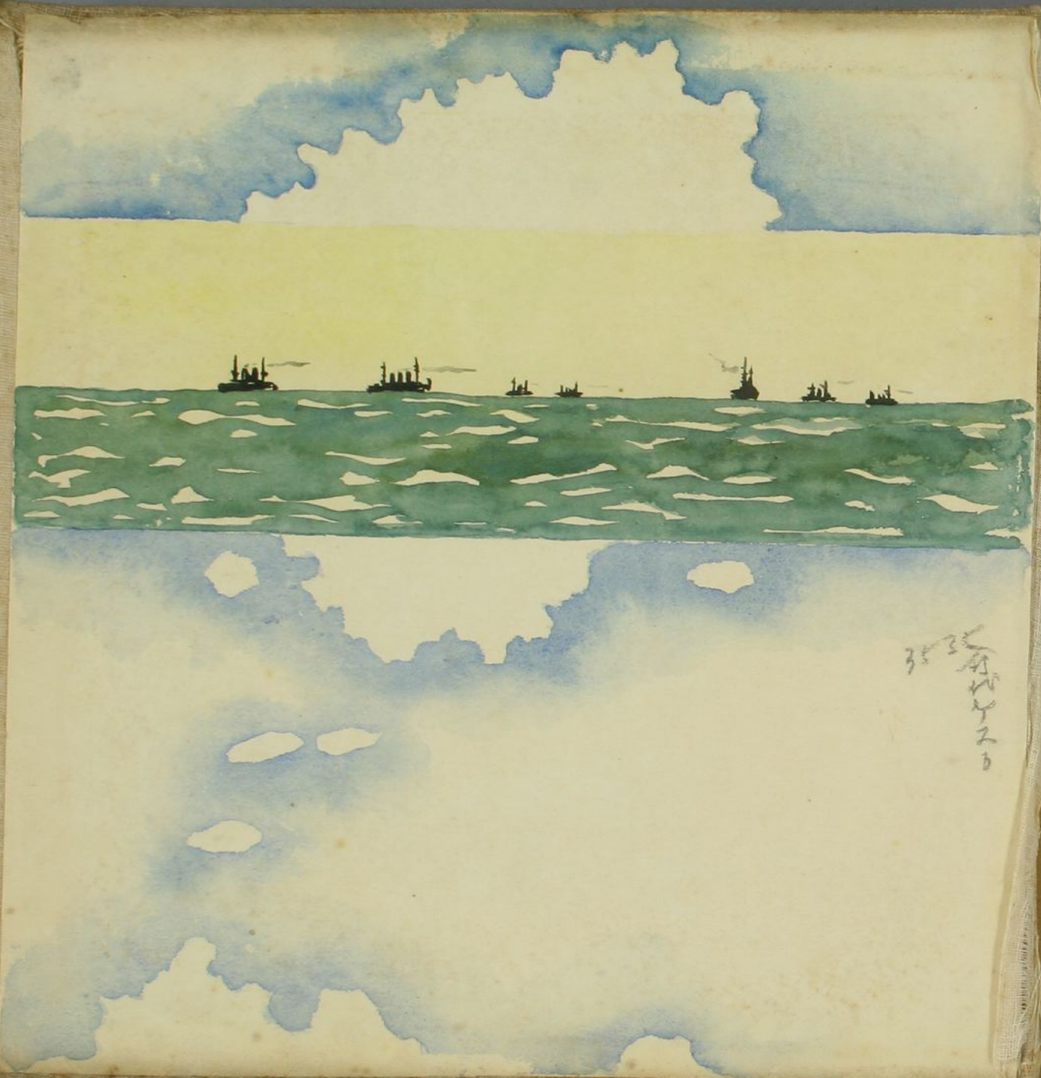
◎黑鳩の慰問

企電に曰〜クロパトキンは旅順の守備兵に對し其救援軍の到着する迄更に一個月間同地を保持ぜん事を求めたりと傳ふ

發行人兼編輯人　吉田　美朝　印刷人　原　豐次郎

島根縣松江市殿町四十三番地　松陽新報社

238上



陸氏四家寶